

Oracle I/O ドメイン管理ガイド



Part No: E62188-02
2016 年 9 月

Part No: E62188-02

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用	9
製品ドキュメントライブラリ	9
フィードバック	9
I/O ドメイン作成ツールについて	11
I/O ドメイン作成ツールの概要	11
管理者ナビゲーションパネル	12
ユーザーナビゲーションパネル	13
▼ ツールのバージョンの確認	15
I/O ドメインの要件	16
IP アドレスの最小数	16
管理タスクの概要	17
I/O ドメイン構成タスクの概要	18
SuperCluster ドメインについて	21
SuperCluster ドメインの概要	21
I/O ドメインのリソース	22
ツールの初期化および構成	25
▼ ツールの初期化	25
▼ ネットワークの設定	28
▼ セキュリティー設定の構成 (管理者)	31
▼ IP アドレスの割り当て方法の構成 (管理者)	33
ツールへのアクセス	35
▼ I/O ドメイン作成ツールへのログイン	35
▼ I/O ドメイン作成ツールからのログアウト	37
ツールチップ	37
リソースとネットワークの管理	39

I/O ドメインのストレージリソース	39
▼ システムリソースの表示	40
▼ ネットワークリソースの表示	42
▼ ネットワークの追加または編集 (管理者)	45
I/O ドメインでのファイバチャネルインタフェースのサポート	47
▼ 追加されたストレージサーバーをツールに構成する (管理者)	47
 ユーザーアカウントの管理	49
ユーザーのロールおよび権限	49
▼ I/O ドメインのユーザーおよびリソース割り当ての計画	50
I/O ドメインユーザーのワークシート	51
▼ ユーザーの表示	52
▼ ユーザーの追加 (管理者)	52
▼ ユーザーへのリソースの割り当て (管理者)	54
▼ リソース割り当て量の表示	56
▼ パスワードの変更	57
▼ パスワードのリセット要求	58
▼ ユーザーのパスワードの変更 (管理者)	59
▼ ユーザーのパスワードのリセット (管理者)	61
▼ ユーザーの電子メールアドレスまたはロールの編集 (管理者)	64
▼ ユーザーの削除 (管理者)	65
 レシピとテンプレートの管理	67
デフォルトのリソースレシピ	67
▼ レシピの表示	68
▼ リソースレシピの作成	70
▼ ネットワークレシピの作成	72
▼ レシピの編集	74
▼ レシピの削除	75
▼ OVM テンプレートのアップロード (管理者)	75
 I/O ドメインの構成および配備	79
▼ I/O ドメインの作成方法の選択	79
I/O ドメインを構成するために必要な情報	80
▼ I/O ドメインを表示します	83
▼ データベース I/O ドメインの構成	86
▼ SCAN ネットワークの名前の変更	92
▼ アプリケーション I/O ドメインの構成	92
▼ OVM テンプレートを使用した I/O ドメインの構成	98

▼ I/O ドメインのリソースの増減	105
▼ I/O ドメインの配備	108
▼ Oracle Enterprise Manager のテキストファイルのエクスポート	110
I/O ドメインの削除	113
▼ クラスタからの単一ノードの削除	113
▼ クラスタ内のすべてのノードの削除	114
▼ I/O ドメインの削除	115
アクティビティ、リソース変更、およびツールの健全性のモニタリング	117
▼ 配備アクティビティとリソース変更のモニター	117
▼ ツールのアクティビティのモニター (管理者のみ)	118
▼ I/O ドメイン作成ツールの健全性のモニター (管理者のみ)	119
I/O ドメインのデータベースを構成するための準備	123
▼ I/O ドメインのデータベースを構成するための準備	123
▼ データベース I/O ドメイン用ストレージサーバーのディスク領域の確 認	124
▼ OEDA の最新バージョンの入手	125
▼ 最新のデータベースバイナリファイルの入手	127
データベース構成ファイルの作成 (OEDA)	129
重要な注意	129
▼ XML 構成ファイルのエクスポート	130
▼ OEDA の起動	131
▼ 最新の構成ファイルのインポート	133
▼ 既存の構成情報の確認	134
▼ 「Identify Compute Node Operating System」 ページの確認	135
▼ 「Management and Private Networks」 ページの確認	136
▼ 「Define Clusters」 ページへの入力	138
▼ 「Cluster」 ページへの入力	141
▼ クラスタの「Review and Edit SCAN, Client, VIP, and Optional Backup Networks」 ページへの入力	144
▼ 残りの構成情報の確認	146
▼ 構成ファイルの生成	146
I/O ドメインへのデータベースのインストール	149
重要な注意	149

▼ データベースのインストール (install.sh)	149
用語集	153
索引	161

このドキュメントの使用

- **概要** – Oracle I/O ドメイン作成ツールを使用して Oracle SuperCluster I/O ドメインを管理する方法について説明します
- **対象読者** – I/O ドメインの管理者およびユーザー
- **必要な知識** – SuperCluster のドメインおよびリソースの構成に関する経験

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは次から入手可能です。

- SuperCluster M7 ライブラリ – http://docs.oracle.com/cd/E58626_01
- SuperCluster M6-32 ライブラリ – http://docs.oracle.com/cd/E41531_01
- SuperCluster T5-8 ライブラリ – http://docs.oracle.com/cd/E40166_01

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

I/O ドメイン作成ツールについて

次のトピックでは、ツールの概要について説明します。

- [11 ページの「I/O ドメイン作成ツールの概要」](#)
- [12 ページの「管理者ナビゲーションパネル」](#)
- [13 ページの「ユーザーナビゲーションパネル」](#)
- [15 ページの「ツールのバージョンの確認」](#)
- [16 ページの「I/O ドメインの要件」](#)
- [16 ページの「IP アドレスの最小数」](#)
- [39 ページの「I/O ドメインのストレージリソース」](#)
- [17 ページの「管理タスクの概要」](#)
- [18 ページの「I/O ドメイン構成タスクの概要」](#)

I/O ドメイン作成ツールの概要

注記 - このガイドでは、ブランチ 2.2.0.873 で識別されるバージョンのツールについて説明します。[15 ページの「ツールのバージョンの確認」](#)を参照してください。

I/O ドメイン作成ツールでは、SuperCluster システム上の I/O ドメインのライフサイクルを管理できます。I/O ドメインの作成と削除、および CPU、メモリー、I/O リソースの割り当てと割り当て解除を必要に応じて行うことができます。ツールは事前に定義されたストレージ量を自動的に計算し、選択された CPU およびメモリーリソースに基づいてスワップとダンプのための追加リソースを計算します。

管理者アカウントから、完全または限定された権限および無制限または制限されたリソースを持つ、追加のユーザーアカウントを作成できます。その後、ユーザーは自分の I/O ドメインを作成できます。

管理者とユーザーはリソースとネットワークのレシピを作成できます。これらは、I/O ドメインに特定量のリソースを自動的に割り当てるために使用されます。

管理者とユーザーはツールを使用して、Oracle Solaris とアプリケーションを実行する I/O ドメイン (アプリケーション I/O ドメイン)、または Oracle データベースを実行する

I/O ドメイン (データベース I/O ドメイン) を作成できます。ドメインの詳細については、[21 ページの「SuperCluster ドメインの概要」](#)を参照してください。

ツールを使用して I/O ドメインを配備するとき、ツールはいくつかの複雑なアクティビティをバックグラウンドで実行して、I/O ドメインを構成し OS をインストールします。また、OVM テンプレートを使用して I/O ドメインを作成することにより、特定のアプリケーションのインストールと構成も自動化できます。

管理者はツールを使用して、配備アクティビティとツールアクティビティをモニターしたり、I/O ドメインの健全性のステータスを取得したりできます。

管理者ナビゲーションパネル

このツールはブラウザ内で実行されます。左側のナビゲーションパネルからはさまざまな機能にアクセスでき、これらの機能はユーザーロールによって異なります。

管理者ロールを持たないユーザーは、オプションの一部にのみアクセスできます。詳細については、[13 ページの「ユーザーナビゲーションパネル」](#)を参照してください。

管理者ロールを持つユーザーに表示される内容の例を次に示します。

The screenshot shows the Oracle IO Domain Creation Tool interface. The left sidebar contains a navigation menu with items like IO Domains, Recipes, OVM Templates, Network Resources, Physical Hosts, Deployment Queue, Users and Allowances, Settings, Health Monitor, System Log, and Profile. The main content area is titled 'IO Domains' and displays a 'List of IO Domains' table. Below this table is a 'List of SCAN Address Groups' table.

ID	Hostname	Domain Type	Physical Host	Owner	RAC ID	State	Details
5	fred	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 1	service	n/a	Ready for Use	View
6	db-test-1	Oracle Database Domain	M7 PDom 2	admin	1	Ready for Use	View
7	app-test-1	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 1	admin	n/a	Ready for Use	View
8	db01-mgt	Oracle Database Domain	M7 PDom 1	admin	1	Resources Allocated	View
9	app01-mgt	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 2	admin	n/a	Ready for Use	View
10	WLogic01	Weblogic 12.1.3 Sol 11.3 b22	M7 PDom 1	admin	n/a	Resources Allocated	View
11	AppABC	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 2	user01	n/a	Ready for Use	View
12	dbXYZ	Oracle Database Domain	M7 PDom 1	user01	1	Resources Allocated	View
13	WebLogic	Weblogic 12.1.3 Sol 11.3 b22	M7 PDom 1	user01	n/a	Resources Allocated	View

Hostname	Address 1	Address 2	Address 3	Owner	RAC ID
io-scan-2	147	148	149	admin	1
io-scan-3	150	151	152	user01	1

ナビゲーションパネルからは次の機能にアクセスできます。

- **I/O ドメイン** – システム上に構成されている I/O ドメインおよび SCAN アドレスグループを表示します。この画面から、I/O ドメインの追加、編集、削除、配備、およびデキューにもアクセスできます。また、データベース作成用および Oracle Enterprise Manager 用の構成ファイルをエクスポートすることもできます。
- **レシピ** – コア、メモリー、およびネットワークの構成用の事前設定されたリソース割り当てを表示します。これらは、I/O ドメインのリソースを構成するために複数回に使用できます。用意されているデフォルトのレシピを使用するか、または独自のレシピを作成することができます。
- **OVM テンプレート** – OS とアプリケーションの構成の組み合わせを提供する OVM テンプレートをアップロードし、あとでこのテンプレートを使用して、自動的にそのアプリケーション用に構成される I/O ドメインを作成できます。
- **ネットワークリソース** – I/O ドメインによって使用されるネットワークリソースを表示および管理します。
- **物理ホスト** – システム上のすべてのリソースと、割り当て済みおよび使用可能なリソースの量を表示します。
- **配備キュー** – I/O ドメインの配備および保留中のリソース割り当て変更のステータスを表示します。
- **ユーザーおよび割り当て量** – ユーザーの表示と管理、およびユーザーのリソースの割り当てを行います。
- **設定** – パスワードのセキュリティ設定を構成し、システムに追加されるストレージサーバーのタイプを指定します。
- **ヘルスマニター** – ツールのステータスをモニターし、検出された失敗を管理します。
- **システムログ** – タイムスタンプの付いたツールアクティビティを表示します。
- **プロファイル** – ユーザーのパスワードまたは電子メールアドレスを変更します。

この例では、I/O ドメインを一覧表示する「I/O ドメイン」画面が表示されています。このユーザーは管理者ロールを持っているため、所有者にかかわらず、すべての I/O ドメインが表示されています。「I/O ドメイン」画面の詳細については、[83 ページの「I/O ドメインを表示します」](#)を参照してください。

関連情報

- [13 ページの「ユーザーナビゲーションパネル」](#)
- [49 ページの「ユーザーのロールおよび権限」](#)

ユーザーナビゲーションパネル

管理者以外のユーザーは、ツールの機能の一部のみを使用できます。ナビゲーションパネルのオプションは少なくなります。追加の詳細ビューが使用できない場合もあ

ります。管理者とユーザーの相違点の詳細については、[49 ページの「ユーザーのロールおよび権限」](#)を参照してください。

管理者ロールを持たない通常のユーザーに表示される内容の例を次に示します。

The screenshot shows the Oracle IO Domain Creation Tool interface. The top navigation bar includes 'About', 'Refresh', and 'Logout' buttons, along with user information: 'User: user01 » Role: User » Language: en'. The left sidebar contains a 'NAVIGATION' menu with options: 'IO Domains' (selected), 'Recipes', 'Network Resources', 'Physical Hosts', 'Deployment Queue', and 'Profile'. The main content area is titled 'IO Domains' and contains two sections:

List of IO Domains

ID	Hostname	Domain Type	Physical Host	Owner	RAC ID	State	Details
11	AppABC	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 2	user01	n/a	Installing OS	View
12	dbXYZ	Oracle Database Domain	M7 PDom 1	user01	1	Resources Allocated	View
13	WebLogic	Weblogic 12.1.3 Sol 11.3 b22	M7 PDom 1	user01	n/a	Resources Allocated	View

List of SCAN Address Groups

Hostname	Address 1	Address 2	Address 3	Owner	RAC ID
io-scan-3	150	151	152	user01	1

ナビゲーションパネルからは次の機能にアクセスできます。

- **I/O ドメイン** – システム上に構成されている I/O ドメインおよび SCAN アドレスグループを表示します。この画面から、I/O ドメインの追加、編集、削除、配備、およびデキューにもアクセスできます。また、データベース作成用および Oracle Enterprise Manager 用の構成ファイルをエクスポートすることもできます。
- **レシピ** – コア、メモリー、およびネットワークの構成用の事前設定されたリソース割り当てを表示します。これらは、I/O ドメインのリソースを構成するために複数回に使用できます。用意されているデフォルトのレシピを使用するか、または独自のレシピを作成することができます。
- **ネットワークリソース** – I/O ドメインによって使用されるネットワークリソースを表示および管理します。
- **物理ホスト** – システム上のすべてのリソースと、割り当て済みおよび使用可能なリソースの量を表示します。
- **配備キュー** – I/O ドメインの配備および保留中のリソース割り当て変更のステータスを表示します。
- **プロファイル** – ユーザーのパスワードまたは電子メールアドレスを変更します。

注記 - この例では、I/O ドメインを一覧表示する「I/O ドメイン」画面が表示されています。このユーザーは管理者ではないため、このユーザーが所有する I/O ドメインのみが表示されています。

関連情報

- [12 ページの「管理者ナビゲーションパネル」](#)
- [49 ページの「ユーザーのロールおよび権限」](#)

▼ ツールのバージョンの確認

I/O ドメイン作成ツールは、最新バージョンのソフトウェア機能拡張がインストールされた SuperCluster で使用可能です。このツールは `osc-domcreate` パッケージの一部です。

注記 - このガイドでは、ブランチ 2.1.0.813 で提供されているバージョンのツールについて説明します。

ツールが SuperCluster で使用可能であるかどうかを確認し、ツールのバージョンを識別するには、次のタスクを実行します。

1. 管理ネットワークで、最初の計算サーバー上の制御ドメインにログインします。
2. `pkg info` コマンドを使用してツールのバージョンを表示します。

出力内の `Branch` の値がツールのバージョンを示します。

例:

```
$ pkg info osc-domcreate
   Name: system/platform/supercluster/osc-domcreate
  Summary: Oracle SuperCluster IO Domain creation tool
 Description: Oracle SuperCluster IO Domain creation tool
    State: Installed
   Publisher: exa-family
    Version: 0.5.11
  Build Release: 5.11
     Branch: 2.2.0.862
Packaging Date: Sun Jul 24 01:33:23 2016
      Size: 18.76 MB
    FMRI: pkg://exa-family/system/platform/supercluster/osc-domcreate@0.5.11,5.11-2.1.0.805:20160427T174654Z
$
```

注記 - `pkg info` コマンドからパッケージ情報が返されない場合、ツールはシステムにインストールされていません。

関連情報

- [11 ページの「I/O ドメイン作成ツールの概要」](#)
- [16 ページの「IP アドレスの最小数」](#)

- [39 ページの「I/O ドメインのストレージリソース」](#)

I/O ドメインの要件

I/O ドメインを作成する前に、システム管理者は、次の要件が満たされていることを確認する必要があります。

- Oracle の担当者がソフトウェアの初期インストールおよび構成を完了し、構成ワークシートに指定されているとおりにルートドメインを作成しました。
『Oracle SuperCluster T5-8 オーナーズガイド』、または使用しているモデルの概要ガイドを参照してください。構成ワークシートも参照してください。
- `osc-setcoremem` ツールを使用して、すべての専用ドメインの CPU およびメモリリソースが必要に応じて構成されています。I/O ドメインを作成したあとは、`osc-setcoremem` ツールを使用してリソースを変更することはできません。
- Oracle I/O ドメイン作成ツールが SuperCluster 上で使用可能である必要があります。[15 ページの「ツールのバージョンの確認」](#)を参照してください
- ツールを初期化するには、システムの構成を記述する XML ファイルへのアクセス権が必要です。このファイルの名前と場所を Oracle の担当者から入手してください。
- I/O ドメイン用に追加の IP アドレスを用意する必要があります。[16 ページの「IP アドレスの最小数」](#)を参照してください。
- ブラウザがセキュアな SSL プロトコル (TLS バージョン 1.2 以上) をサポートしている必要があります。ブラウザの最新バージョンを使用していることを確認してください。

作成される各 I/O ドメインに、追加の必須情報が必要です。これらの詳細については、[80 ページの「I/O ドメインを構成するために必要な情報」](#)を参照してください。

関連情報

- [11 ページの「I/O ドメイン作成ツールの概要」](#)
- [16 ページの「IP アドレスの最小数」](#)
- [39 ページの「I/O ドメインのストレージリソース」](#)

IP アドレスの最小数

この表は、各 I/O ドメインの各ネットワークに必要な IP アドレスの最小数を示します。最小数より多く構成することができます。ユーザーまたはそのネットワーク管

理者が IP アドレスを指定し、ユーザーはツールを使用してネットワークの追加および削除を徐々に行うことができます。39 ページの「リソースとネットワークの管理」を参照してください。

	データベース	アプリケーション
	I/O ドメイン	I/O ドメイン
管理ネットワーク	1	1
10GbE クライアントネットワーク	1	1
SCAN 用 10GbE	3	
注記 - RAC を作成する場合、追加の SCAN IP は必要ありません。		
VIP 用 10GbE	1	
ストレージ IB ネットワーク	1	1
Exadata IB ネットワーク	1	

関連情報

- 11 ページの「I/O ドメイン作成ツールの概要」
- 16 ページの「I/O ドメインの要件」
- 39 ページの「I/O ドメインのストレージリソース」

管理タスクの概要

次の表に、I/O ドメイン環境をサポートするために管理者が実行するタスクのサマリーを示します。

これらのステップはツールの管理者によって実行されます。

ステップ	リンク
1.(1 回のみ) ツールを初期化し、ネットワークリソースを追加します。 1. ツールが使用可能であることを確認し、ツールのバージョンを確認します。 2. ツールを初期化し、使用している SuperCluster 構成に特に合わせてツールを構成できるようにします。 3. I/O ドメインの作成をサポートするためにネットワークリソースを設定します。 4. セキュリティーパラメータを構成します。	■ 25 ページの「ツールの初期化および構成」
2.I/O ドメインのユーザーを作成します。 1. さまざまなタイプのユーザーロールについて理解します。	■ 49 ページの「ユーザーアカウントの管理」

ステップ	リンク
2. ツールにアクセスできるユーザーを決定します。 3. 使用可能なリソースを特定します。 4. ユーザーアカウントを作成します。 5. (オプション) ユーザーにリソースを割り当てます。 6. ユーザーにログイン資格証明とツールの URL を提供します。	
3.リソースとネットワークのレシピを確認し、必要に応じて新しいレシピの作成および OVM テンプレートのアップロードを行います。	
1. レシピの使用はオプションですが、使用すると I/O ドメインのリソースとネットワークのパラメータを簡単に作成できます。デフォルトのレシピを確認します。作成しようとしている I/O ドメインに必要なリソース量とネットワーク構成がレシピから得られない場合は、独自のレシピを作成することもできます。 2. 事前構成された OVM テンプレートを使用して I/O ドメインを構成する予定の場合は、テンプレートをツールにアップロードします。	■ 67 ページの「レシピとテンプレートの管理」
4.I/O ドメインのアクティビティ、リソース、配備、および健全性をモニターします。	
1. 使用可能なリソースをモニターします。 2. 配備キューを調べて、I/O ドメインの配備状態を確認します。 3. 「ヘルスマニター」画面を表示して、I/O ドメインの健全性ステータスを確認します。 4. ツールのアクティビティをログで確認します。	■ 39 ページの「リソースとネットワークの管理」 ■ 117 ページの「アクティビティ、リソース変更、およびツールの健全性のモニタリング」

I/O ドメイン構成タスクの概要

次の表に、I/O ドメインの構成と配備を行うために実行するステップのサマリーを示します。

これらのタスクは、管理者または管理者以外が実行できます。

ステップ	リンク
1.リソースとネットワークのレシピを確認し、必要に応じて新しいレシピを作成します。	
1. レシピの使用はオプションですが、使用すると I/O ドメインのリソースとネットワークのパラメータを簡単に作成できます。デフォルトのレシピを確認します。作成しようとしている I/O ドメインに必要なリソース量とネットワーク構成がレシピから得られない場合は、独自のレシピを作成することもできます。	■ 67 ページの「レシピとテンプレートの管理」
2.I/O ドメインの構成と配備を行いません。	
1. I/O ドメインの作成方法を選択します。 2. 必要な情報を収集します。 3. I/O ドメインを作成します。 4. I/O ドメインを配備します。	■ 79 ページの「I/O ドメインの構成および配備」
3.(データベース I/O ドメインの場合のみ) Oracle データベースのインストールと構成を行いません。	

ステップ	リンク
1. Oracle データベースのインストールを計画し、準備します。 2. OEDA を使用して構成ファイルを作成します。 3. データベースをインストールします。	■ 123 ページの「I/O ドメインのデータベースを構成するための準備」 ■ 129 ページの「データベース構成ファイルの作成 (OEDA)」 ■ 149 ページの「I/O ドメインへのデータベースのインストール」
4.I/O ドメインの配備とリソースをモニターします。	
1. 配備キューを調べて、I/O ドメインの配備状態を確認します。 2. 「物理ホスト」画面を表示して、使用可能なリソースをモニターします。	■ 117 ページの「アクティビティ、リソース変更、およびツールの健全性のモニタリング」

SuperCluster ドメインについて

次のトピックでは、SuperCluster ドメインの概要について説明します。

- 21 ページの「SuperCluster ドメインの概要」
- 22 ページの「I/O ドメインのリソース」

SuperCluster ドメインの概要

Oracle の担当者は、サイトの要件に従ったドメイン (LDom) 構成で各 SuperCluster をカスタマイズします。各ドメインはそれ独自の計算リソースセット (CPU、メモリー、および I/O デバイス) で動作します。

注記 - ある SuperCluster の正確なドメイン構成は、SuperCluster のモデルおよびサイトの要件によって異なります。サポートされているドメイン構成の詳細については、『Oracle SuperCluster T5-8 オーナーズガイド』、またはほかの SuperCluster モデルの『概要ガイド』を参照してください。構成ワークシートも参照してください。

この表では、SuperCluster 固有のドメインタイプの一覧を示し、CPU、メモリー、およびネットワークリソースがどのように管理されるかを説明します。

ドメイン	ドメイン タイプ	
アプリケーションドメインとデータベースドメイン	専用	次のサービスを提供します。 ■ アプリケーションドメイン – Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 でブートして稼働し、アプリケーションサービスをホストします。 ■ データベースドメイン – Exadata アクセラレーションを活用する Oracle データベースを提供します。これらのドメインでは、Oracle Solaris 11 より前の OS リリースは実行できません。 これらのドメインをそのままでも使用することも、osc-setcoremem ユーティリティを使用してドメインの CPU およびメモリーリソースを特定量だけ確保することもできます。確保されたリソースはパーク状態になり、I/O ドメインで使用できます。 osc-setcoremem ユーティリティの詳細については、『Oracle SuperCluster T5-8 オーナーズガイド』、または使用しているモデルの『Oracle SuperCluster 管理ガイド』を参照してください。
ルートドメイン	専用	I/O デバイスをホストすることによって SR-IOV 機能をサポートします。ルートドメインは、I/O ホスティング機能のために小さいリソースセットを予約します。残りのリソースはパーク状態になるため

ドメイン	ドメイン タイプ	
I/O ドメイン	SR-IOV	に、リソースのプールが作成され、さらにこのリソースプールを I/O ドメインに動的に仮想化できます。 選択時に、I/O ドメイン作成ツールを使用して I/O ドメインを作成、削除、および配備します。このツールでは、CPU およびメモリーリポジトリから、およびルートドメインによりホストされた仮想機能から、リソースを割り当てることができます。 I/O ドメインを構成するときに、アプリケーションドメインまたはデータベースドメインとして割り当てます。これらのアプリケーション I/O ドメインおよびデータベース I/O ドメインは、専用のアプリケーションドメインおよびデータベースドメインと同じ機能を提供するだけでなく、I/O ドメインを必要に応じて削除および追加できる柔軟性を提供します (使用可能なリソースに制限されます)。 I/O ドメインでは、Oracle Solaris 11 より前の OS リリースは実行できません。 ゾーンのサポート: ■ Solaris 非大域ゾーン – アプリケーション I/O ドメインおよびデータベース I/O ドメインでは Solaris ゾーンがサポートされます。Solaris ゾーンのベストプラクティスにおける一般的な使用法およびサイズ設定のガイドラインに従う必要があります。 ■ データベースゾーン – データベース I/O ドメインは、最大で 1 つのデータベースゾーンをサポートします。

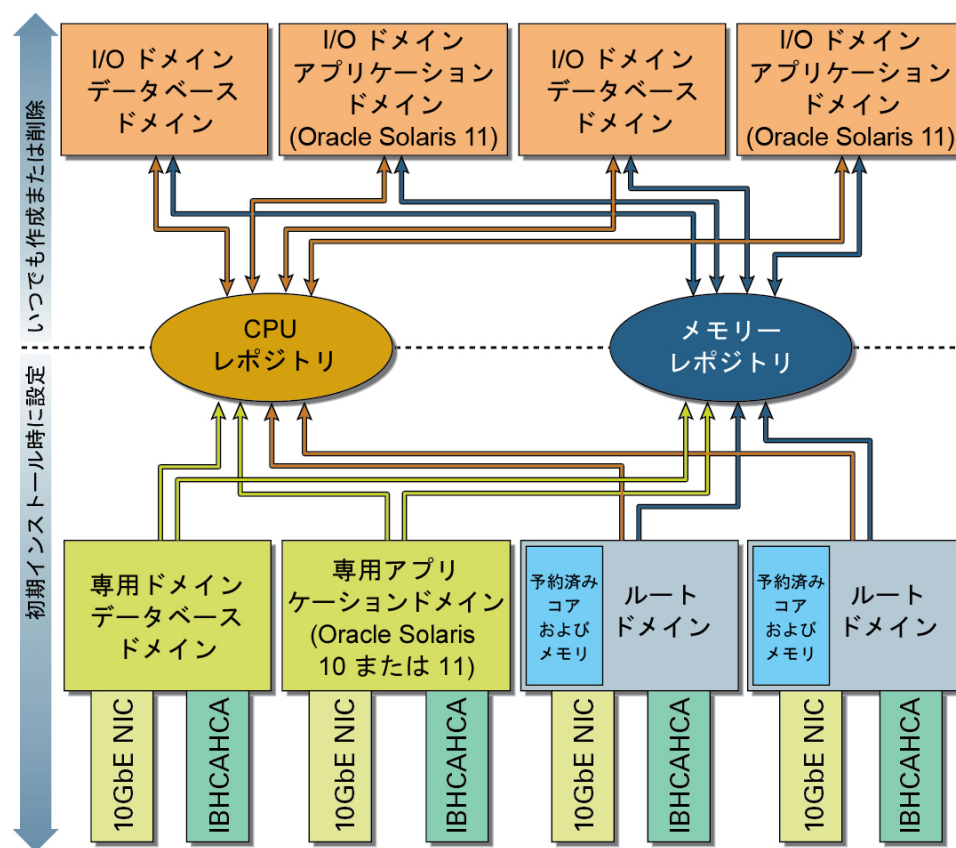
関連情報

- [22 ページの「I/O ドメインのリソース」](#)
- [11 ページの「I/O ドメイン作成ツールの概要」](#)

I/O ドメインのリソース

I/O ドメインで使用できる CPU、メモリー、および I/O リソースの量は、SuperCluster のモデルと、初期インストール時に設定されたドメイン構成によって決まります。

この図は、CPU およびメモリーリソースがどのように I/O ドメインの作成に使用可能になるかを示しています。この図は、SuperCluster T5-8 上の 1 つの計算ノード、または SuperCluster M6-32 上の 1 つの PDomain を表しています。



I/O ドメインは、リポジトリから割り当てられたリソースです。これによって I/O ドメインでは、計算ノードのリポジトリから使用できる十分な CPU およびメモリーリソースがあるかぎり、単一のルートドメインから使用できる量より多くの CPU およびメモリーで構成できます。

I/O ドメインが削除された場合、リソースはリポジトリに戻されます。

リポジトリ内のリソースは、次のアクティビティーの影響を受けます。

- **インストール時** – ルートドメインが構成されている場合、ルートドメインの CPU およびメモリーリソースの大部分は、自動的に CPU およびメモリーリポジトリでパーク状態になります。

少数の CPU およびメモリーリソースがルートドメイン自体のために予約されます。

IB および 10GbE インタフェースは、各ルートドメインの物理デバイスから作成された仮想機能 (VF) の形式で、I/O ドメインで使用できるようになります。このような物理デバイス (IB HCA および 10GbE NIC) は物理機能 (PF) と呼ばれます。I/O ドメインで使用するために各 PF から複数の VF が作成され、各 VF はその作成元である基本の物理デバイスと同じように動作します。

- **その後の構成時** – `osc-setcoremem` ユーティリティを使用して、専用ドメインから CPU およびメモリーリソースをパーク状態にすることを選択できます。パーク状態のリソースは、CPU およびメモリーリポジトリに配置され、I/O ドメインで使用できるようになります。

注記 - I/O ドメインを作成したあとは、パーク状態の専用ドメインリソースを専用ドメインに戻すことはできません。

関連情報

- [21 ページの「SuperCluster ドメインの概要」](#)
- [11 ページの「I/O ドメイン作成ツールの概要」](#)

ツールの初期化および構成

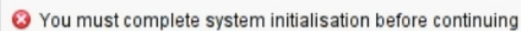
次のトピックでは、Oracle I/O ドメイン作成ツールを初期化および構成する方法について説明します。

- [25 ページの「ツールの初期化」](#)
- [28 ページの「ネットワークの設定」](#)
- [31 ページの「セキュリティー設定の構成 \(管理者\)」](#)
- [33 ページの「IP アドレスの割り当て方法の構成 \(管理者\)」](#)

▼ ツールの初期化

ツールにはじめてアクセスするときにこの手順を実行する必要があります。ほとんどの場合、Oracle 担当者が、SuperCluster の初期構成中にこのタスクを実行しました。

ツールへのアクセス時にこの警告が表示されない場合、このタスクを実行する必要はありません。代わりに、[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。

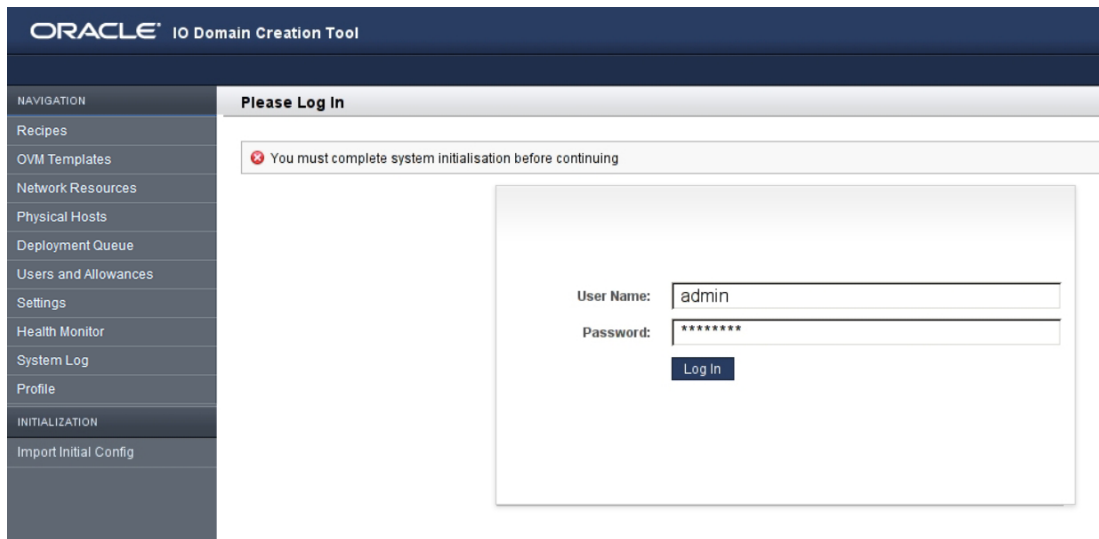
A warning message box with a red 'x' icon and the text "You must complete system initialisation before continuing".

1. **SuperCluster** にネットワークでアクセスできるシステム上で、ブラウザを開きます。
2. ブラウザのアドレスフィールドに次の URL を入力し、Return キーを押します。

`https://compute_server_1-Control_dom:8000`

`compute_server_1-Control_dom` を最初の計算サーバーの制御ドメイン名または IP アドレスに置き換えます。

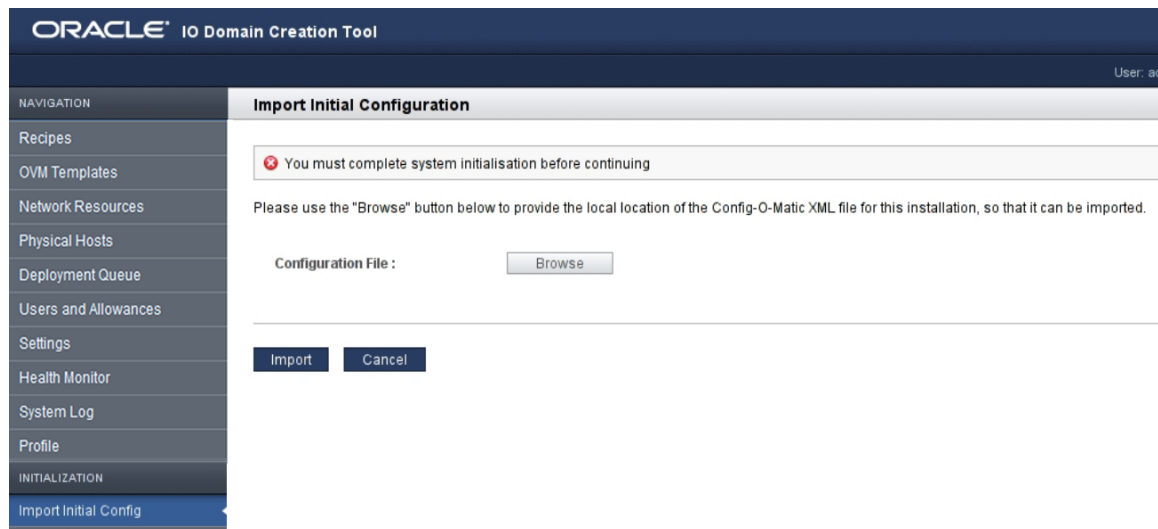
初期ログイン画面が表示されます。



3. (オプション) ログインページをブックマークします。
4. これらのデフォルトの資格証明を使用してログインします。
 - ユーザー名 – admin
 - パスワード – welcome1
5. 左側のナビゲーションパネルで、「初期構成のインポート」を選択します。

ツールの初期化が必要な場合 (通常は、ツールにはじめてアクセスしたとき) にのみ、「初期化」タブと「初期構成のインポート」タブが表示されます。

これらのタブが表示されない場合、Oracle 担当者が初期化を実行した可能性があります。この場合は、[28 ページの「ネットワークの設定」](#)に進みます。

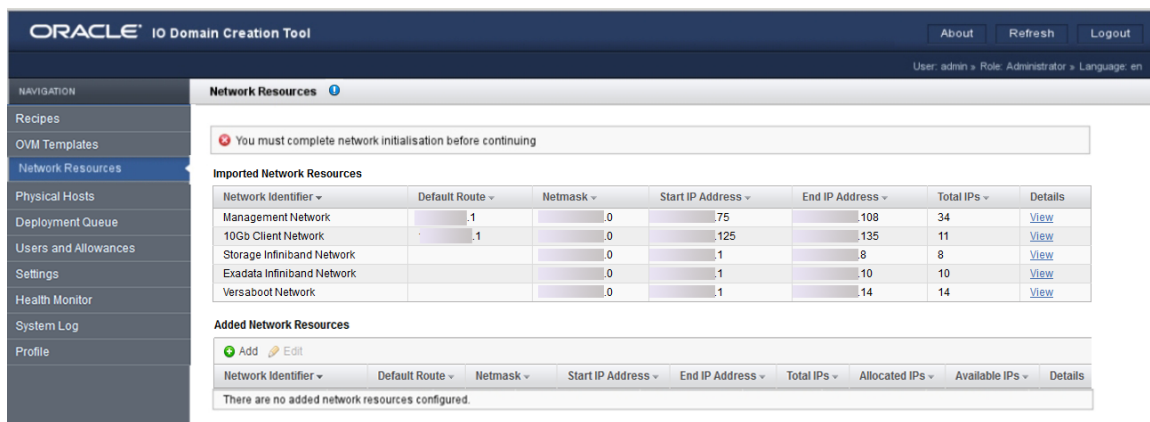


6. 「参照」をクリックして、Oracle 担当者が作成した XML 構成ファイルを見つけます。
ファイルの名前が「変更」ボタンの横に表示されます。

注記 - Oracle 担当者が、SuperCluster ソフトウェアのインストール時に XML ファイルの名前と場所を決めます。通常、ファイル名は `system_name.c-o-m_config.xml` です。

7. 「インポート」をクリックします。

ツールが SuperCluster 構成によって初期化され、「ネットワークリソース」画面が表示されます。



8. ツールにネットワークを追加します。

28 ページの「ネットワークの設定」を参照してください。

▼ ネットワークの設定

ツールの初期化 (25 ページの「ツールの初期化」を参照) 後に、I/O ドメインで使用する追加のネットワークを追加する必要があります。Oracle 担当者が、SuperCluster の初期構成中にこのタスクを実行した場合もあります。

すでに割り当てられているアドレスと重複しないかぎり、事前構成されたアドレスの範囲内に入る IP アドレスを使用できます。

各 I/O ドメインに必要な最小の IP アドレスについては、16 ページの「IP アドレスの最小数」を参照してください。



注意 - 正しくないネットワークパラメータは、ネットワーク環境に悪影響を与える問題を発生させる可能性があります。必要に応じて、ネットワーク管理者に問い合わせ、IP アドレス情報を入手してください。

1. 「ネットワークリソース」画面で、各ネットワークに割り当てられたネットワークパラメータを確認します。

上部の表にあるネットワークは、SuperCluster のインストール時に作成された SuperCluster ネットワークです。これらのネットワークパラメータは変更できません。

下部の表にあるネットワークは、ツールを使用して追加した、I/O ドメインで使用される追加のネットワークです。

The screenshot shows the 'Network Resources' section of the Oracle IO Domain Creation Tool. A message states: 'You must complete network initialisation before continuing'. Below this, there are two tables.

Imported Network Resources

Network Identifier	Default Route	Netmask	Start IP Address	End IP Address	Total IPs	Details
Management Network	.1	.0	.75	.108	34	View
10Gb Client Network	.1	.0	.125	.135	11	View
Storage Infiniband Network		.0	.1	.8	8	View
Exadata Infiniband Network		.0	.1	.10	10	View
Versaboot Network		.0	.1	.14	14	View

Added Network Resources

Network Identifier	Default Route	Netmask	Start IP Address	End IP Address	Total IPs	Allocated IPs	Available IPs	Details
There are no added network resources configured.								

「ネットワークリソース」画面には、XML 構成ファイル内の情報に基づいてツールによって作成されたネットワークが表示されます。これらのネットワークは変更できません。

ネットワークタイプは次のとおりです。

- 管理ネットワーク
- 10GbE クライアントネットワーク
- ストレージ IB ネットワーク
- Exadata IB ネットワーク
- Versaboot ネットワーク (IPoIB を使用して iSCSI デバイスをサポートします)。各 I/O ドメインに Versaboot IP アドレスが 1 つ必要です。
- (一部の SuperCluster では) スタンドアロン Exadata クライアントネットワーク

ネットワークタイプごとに追加の IP 範囲を作成する必要があります。作成した追加のネットワークは、I/O ドメインにネットワークリソースを提供します。

同じタイプのネットワークを複数追加できます。たとえば、複数の管理ネットワークを追加し、それぞれに独自のネットワークパラメータセットを指定できます。

2. 「追加済みネットワークリソース」で、「追加」をクリックします。

「新しいネットワークの追加」画面が表示されます。

The screenshot shows a web-based interface for adding a new network. The title bar is 'Network Resources' with a blue information icon. Below it, the section is 'Add a New Network'. The form contains the following fields:

- Network Identifier:** A dropdown menu with 'Management Network' selected.
- Default Route:** A text input field.
- Netmask:** A text input field.
- Start IP Address:** A text input field with a blue information icon to its right.
- End IP Address:** A text input field with a blue information icon to its right.

At the bottom of the form are two buttons: 'Add' and 'Cancel'.

次のネットワークパラメータを定義します。

- **ネットワーク識別子** – プルダウンリストからネットワークタイプを選択します。
- **デフォルトルート** – このネットワークのデフォルトルートを指定します。このパラメータは、ストレージ IB、Exadata IB、または Versaboot ネットワークタイプには適用されません。
- **ネットマスク** – このネットワークのネットマスクを指定します。
- **開始 IP アドレス** – 開始 IP アドレスを指定します。
- **終了 IP アドレス** – (オプション) 終了 IP アドレスを指定します。これを空白のままにした場合、このネットワークにはフル補完の IP アドレスが構成されます。

3. フォームに入力します。

4. 「追加」をクリックします。

サマリーが表示されます。

5. すべてのネットワークに IP アドレスを追加するまで、**ステップ 2** から **ステップ 4** を繰り返します。

例:

Network Resources ⓘ

Imported Network Resources

Network Identifier ▾	Default Route ▾	Netmask ▾	Start IP Address ▾	End IP Address ▾	Total IPs ▾	Details
Management Network	.1	.0	.75	108	34	View
10Gb Client Network	.1	.0	.125	135	11	View
Storage Infiniband Network		.0	.1	8	8	View
Exadata Infiniband Network		.0	.1	10	10	View
Versaboot Network		.0	.1	14	14	View

Added Network Resources

➕ Add

✎ Edit

Network Identifier ▾	Default Route ▾	Netmask ▾	Start IP Address ▾	End IP Address ▾	Total IPs ▾	Allocated IPs ▾	Available IPs ▾	Details
Management Network	.1	.0	109	128	20	9	11	View
10Gb Client Network	.1	.0	136	155	20	18	2	View
Storage Infiniband Network		.0	9	48	40	9	31	View
Exadata Infiniband Network		.0	11	40	30	3	27	View
Versaboot Network		.0	15	54	40	18	22	View

6. ネットワークの IP アドレスをすべて表示する場合は、「詳細」の下の「表示」をクリックします。
7. リソースが使用可能であることを確認するには、ナビゲーションパネルで「物理ホスト」をクリックします。
40 ページの「システムリソースの表示」を参照してください。
8. 次のアクションを検討します。
 - セキュリティー設定を構成します。
31 ページの「セキュリティ設定の構成 (管理者)」を参照してください
 - 「管理タスクの概要」に移動します。
17 ページの「管理タスクの概要」を参照してください。
 - I/O ドメイン作成ツールからログアウトします。
37 ページの「I/O ドメイン作成ツールからのログアウト」を参照してください

▼ セキュリティー設定の構成 (管理者)

1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」を参照してください。

2. ナビゲーションパネルで、「設定」を選択します。

3. セキュリティポリシーで必要とされるセキュリティ設定を構成します。

注記 - IP アドレス設定の詳細については、[33 ページの「IP アドレスの割り当て方法の構成 \(管理者\)」](#)を参照してください。ハードウェア設定の詳細については、[130 ページの「XML 構成ファイルのエクスポート」](#)を参照してください。

次のパラメータを必要に応じて変更します。

- **パスワード強度レベル** – ドロップダウンリストから、次の値のいずれかを選択します。
 - **1** – ユーザーは、最小パスワード長を満たすパスワードを指定する必要があります。
 - **2** – ユーザーは、レベル 1 に加え、少なくとも 1 つの大文字と 1 つの小文字を含むパスワードを指定する必要があります。
 - **3** – ユーザーは、レベル 2 に加え、少なくとも 1 つの数字または特殊文字を含むパスワードを指定する必要があります。

- **パスワードの最小長** – パスワードの最小長を定義します。
 - **ログイン最大試行回数** – ログイン試行失敗の最大回数。これを超えるとアクセスが一時的に制限されます。
 - **アクセスロックしきい値** – ログイン試行の最大回数を超えたときにアクセスを制限する時間 (分)。
4. 「保存」をクリックします。
変更はすぐに有効になります。
 5. 次のアクションを検討します。
 - デフォルトの管理者パスワードを変更します。
[59 ページの「ユーザーのパスワードの変更 \(管理者\)」](#)を参照してください
 - 「管理タスクの概要」に移動します。
[17 ページの「管理タスクの概要」](#)を参照してください。
 - I/O ドメイン作成ツールからログアウトします。
[37 ページの「I/O ドメイン作成ツールからのログアウト」](#)を参照してください

▼ IP アドレスの割り当て方法の構成 (管理者)

この機能はツールバージョン 2.2.0.862 (またはそれ以降) で使用できます。[15 ページの「ツールのバージョンの確認」](#)を参照してください。この機能は SuperCluster M7 でサポートされます。

デフォルトでは、I/O ドメインの作成時に、ツールが自動的に IP アドレスを管理、10GbE クライアント、IB、および Versaboot (該当する場合) の各ネットワークに割り当てます。ツールを構成して、I/O ドメインを作成するユーザーが管理ネットワークおよびクライアントネットワークに特定のサブネットの特定の IP アドレスを選択できるようにすることができます。構成の選択肢は次のとおりです。

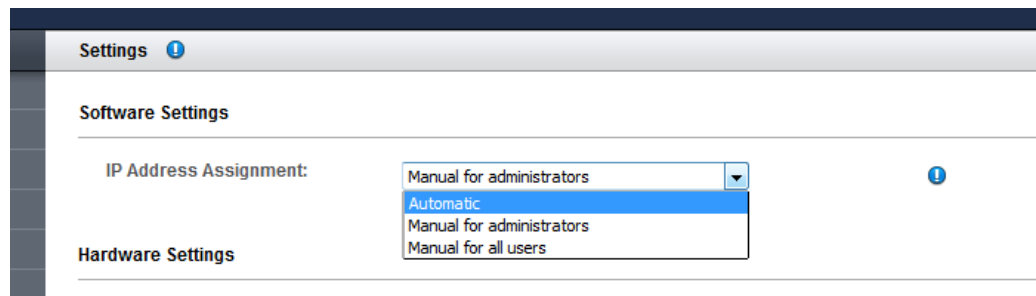
- **自動** – (デフォルト) ツールが自動的に IP アドレスを I/O ドメインのすべてのネットワークに割り当てます。割り当てられる IP アドレスは、IP アドレスプール内で次に使用可能なアドレスです。[28 ページの「ネットワークの設定」](#)および [45 ページの「ネットワークの追加または編集 \(管理者\)」](#)を参照してください。
 - **管理者は手動** – I/O ドメインの作成時に、管理者はドロップダウンリストから特定の IP アドレスを選択します。管理者以外のユーザーの場合、IP アドレスは自動的に割り当てられます。
 - **全ユーザーが手動** – I/O ドメインの作成時に、すべてのユーザーがドロップダウンリストから特定の IP アドレスを選択します。
1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。

2. ナビゲーションパネルで、「設定」を選択します。

「設定」画面が表示されます。

注記 - ハードウェア設定の詳細については、[130 ページの「XML 構成ファイルのエクスポート」](#)を参照してください。セキュリティ設定の詳細については、[31 ページの「セキュリティ設定の構成 \(管理者\)」](#)を参照してください。

3. 「IP アドレスの割り当て」のドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。



4. 「保存」をクリックします。

IP アドレス割り当ての新しい構成は、これ以降の I/O ドメイン作成に適用されます。

ツールへのアクセス

これらのトピックでは、Oracle I/O ドメイン作成ツールにアクセスする方法について説明します。

- [35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)
- [37 ページの「I/O ドメイン作成ツールからのログアウト」](#)
- [37 ページの「ツールチップ」](#)

▼ I/O ドメイン作成ツールへのログイン

1. **SuperCluster** にネットワークでアクセスできるシステム上で、ブラウザを開きます。
2. アドレスフィールドに次の **URL** を入力し、**Return** キーを押します。

`https://compute_node_1-Control_dom:8000`

`compute_node_1-Control_dom` を最初の計算ノードの制御ドメイン名または IP アドレスに置き換えます。

I/O ドメイン作成ツールのログイン画面が表示されます。

3. admin またはユーザーとしてログインします。

はじめてツールにアクセスする場合は、次のデフォルトのログイン資格証明を使用します。

- ユーザー名 – **admin**
- パスワード – **welcome1**

注記 - 今回はじめてツールにアクセスする場合、ツールを初期化する必要があります。[25 ページの「ツールの初期化」](#)を参照してください。

注記 - パスワードを忘れた場合、管理者権限を持っていれば、リセットできます。[61 ページの「ユーザーのパスワードのリセット \(管理者\)」](#)を参照してください。管理者権限を持っていない場合、リセットを要求します。[58 ページの「パスワードのリセット要求」](#)を参照してください。

4. (オプション) ログインページをブックマークします。

5. 次のアクションを検討します。

- ツールチップを確認します。
[37 ページの「ツールチップ」](#)を参照してください
- ユーザーパスワードを変更します。
[59 ページの「ユーザーのパスワードの変更 \(管理者\)」](#)を参照してください。

- I/O ドメイン作成ツールからログアウトします。
37 ページの「I/O ドメイン作成ツールからのログアウト」を参照してください

▼ I/O ドメイン作成ツールからのログアウト

- ツール画面から、「ログアウト」 (右上隅) をクリックします。

ツールチップ

目標	アクション
コンテキスト依存のオンラインヘルプにアクセスします。	青色の情報ボタン  を押します。
画面を終了します。	次のいずれかのアクションを実行します。 ■ 「ナビゲーション」の下の任意のタブをクリックします。 ■ 「ログアウト」をクリックします。
画面上でデータをリフレッシュします。	ツールの「リフレッシュ」ボタンをクリックします。
列内のデータに基づいて表の行をソートします。	列見出しの横にある小さい矢印をクリックします。
著作権表示を表示します。	ツールの「情報」ボタンをクリックします。

リソースとネットワークの管理

I/O ドメインの CPU コアリソースおよびネットワークリソースを管理するには、次のトピックを使用してください。

I/O ドメインの計画の詳細については、[79 ページの「I/O ドメインの構成および配備」](#)を参照してください。

- [39 ページの「I/O ドメインのストレージリソース」](#)
- [40 ページの「システムリソースの表示」](#)
- [42 ページの「ネットワークリソースの表示」](#)
- [45 ページの「ネットワークの追加または編集 \(管理者\)」](#)
- [47 ページの「I/O ドメインでのファイバチャネルインタフェースのサポート」](#)
- [47 ページの「追加されたストレージサーバーをツールに構成する \(管理者\)」](#)

I/O ドメインのストレージリソース

I/O ドメインを構成するとき、iSCSI LUN リソースは自動的に割り当てられます。ツールは事前に定義されたストレージ量から始め、選択された CPU およびメモリーリソースに基づいてスワップとダンプのための追加リソースを計算します。

OVM テンプレートを使用して I/O ドメインを配備する場合、割り当てられる iSCSI LUN リソースの量はテンプレートによって決まります。

OVM テンプレートベースでない I/O ドメインには、I/O ドメインのタイプおよびツールのバージョンに基づいて、およそ次の rpool リソースがツールによって割り当てられます。

ツールのバージョン	データベース I/O ドメイン	アプリケーション I/O ドメイン
ブランチ 2.1.0.813 (またはそれ以降)	150G バイト	100G バイト
2.1.0.813 より前のブランチ	70G バイト	50G バイト

注記 - ツールのバージョンを確認するには、[15 ページの「ツールのバージョンの確認」](#)を参照してください。

関連情報

- [16 ページの「I/O ドメインの要件」](#)
- [16 ページの「IP アドレスの最小数」](#)

▼ システムリソースの表示

I/O ドメインに使用できるリソースを表示するには、この手順を使用します。管理者とユーザーの両方が、このタスクを実行できます。

「物理ホスト」画面には、リソースの概要に加え、追加リソースの詳細が2つのレベルで表示されます (管理者のみ)。1つは計算ノードレベル、もう1つはルートドメインレベルです。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**

[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。

2. **ナビゲーションパネルで、「物理ホスト」を選択します。**

コア、メモリー、IB インタフェース、および 10GbE インタフェースの、合計、割り当て済み、および使用可能な量など、リソースの概要が表示されます。

注記 - 管理者以外のユーザーは物理ホストの詳細表示にアクセスできません。

ORACLE [®] IO Domain Creation Tool																																																			
About Refresh Logout User: admin » Role: Administrator » Language: en																																																			
NAVIGATION - IO Domains - Recipes - OVM Templates - Network Resources Physical Hosts - Deployment Queue - Users and Allowances - Settings	Physical Hosts ⓘ List of Physical Hosts <table> <tr> <th>Physical Host</th><th>Root Domains</th><th>Cores</th><th>Memory</th><th>IB Interfaces</th><th>10Gb Interfaces</th><th>FC Interfaces</th><th>Details</th></tr> <tr> <td rowspan="2">M7 PDOM 1</td><td rowspan="2">etc3m7-rootadm0103</td><td>Total: 30</td><td>Total: 208 GB</td><td>Total: 16</td><td>Total: 16</td><td>Total: 16</td><td rowspan="2">View</td></tr> <tr> <td>Allocated: 4</td><td>Allocated: 64 GB</td><td>Allocated: 2</td><td>Allocated: 3</td><td>Allocated: 0</td></tr> <tr> <td rowspan="4">M7 PDOM 2</td><td rowspan="4">etc3m7-rootadm0203, etc3m7-rootadm0204</td><td>Available: 26</td><td>Available: 144 GB</td><td>Available: 14</td><td>Available: 13</td><td>Available: 16</td><td rowspan="4">View</td></tr> <tr> <td>Total: 61</td><td>Total: 432 GB</td><td>Total: 32</td><td>Total: 32</td><td>Total: 16</td></tr> <tr> <td>Allocated: 4</td><td>Allocated: 64 GB</td><td>Allocated: 2</td><td>Allocated: 2</td><td>Allocated: 0</td></tr> <tr> <td>Available: 57</td><td>Available: 368 GB</td><td>Available: 30</td><td>Available: 30</td><td>Available: 16</td></tr> </table>							Physical Host	Root Domains	Cores	Memory	IB Interfaces	10Gb Interfaces	FC Interfaces	Details	M7 PDOM 1	etc3m7-rootadm0103	Total: 30	Total: 208 GB	Total: 16	Total: 16	Total: 16	View	Allocated: 4	Allocated: 64 GB	Allocated: 2	Allocated: 3	Allocated: 0	M7 PDOM 2	etc3m7-rootadm0203, etc3m7-rootadm0204	Available: 26	Available: 144 GB	Available: 14	Available: 13	Available: 16	View	Total: 61	Total: 432 GB	Total: 32	Total: 32	Total: 16	Allocated: 4	Allocated: 64 GB	Allocated: 2	Allocated: 2	Allocated: 0	Available: 57	Available: 368 GB	Available: 30	Available: 30	Available: 16
Physical Host	Root Domains	Cores	Memory	IB Interfaces	10Gb Interfaces	FC Interfaces	Details																																												
M7 PDOM 1	etc3m7-rootadm0103	Total: 30	Total: 208 GB	Total: 16	Total: 16	Total: 16	View																																												
		Allocated: 4	Allocated: 64 GB	Allocated: 2	Allocated: 3	Allocated: 0																																													
M7 PDOM 2	etc3m7-rootadm0203, etc3m7-rootadm0204	Available: 26	Available: 144 GB	Available: 14	Available: 13	Available: 16	View																																												
		Total: 61	Total: 432 GB	Total: 32	Total: 32	Total: 16																																													
		Allocated: 4	Allocated: 64 GB	Allocated: 2	Allocated: 2	Allocated: 0																																													
		Available: 57	Available: 368 GB	Available: 30	Available: 30	Available: 16																																													

3. **(管理者のみ)「詳細」列の「表示」をクリックして、ノードのリソースの詳細を表示します。**

複数のルートドメインを持つノードは、CPU およびメモリーリソースをすべてまとめてプールし、これらを I/O ドメインで使用できるようにします。I/O ドメインでは、単一のルートドメインから使用できる量より多くの CPU およびメモリーリソースを使用できます。

I/O リソース (IB および 10GbE インタフェース) はまとめてプールされることはありません。I/O ドメインは、そのすべての I/O リソースを単一のルートドメインから受け取ります。

リソースをルートドメイン単位で確認できます。これは I/O リソースの割り当てを計画するのに役立ちます。

Physical Hosts 

Physical Host Details

[General Info](#) [Root Domains in this Physical Host](#)

General Info

Physical Host:	M7 PD0M 2
Root Domains:	etc3m7-rootadm0203, etc3m7-rootadm0204
Cores:	4 allocated of 61 cores
Memory:	64 GB allocated of 432 GB
IB Interfaces:	2 allocated of 32 interfaces
10Gb Interfaces:	2 allocated of 32 interfaces
FC Interfaces:	0 allocated of 16 interfaces

Root Domains in this Physical Host 

Hostname ▾	Cores	Memory	IB Interfaces	10Gb Interfaces	FC Interfaces	Dependent IO Domains ▾	Details
etc3m7-rootadm0203	Total: 31 Allocated: 3 Available: 28	Total: 224 GB Allocated: 48 GB Available: 176 GB	Total: 16 Allocated: 1 Available: 15	Total: 16 Allocated: 1 Available: 15	Total: 0 Allocated: 0 Available: 0	1	View
etc3m7-rootadm0204	Total: 30 Allocated: 1 Available: 29	Total: 208 GB Allocated: 16 GB Available: 192 GB	Total: 16 Allocated: 1 Available: 15	Total: 16 Allocated: 1 Available: 15	Total: 16 Allocated: 0 Available: 16	1	View

4. (管理者のみ) 「詳細」列の「表示」をクリックして、ルートドメインのリソースの詳細を表示します。

このツールは、このルートドメインに関連付けられている正確なコア数やメモリーセグメント数などの詳細を表示します。

「従属 I/O ドメイン」表には、このルートドメインからのリソースを使用する I/O ドメインが一覧表示されます。

画面の下部にあるログには、どの VF が PF に関連付けられているかなどの詳細が表示されます。

Physical Hosts 1

Root Domain Details

[General Info](#) [Dependent IO Domains](#) [Log](#)

General Info

Type:	Root Domain
Management Hostname:	etc3m7-rootadm0203
Management IP:	10.129.102.6
Cores:	3 allocated of 31 cores
Cores allocated:	128, 129, 186
Cores available:	130, 131, 136, 137, 138, 139, 144, 145, 146, 147, 152, 153, 154, 155, 160, 161, 162, 163, 168, 169, 170, 171, 176, 177, 178, 179, 184, 185
Memory:	48 GB allocated of 224 GB
Memory Segments allocated:	134235392M:16G, 134251776M:16G, 134268160M:16G
Memory Segments available:	134284544M:16G, 134300928M:16G, 134317312M:16G, 134333696M:16G, 134350080M:16G, 134366464M:16G, 134382848M:16G, 134399232M:16G, 134415616M:16G, 134432000M:16G, 134448384M:14848M
Root Complexes:	pci_30, pci_31, pci_32, pci_33
IB Interfaces:	1 allocated of 16 interfaces
10Gb Interfaces:	1 allocated of 16 interfaces
FC Interfaces:	0 allocated of 0 interfaces

Dependent IO Domains

ID	Hostname	Domain Type	Owner	RAC ID	State	Details
6	zebra	Solaris 11 Application Domain	service	n/a	Ready for Use	View

Log

Date / Time	Level	Message
2016-06-07 20:33:11	info	Resource Discovery Beginning.
2016-06-07 20:33:11	info	Added Cores: 128, 129, 130, 131, 136, 137, 138, 139, 144, 145, 146, 147, 152, 153, 154, 155, 160, 161, 162, 163, 168, 169, 170, 171, 176,

5. 次のアクションを検討します。

- ネットワークリソースを表示します。
42 ページの「ネットワークリソースの表示」を参照してください。
- 「管理タスクの概要」に移動します。
17 ページの「管理タスクの概要」を参照してください。

▼ ネットワークリソースの表示

各ネットワークのネットワークリソースを特定するには、この手順を使用します。管理者とユーザーの両方が、このタスクを実行できます。

注記 - ファイバチャネルインタフェースは、バージョン 2.2.0.873 (またはそれ以降) でサポートされています。15 ページの「[ツールのバージョンの確認](#)」および 47 ページの「[I/O ドメインでのファイバチャネルインタフェースのサポート](#)」を参照してください。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
35 ページの「[I/O ドメイン作成ツールへのログイン](#)」を参照してください。
2. **ナビゲーションパネルで、「ネットワークリソース」を選択します。**
「ネットワークリソース」画面が表示されます。

注記 - 「追加」および「編集」ボタンにアクセスできるのは管理者だけです。

Imported Network Resources

Network Identifier	Default Route	Netmask	Start IP Address	End IP Address	Total IPs	Details
Management Network		255.255.240.0	.75	.108	34	View
10Gb Client Network		255.255.240.0	.125	.135	11	View
Storage Infiniband Network		255.255.252.0	.1	.8	8	View
Exadata Infiniband Network		255.255.252.0	.1	.10	10	View
Versaboot Network		255.255.252.0	.1	.14	14	View

Added Network Resources

Network Identifier	Default Route	Netmask	Start IP Address	End IP Address	Total IPs	Allocated IPs	Available IPs	Details
Management Network		255.255.240.0	.109	.128	20	3	17	View
10Gb Client Network		255.255.240.0	.136	.155	20	7	13	View
Storage Infiniband Network		255.255.252.0	.9	.48	40	3	37	View
Exadata Infiniband Network		255.255.252.0	.11	.40	30	1	29	View
Versaboot Network		255.255.252.0	.15	.54	40	6	34	View

3. **各ネットワークに割り当てられているネットワークパラメータを確認します。**
上部の表に一覧表示されるネットワークは、SuperCluster のインストール時に作成された初期ネットワークです。これらのネットワークは変更できません。
2 つ目の表には、I/O ドメインにネットワークリソースを提供するために追加されたネットワークが表示されます。管理者ロールを持つユーザーは、これらのネットワークを追加および編集できます。45 ページの「[ネットワークの追加または編集 \(管理者\)](#)」を参照してください。
1 つの与えられたネットワークタイプに対して複数のネットワークが存在する可能性があります。たとえば、2 つの管理ネットワークと 2 つのクライアントネットワークです。

4. ネットワークのすべての IP アドレスを表示するには、「詳細」列の「表示」をクリックします。

「ネットワークのサマリー」画面が表示されます。この画面では、次のパラメータを確認できます。

The screenshot shows a web interface titled 'Network Resources'. Under 'Network Details', there are two tabs: 'General Info' (selected) and 'List of IP Addresses'. The 'General Info' tab displays a table with network parameters. Below it, the 'List of IP Addresses' tab displays a table with hostnames and their corresponding IP addresses.

General Info	
Network Name:	10Gb Client Network
Domain Name:	us.oracle.com
Starting Address:	125
End Address:	254
Netmask:	0
Default Route:	1
Total IPs:	11

List of IP Addresses	
Hostname	IP Address
etc15m7dbclient0101	125
etc15m7dbclient0101-vip	126
etc15m7-appclient0301	127
etc15m7dbclient0401	128
etc15m7-appclient0402	129
etc15m7dbclient0401-vip	130
etc15m7-c1-scan	131
etc15m7-c1-scan	132
etc15m7-c1-scan	133
etc15m7-h1-storclient	134
etc15m7-h2-storclient	135

- ネットワーク名
- ドメイン名
- 開始および終了 IP アドレス
- ネットマスク
- デフォルトルート
- IP アドレスの合計数
- 割り当て済み IP アドレス
- 使用可能な IP アドレス

- IP アドレスとドメイン名の完全なリスト

5. 次のアクションを検討します。

- ネットワークを追加または編集します。
[45 ページの「ネットワークの追加または編集 \(管理者\)」](#)を参照してください。
- 「管理タスクの概要」に移動します。
[17 ページの「管理タスクの概要」](#)を参照してください。
- ユーザーを追加します。
[49 ページの「ユーザーアカウントの管理」](#)を参照してください

▼ ネットワークの追加または編集 (管理者)

ネットワークを追加またはネットワークを編集するには、この手順を使用します。
ネットワークを追加または編集できるのは、管理者ロールを持つユーザーだけです。

将来の I/O ドメインをサポートするために、ネットワークと IP アドレスの追加が必要になる場合があります。ネットワーク計画の詳細については、構成ワークシートを参照してください。



注意 - ネットワークパラメータが正しくないと、ネットワーク環境に影響する問題が発生する可能性があります。

1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「ネットワークリソース」を選択します。
3. 「追加」をクリックします。

「ネットワークの追加」画面が表示されます。

The screenshot shows a web interface titled 'Network Resources' with a sub-header 'Add a New Network'. The form contains the following fields:

- Network Identifier:** A dropdown menu currently showing 'Management Network'.
- Default Route:** A text input field.
- Netmask:** A text input field.
- Start IP Address:** A text input field with an information icon (i) to its right.
- End IP Address:** A text input field with an information icon (i) to its right.

At the bottom of the form are two buttons: 'Add' and 'Cancel'.

4. フォームに入力し、「追加」をクリックします。
5. ネットワークパラメータのいずれかを変更する必要がある場合は、ネットワークを選択し、「編集」をクリックします。
6. 「ネットワークの編集」画面で、必要に応じてパラメータを変更し、「保存」をクリックします。
7. 次のアクションを検討します。
 - ユーザーを追加します。
[49 ページの「ユーザーアカウントの管理」](#)を参照してください
 - 「管理タスクの概要」に移動します。
[17 ページの「管理タスクの概要」](#)を参照してください。
 - ユーザーを追加します。
[49 ページの「ユーザーアカウントの管理」](#)を参照してください

I/O ドメインでのファイバチャネルインタフェースのサポート

ファイバチャネルインタフェースは、ツールバージョン 2.2.0.873 (またはそれ以降) で I/O ドメインでサポートされます。15 ページの「[ツールのバージョンの確認](#)」を参照してください。

ルートドメインの OS レベル、システムファームウェアバージョン、およびファイバチャネルファームウェアバージョンに追加の要件があります。これらの詳細は、My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) にある MOS Doc ID [2180265.1](#) で入手できます。

▼ 追加されたストレージサーバーをツールに構成する (管理者)

追加のストレージサーバーがシステムに追加された場合は、JOC 用の XML 構成ファイル (データベース I/O ドメインの作成に使用される) をエクスポートする前に、次のステップを実行します。詳細については、130 ページの「[XML 構成ファイルのエクスポート](#)」を参照してください。

このタスクを実行できるのは、管理者ロールを持つユーザーだけです。

1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン](#)」を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「設定」を選択します。

追加されたストレージサーバーをツールに構成する (管理者)

「設定」画面が表示されます。

ORACLE[®] IO Domain Creation Tool

NAVIGATION

- IO Domains
- Recipes
- OVM Templates
- Network Resources
- Physical Hosts
- Deployment Queue
- Users and Allowances
- Settings**
- Health Monitor
- System Log
- Profile

Settings ⓘ

Software Settings

IP Address Assignment: Automatic ⓘ

Hardware Settings

Exadata Storage Server Type: High Performance (X4-2 1.2TB)

Security Settings

Password Strength Level: 3 ⓘ

Password Minimum Length: 8 ⓘ

Maximum Login Attempts: 5 ⓘ

Access Lock Threshold: 10 ⓘ

Save Cancel

3. 「ハードウェア設定」のドロップダウンリストから、ストレージサーバーのタイプを選択します。

注記 - IP アドレス設定の詳細については、[33 ページの「IP アドレスの割り当て方法の構成 \(管理者\)」](#)を参照してください。セキュリティ設定の詳細については、[31 ページの「セキュリティ設定の構成 \(管理者\)」](#)を参照してください。

4. 「保存」をクリックします。
これで、新しいストレージサーバーのタイプがツールに認識されました。

ユーザーアカウントの管理

I/O ドメインのユーザーアカウントを管理するには、次の各トピックを使用してください。

これらのほとんどの手順を実行するには、管理者権限を持っている必要があります。

説明	リンク
ユーザーロールについて理解します。	49 ページの「ユーザーのロールおよび権限」
ユーザー、および各ユーザーが使用できるリソースの量を計画します。	50 ページの「I/O ドメインのユーザーおよびリソース割り当ての計画」 51 ページの「I/O ドメインユーザーのワークシート」
ユーザーを追加します。	52 ページの「ユーザーの表示」 52 ページの「ユーザーの追加 (管理者)」 54 ページの「ユーザーへのリソースの割り当て (管理者)」
リソース割り当て量を表示します。	56 ページの「リソース割り当て量の表示」
ユーザーパスワードを管理します。	57 ページの「パスワードの変更」 58 ページの「パスワードのリセット要求」 59 ページの「ユーザーのパスワードの変更 (管理者)」 61 ページの「ユーザーのパスワードのリセット (管理者)」
ユーザーの電子メールまたはロールを変更します。	64 ページの「ユーザーの電子メールアドレスまたはロールの編集 (管理者)」
ユーザーを削除します。	65 ページの「ユーザーの削除 (管理者)」

ユーザーのロールおよび権限

デフォルトでは、I/O ドメイン作成ツールには、管理者権限のある admin ユーザーアカウントが用意されています。

追加のユーザーを作成することを選択した場合は、各ユーザーにユーザーロールか管理者ロールを割り当てます。[52 ページの「ユーザーの追加 \(管理者\)」](#)を参照してください。

- **ユーザーロール** – ユーザーに割り当てられているリソース内で次のアクションを実行できます。
 - 自分の I/O ドメインを作成、編集、および削除します。
 - 自分のリソースレシピとネットワークレシピを作成、編集、および削除します。
 - ユーザーに使用権限のあるレシピを使用します。
 - 物理ホスト、ネットワーク情報、および配備キューを表示します。
 - 自分のパスワードと電子メールアドレスを変更します。
- **管理者ロール** – すべてのユーザーアクションおよび次の追加のアクションを実行できます。
 - ユーザーとそのパスワードを作成、編集、および削除します。
 - ユーザーにリソースを割り当て、ユーザーの割り当て量を管理します。
 - すべてのレシピを作成、編集、および削除します。
 - ネットワークリソースを編集および追加します。
 - すべての I/O ドメインを作成、編集、および削除します。
 - 任意のユーザーのパスワードをリセットします。

▼ I/O ドメインのユーザーおよびリソース割り当ての計画

デフォルトでは、I/O ドメイン作成ツールは、管理権限のある `admin` という 1 人のユーザーで構成されています。

必要に応じて、通常ユーザーロールまたは管理者ロールのどちらかを割り当てたユーザーを追加できます。

通常ユーザーは、このツールにアクセスでき、自分のレシピとドメインを管理できます。管理者ロールを持つユーザーには、完全な管理権限があります。[49 ページの「ユーザーのロールおよび権限」](#)を参照してください。

この手順はユーザー構成ワークシートとともに使用します。[51 ページの「I/O ドメインユーザーのワークシート」](#)を参照してください。

1. I/O ドメインのユーザーおよびロールを決定します。

各新規ユーザーに次の属性を割り当てます。

- 一意の名前とパスワード
- 管理者ロールまたはユーザーロールのどちらか。

2. 各ユーザーのリソース割り当てを決定します。

ユーザーを構成するときに、次の方法でリソース制限を割り当てることができます。

- **制約なし** – 特定のリソース割り当てを指定しません。ユーザーは使用可能なリソースならどのリソースでも使用できます。
- **制約あり** – リソース上限を指定します。ユーザーは、使用可能な任意のリソースを、その指定されたリソース割り当てまで使用できます。設定できる制限は次のとおりです。
 - 10Gb インタフェース
 - コア
 - メモリー

リソースは各ユーザーに予約されるわけではなく、割り当て制限ごとの制限でもありません。合計では、システムが提供するリソースよりも多くのリソースを割り当てることができます。

ユーザーはこのツールを使用して、自分の仮想化されたリソースを管理します。

計画立案のために、I/O ドメインユーザーのワークシートを使用できます。51 ページの「I/O ドメインユーザーのワークシート」を参照してください。または、ユーザーの追加手順に直接進んでください。49 ページの「ユーザーアカウントの管理」を参照してください。

I/O ドメインユーザーのワークシート

ユーザーおよびユーザーに割り当てるリソースを計画するには、このワークシートを使用できます。

ユーザー名	電子メールアドレス	ロール: 管理者または ユーザー	(オプション) 制約付きリソース割り当て			FC VF の最大数
			最大 コア	最大メモリー (G バイト)	最大 10Gb インタ フェース	

ユーザー名	電子メールアドレス	ロール: 管理者または ユーザー	(オプション) 制約付きリソース割り当て			
			最大 コア	最大メモリー (G バイト)	最大 10Gb インタ フェース	FC VF の最大数

▼ ユーザーの表示

このタスクを実行するには管理者権限が必要です。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
35 ページの「[I/O ドメイン作成ツールへのログイン](#)」を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「ユーザーおよび割り当て量」を選択します。
「ユーザーおよび割り当て量」画面が表示されます。

ORACLE® I/O Domain Creation Tool

Users and Allowances ⓘ

Users and Resource Allowances

[Add](#)
[Edit](#)
[Delete](#)
[Resource Allocation](#)
[Change Password](#)
[Reset Password](#)

User ▼	Role ▼	Constrained ▼	Cores	Memory	10Gb Interfaces	FC Interfaces
admin	Administrator	No				
don	User	Yes	Total: 8 Used: 0 Available: 8	Total: 256 GB Used: 0 GB Available: 256 GB	Total: 32 Used: 0 Available: 32	
user01	User	Yes	Total: 16 Used: 0 Available: 16	Total: 512 GB Used: 0 GB Available: 512 GB	Total: 16 Used: 0 Available: 16	...

3. 次のアクションを検討します。
 - 次の構成タスクに進みます。
52 ページの「[ユーザーの追加 \(管理者\)](#)」を参照してください。
 - 「管理タスクの概要」に移動します。
17 ページの「[管理タスクの概要](#)」を参照してください。

▼ ユーザーの追加 (管理者)

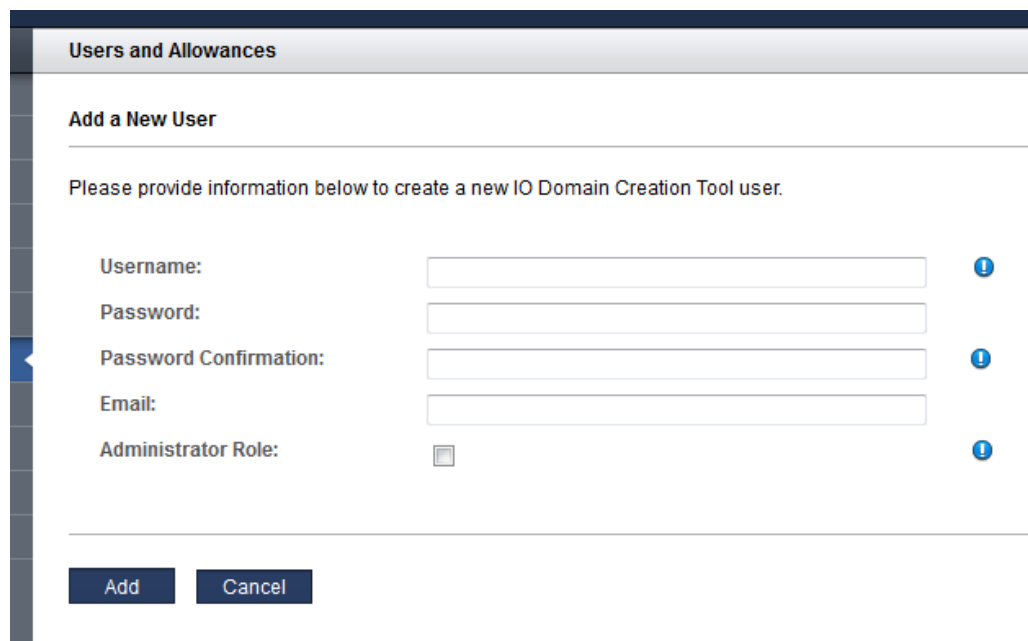
I/O ドメイン作成ツールのユーザーを追加するには、この手順を使用します。

このタスクを実行するには管理者権限が必要です。

ユーザーの計画については、[50 ページの「I/O ドメインのユーザーおよびリソース割り当ての計画」](#)を参照してください。

I/O ドメインユーザーのワークシートが完成している場合は、ワークシート内の情報を使用してこの手順を完了してください。[51 ページの「I/O ドメインユーザーのワークシート」](#)を参照してください。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「ユーザーおよび割り当て量」を選択します。
「ユーザーおよび割り当て量」画面が表示されます。
3. 「ユーザーの追加」をクリックします。
「新しいユーザーの追加」画面が表示されます。



The screenshot shows a web interface titled "Users and Allowances". Below the title is a section "Add a New User". A message states: "Please provide information below to create a new IO Domain Creation Tool user." The form contains five fields: "Username:" with a text input and an information icon; "Password:" with a text input; "Password Confirmation:" with a text input and an information icon; "Email:" with a text input; and "Administrator Role:" with a dropdown menu and an information icon. At the bottom of the form are two buttons: "Add" and "Cancel".

4. 次の情報を入力します。
 - **ユーザー名** – この新規ユーザーの名前。
 - **パスワード** – ユーザーがツールへのログインに使用するパスワード。

- パスワードの確認
 - 電子メール – 新規ユーザーの電子メールアドレス。
 - 管理者ロール – このユーザーに管理者権限を持たせる場合に選択します。49 ページの「ユーザーのロールおよび権限」を参照してください。
5. 「追加」をクリックします。
 6. 次のアクションを検討します。
 - 次の構成タスクに進みます。
54 ページの「ユーザーへのリソースの割り当て (管理者)」を参照してください。
 - 「管理タスクの概要」に移動します。
17 ページの「管理タスクの概要」を参照してください。

▼ ユーザーへのリソースの割り当て (管理者)

このタスクを実行するには管理者権限が必要です。

ユーザーにリソース上限を割り当てるには、この手順を使用します。これは上限であり、予約されたリソースセットまたは割り当て制限ではありません。

上限を割り当てない場合、ユーザーは制約なしとして分類されるため、そのユーザーは使用可能なリソースの量によってのみ制限されます。

ユーザーの計画については、50 ページの「I/O ドメインのユーザーおよびリソース割り当ての計画」を参照してください。

I/O ドメインユーザーのワークシートが完成している場合は、ワークシート内の情報を使用してこの手順を完了してください。51 ページの「I/O ドメインユーザーのワークシート」を参照してください。

1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」を参照してください。
2. 必要に応じて、ユーザーアカウントを作成します。
52 ページの「ユーザーの追加 (管理者)」を参照してください。
3. ナビゲーションパネルで、「ユーザーおよび割り当て量」を選択します。
「ユーザーおよび割り当て量」画面が表示されます。
4. リソースを割り当てるユーザーを選択します。

5. 「リソース割り当て」をクリックします。
「ユーザーおよび割り当て量」画面が表示されます。

Users and Allowances ⓘ

Assign Resources to User

Username: user01

Number of Cores: 16

Memory (in GB): 512

Number of 10Gb Interfaces: 16

Number of FC VFs:

Save Cancel

6. この情報を入力します。
リソースの割り当ては慎重に行なってください。構成する 10GbE インタフェースが増えるほど、より多くの IP アドレスが必要になります。
- **CPU コア数** – このユーザーに割り当てるコアの最大数。
 - **メモリー量 (GB)** – このユーザーに割り当てるメモリーの最大量 (GB 単位)。
 - **10Gb インタフェース数** – このユーザーに割り当てる 10GbE インタフェースの最大数。
 - **FC VF の数** – (存在する場合) このユーザーが消費できるファイバチャネル VF の最大数。

注記 - リソースがすでに割り当てられている場合は、「クリア」ボタンが表示されます。「クリア」ボタンをクリックすると、すべてのリソース割り当てフィールドがクリアされ、変更が保存され、ユーザーにはリソース制限がなくなります。

7. 「保存」をクリックします。
ユーザーのリソース割り当て量が「ユーザーおよび割り当て量」画面に表示されます。
8. 次のアクションを検討します。

- 次の構成セクションに進みます。
67 ページの「レシピとテンプレートの管理」を参照してください。
- 「管理タスクの概要」に移動します。
17 ページの「管理タスクの概要」を参照してください。
- ユーザーパスワードを変更します。
59 ページの「ユーザーのパスワードの変更 (管理者)」を参照してください。

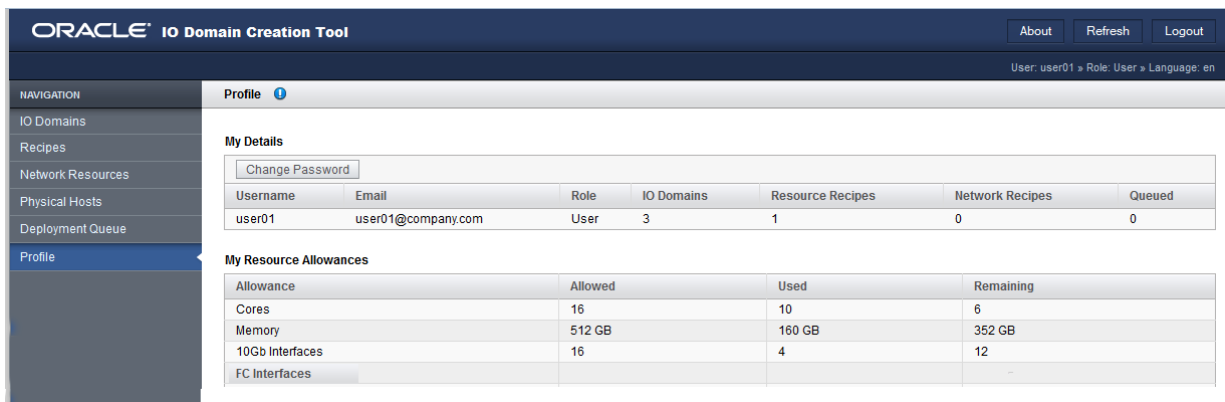
▼ リソース割り当て量の表示

ツール管理者は、各ユーザーに対してリソースの上限を割り当てることができます。この手順を使用して、割り当て済み、使用済み、および残りのリソースに関する情報を表示します。

管理者は、任意のユーザーのリソース割り当て量を表示できます。管理者以外のユーザーは、自分の割り当て量だけを表示できます。

注記 - ユーザーアカウントがリソース制約なしに構成されている場合は、使用可能な任意のリソースを使用できます。

1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「プロファイル」を選択します。
リソース割り当て量が表示されます。



The screenshot shows the Oracle IO Domain Creation Tool interface. The left navigation pane has 'Profile' selected. The main content area shows the 'Profile' page for user01. It includes a 'My Details' section with a 'Change Password' button and a table of user information. Below that is the 'My Resource Allowances' section with a table showing allowed, used, and remaining resources.

Username	Email	Role	IO Domains	Resource Recipes	Network Recipes	Queued
user01	user01@company.com	User	3	1	0	0

Allowance	Allowed	Used	Remaining
Cores	16	10	6
Memory	512 GB	160 GB	352 GB
10Gb Interfaces	16	4	12
FC Interfaces			

3. 次のアクションを検討します。

- システムリソースを表示します。
[40 ページの「システムリソースの表示」](#)を参照してください
- 「管理タスクの概要」に移動します。
[17 ページの「管理タスクの概要」](#)を参照してください。

▼ パスワードの変更

ユーザーパスワードは、最初にユーザーアカウントを作成するときに設定されます。ツール管理者から、ユーザーに対して初期パスワードが指定されます。初期パスワードを受け取ったあとに、この手順を使用していつでもパスワードを変更できます。

注記 - パスワードを忘れた場合は、ツール管理者がパスワードのリセットを開始できます。[58 ページの「パスワードのリセット要求」](#)を参照してください。

1. パスワードの変更が必要なユーザーとしてログインします。
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「プロファイル」を選択します。
3. 「パスワードの変更」をクリックします。
「パスワードの変更」画面が表示されます。

The screenshot shows a web interface with a dark sidebar on the left. The main content area has a header 'Profile' and a sub-header 'Change Password'. Below the sub-header, there are four labeled input fields: 'Username:' with the value 'user01', 'Old password:', 'New password:', and 'New password confirmation:'. At the bottom of the form are two buttons: 'Save' and 'Cancel'.

Profile	
Change Password	
Username:	user01
Old password:	
New password:	
New password confirmation:	
Save Cancel	

4. 古いパスワード、新しいパスワード、および確認のパスワードを入力します。
5. 「保存」をクリックします。
6. 次のアクションを検討します。
 - パスワードをリセットします。
58 ページの「パスワードのリセット要求」を参照してください。

▼ パスワードのリセット要求

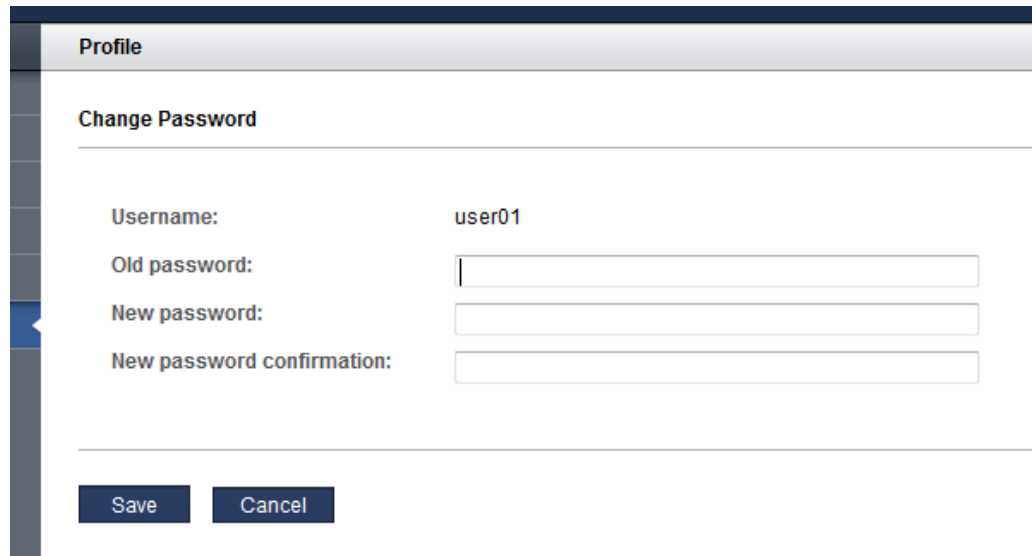
パスワードを忘れた場合は、ツール管理者がパスワードのリセットを開始できます。ツールから、パスワードをリセットできるリンクが電子メールで送信されます。このリンクが有効なのは 24 時間だけです。

ツール内でパスワードのリセットを開始したりユーザーの電子メールアドレスを変更したりできるのは、ツール管理者のみです。

注記 - パスワードのリセットを実行できるようにするには、ツールに有効な電子メールアドレスがあらかじめ存在する必要があります。

1. ツール管理者に問い合わせ、パスワードのリセットを依頼します。
2. `do_not_reply` 電子メールを受信したら、電子メール内のリンクをクリックします。

「パスワードのリセット」画面がブラウザに表示されます。



The screenshot shows a web interface for changing a password. The page has a dark blue header with the word 'Profile'. Below it, the section is titled 'Change Password'. The form includes the following elements:

- Username:** A label followed by the text 'user01'.
- Old password:** A label followed by a text input field.
- New password:** A label followed by a text input field.
- New password confirmation:** A label followed by a text input field.
- Buttons:** Two buttons labeled 'Save' and 'Cancel' are located at the bottom of the form.

3. 元のパスワード、新しいパスワード、および確認のパスワードを入力し、「保存」をクリックします。
4. 次のいずれかのボタンをクリックします。
 - ログアウト – ツールからログアウトします。
 - 戻る – ツールにログインします。
5. 次のアクションを検討します。
 - パスワードを変更します。
[57 ページの「パスワードの変更」](#)を参照してください。

▼ ユーザーのパスワードの変更 (管理者)

管理者ロールを持つユーザーは、任意のユーザーのパスワードを変更できます。

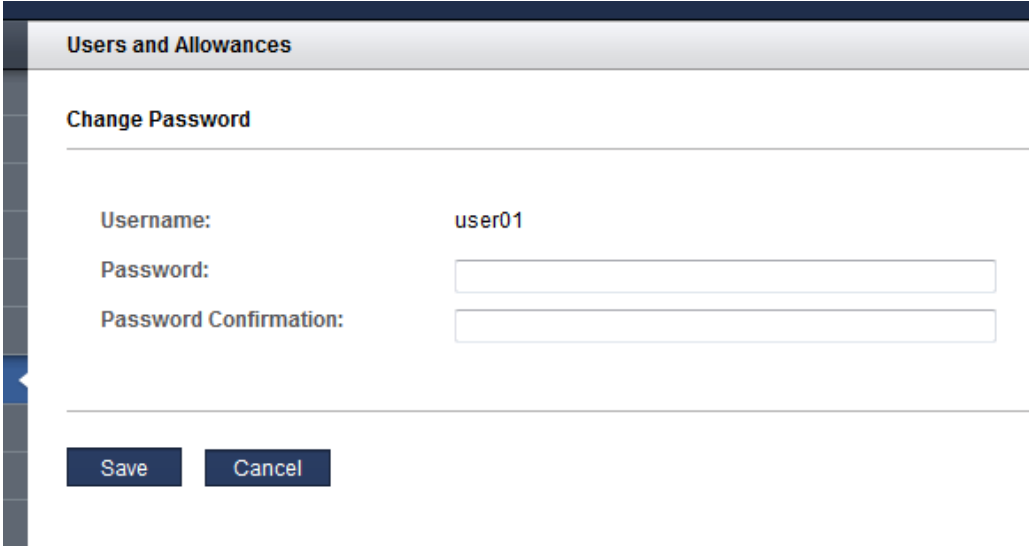
管理者ロールを持たないユーザーは、自分のパスワードだけを変更できます
([57 ページの「パスワードの変更」](#)を参照)

強度などのパスワードパラメータは、ツールのセキュリティー設定によって管理されます。[31 ページの「セキュリティー設定の構成 \(管理者\)」](#)を参照してください

あるユーザーが自分のパスワードを忘れた場合、管理者ロールを持つユーザーが、パスワードリセットを開始するか (61 ページの「[ユーザーのパスワードのリセット \(管理者\)](#)」を参照)、この手順の説明に従ってユーザーのパスワードを変更することができます。

注記 - ユーザーパスワードは、最初にユーザーアカウントを作成するときに設定されます。52 ページの「[ユーザーの追加 \(管理者\)](#)」を参照してください。

1. ツールにログインします。
35 ページの「[I/O ドメイン作成ツールへのログイン](#)」を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「ユーザーおよび割り当て量」を選択します。
3. パスワードを変更するユーザーを選択します。
4. 「パスワードの変更」をクリックします。
「パスワードの変更」画面が表示されます。



The screenshot shows a web interface titled "Users and Allowances". Below the title is a section labeled "Change Password". The form contains three fields: "Username:" with the value "user01", "Password:" with an empty text input field, and "Password Confirmation:" with an empty text input field. At the bottom of the form are two buttons: "Save" and "Cancel".

5. 新しいパスワード、およびパスワードの確認を入力します。
6. 「保存」をクリックします。
7. 次のアクションを検討します。

- ユーザー属性を編集します。
[64 ページの「ユーザーの電子メールアドレスまたはロールの編集 \(管理者\)」](#)を参照してください。
- 次の構成セクションに進みます。
[67 ページの「レシピとテンプレートの管理」](#)を参照してください。

▼ ユーザーのパスワードのリセット (管理者)

このタスクを実行するには管理者権限が必要です。

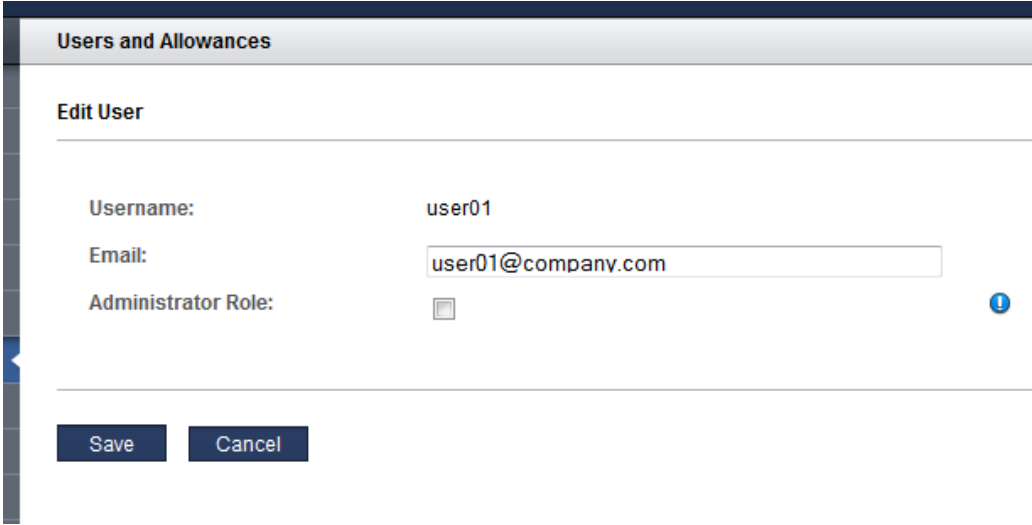
admin ユーザーも含め、あるユーザーがパスワードのリセットを必要としている場合、管理者ロールを持つ任意のユーザーがリセットリクエストを開始できます。ユーザーが自分のパスワードを変更できるフォームへのリンクを含む電子メールが、ツールからユーザーに送信されます。リセットリンクは 24 時間のみ有効です。

リセットが成功するには sendmail が有効になっている必要があります。

注記 - パスワードを (リセットではなく) 変更する手順については、[59 ページの「ユーザーのパスワードの変更 \(管理者\)」](#)を参照してください。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. **ナビゲーションパネルで、「ユーザーおよび割り当て量」を選択します。**
「ユーザーおよび割り当て量」画面が表示されます。
3. **ユーザーを選択し、「ユーザーの編集」をクリックしてユーザーの電子メールアドレスを確認します。**

ユーザーの電子メールアドレスが正しいことを確認してください。



The screenshot shows a web interface titled "Users and Allowances". Below the title is a section labeled "Edit User". This section contains three labeled input fields: "Username:" with the value "user01", "Email:" with the value "user01@company.com", and "Administrator Role:" with an unchecked checkbox. To the right of the "Administrator Role:" field is a blue circular icon with a white exclamation mark. At the bottom of the "Edit User" section are two buttons: "Save" and "Cancel".

4. 次のボタンのいずれかをクリックします。
 - 保存 – 変更を行なった場合。
 - 取消し – 変更を行わなかった場合。
5. ユーザーを選択し、「パスワードのリセット」をクリックします。

「パスワードのリセット」画面が表示されます。

The screenshot shows a web interface titled 'Users and Allowances'. Below the title is a section 'Password Reset'. The text in this section reads: 'You have requested to reset the password for the user **user01**. Upon confirmation, the user will receive an email with a link to a form to reset his own password. Please make sure that the email **user01@company.com** is correct before continuing.' Below this text is a confirmation question: 'Are you sure you want to reset user01's password?'. At the bottom of the dialog are two buttons: 'Yes' and 'Cancel'.

6. 「はい」をクリックします。

パスワードをリセットするためのリンクを含む電子メールがツールからユーザーに送信されます。

例:

Subject: ACTION REQUIRED: Password Reset for SuperCluster IO Domain Creation Tool
Date: Tue, 02 Feb 2016 17:03:14 -0000
From: do_not_reply@company.com
To: user01@company.com

Please do not reply to this email!

A SuperCluster IO Domain Creation Tool Administrator has requested a password reset for username user01, which is associated with this email address.

Please use the following link to reset your password for the SuperCluster IO Domain Creation Tool.
 The link is valid for the next 24 hours:
<http://company.com/iodct/accounts/password/reset/confirm/5/3uo-bea87f739d4dfd78acbd/>

If you have any further questions please contact your SuperCluster IO Domain Creation Tool Administrator.

7. 次のアクションを検討します。

- ユーザー属性を編集します。
 64 ページの「ユーザーの電子メールアドレスまたはロールの編集 (管理者)」を参照してください。
- 次の構成セクションに進みます。
 67 ページの「レシピとテンプレートの管理」を参照してください。

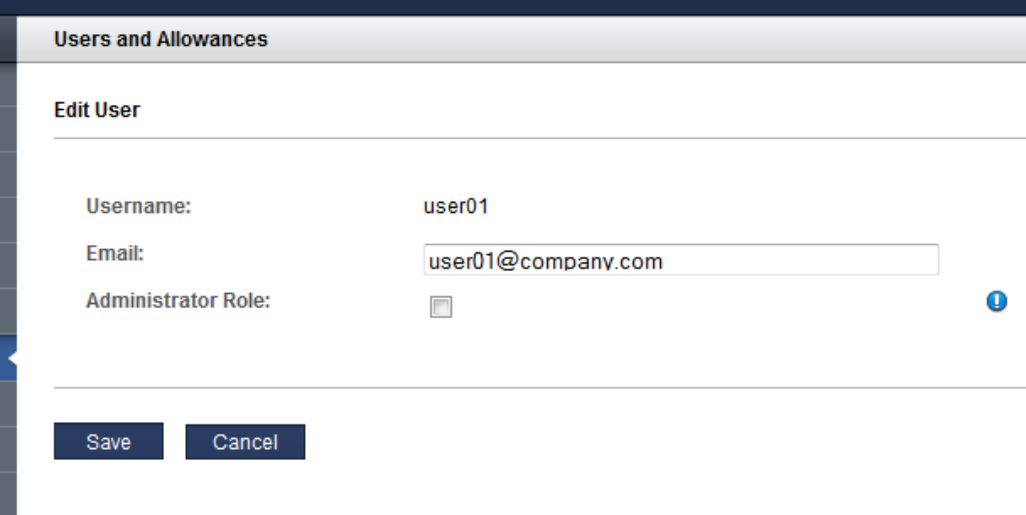
▼ ユーザーの電子メールアドレスまたはロールの編集 (管理者)

管理者ロールを持つユーザーは、任意のユーザーについて次のユーザー属性を編集できます。

- 電子メールアドレス
- ロール (管理者ロール)

注記 - ユーザーのリソース割り当てを変更するには、[54 ページの「ユーザーへのリソースの割り当て \(管理者\)」](#)を参照してください。ユーザーのパスワードを変更するには、[59 ページの「ユーザーのパスワードの変更 \(管理者\)」](#)を参照してください。

1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「ユーザーおよび割り当て量」を選択します。
3. ユーザーを選択します。
4. 「編集」をクリックします。
「ユーザーの編集」画面が表示されます。



The screenshot shows a web interface titled "Users and Allowances". Below the title is a section labeled "Edit User". The form contains three fields: "Username:" with the value "user01", "Email:" with the value "user01@company.com", and "Administrator Role:" with a checkbox. At the bottom of the form are two buttons: "Save" and "Cancel".

5. 任意のユーザー属性を変更します。

6. 「保存」をクリックします。
7. 次のアクションを検討します。
 - ユーザーを削除します。
[65 ページの「ユーザーの削除 \(管理者\)」](#)を参照してください。
 - 次の構成セクションに進みます。
[67 ページの「レシピとテンプレートの管理」](#)を参照してください。

▼ ユーザーの削除 (管理者)

管理者ロールを持つ任意のユーザーは、admin ユーザー以外の任意のユーザーを削除できます。

ユーザーアカウントが削除されると、ユーザーの I/O ドメインおよびレシピは自動的に削除されます。ユーザーのリソースは使用可能なリソースのプールに戻されます。



注意 - ユーザーを削除したあとは、そのユーザーアカウントを回復することはできません。ユーザーの I/O ドメインおよびレシピはすべて削除されます。そのアカウントに関連付けられていたデータは使用できなくなります。

1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「ユーザーおよび割り当て量」を選択します。
3. ユーザーを選択します。
4. 「ユーザーの削除」をクリックします。
「ユーザーの削除」画面が表示されます。
5. 「はい」をクリックします。
6. 次のアクションを検討します。
 - ユーザーを追加します。
[52 ページの「ユーザーの追加 \(管理者\)」](#)を参照してください。
 - 次の構成セクションに進みます。
[67 ページの「レシピとテンプレートの管理」](#)を参照してください。

レシピとテンプレートの管理

レシピは、I/O ドメインを作成するために使用する設定済みリソース構成です。レシピには次の 2 つのタイプがあります。

- **リソースレシピ** – リソースレシピで作成される I/O ドメインに適用する、コア、メモリー、およびネットワークリソースの量を定義できます。
- **ネットワークレシピ** – ネットワークレシピで作成される I/O ドメインに適用するネットワークパラメータを定義できます。

デフォルトのレシピを使用するか、または独自のレシピを作成することができます。

または、I/O ドメインの作成時に、1 回のみ使用できるカスタムレシピでリソースを定義できます。[79 ページの「I/O ドメインの作成方法の選択」](#)を参照してください。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [67 ページの「デフォルトのリソースレシピ」](#)
- [68 ページの「レシピの表示」](#)
- [70 ページの「リソースレシピの作成」](#)
- [72 ページの「ネットワークレシピの作成」](#)
- [74 ページの「レシピの編集」](#)
- [75 ページの「レシピの削除」](#)
- [75 ページの「OVM テンプレートのアップロード \(管理者\)」](#)

デフォルトのリソースレシピ

I/O ドメイン作成ツールでは、これらのリソースに対して次のデフォルトのレシピが提供されます。

サイズ	タイプ	所有者	コア	メモリー(G バイト)	10GbE	FC インタフェ ース	ユーザー
Large	アプリケー ションドメイ ン	admin	8	128	1	0	すべて

レシピの表示

サイズ	タイプ	所有者	コア	メモリー(G バイト)	10GbE	FC インタフェー ス	ユーザー
Large	データベース ドメイン	admin	8	128	1	0	すべて
Medium	アプリケー ションドメイ ン	admin	4	64	1	0	すべて
Medium	データベース ドメイン	admin	4	64	1	0	すべて
Small	アプリケー ションドメイ ン	admin	2	32	1	0	すべて
Small	データベース ドメイン	admin	2	32	1	0	すべて

管理者は、デフォルトのレシピを編集できます。デフォルトのレシピを削除することはできません。

レシピを表示する場合は、[68 ページの「レシピの表示」](#)を参照してください。

独自のレシピを作成する場合は、[70 ページの「リソースレシピの作成」](#)を参照してください。

▼ レシピの表示

リソースレシピとネットワークレシピを表示するには、この手順を使用します。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. **ナビゲーションパネルで、「レシピ」を選択します。**
既存のリソースレシピとネットワークレシピのリストが表示されます。

管理者に表示される画面の例を次に示します。管理者以外のユーザーの画面は、これに似ていますが、そのユーザーが使用できるように構成されているレシピだけが表示されます。

Oracle IO Domain Creation Tool

NAVIGATION: IO Domains, **Recipes**, OVM Templates, Network Resources, Physical Hosts, Deployment Queue, Users and Allowances, Settings, Health Monitor, System Log, Profile

Recipes

All Resource Recipes

Name	Domain Type	Owner	Cores	Memory	10Gb Interfaces	FC Interfaces	Users	State
Large	Solaris 11 Application Domain	admin	8	128 GB	1	0	All	Active
Large	Oracle Database Domain	admin	8	128 GB	1	0	All	Active
Medium	Solaris 11 Application Domain	admin	4	64 GB	1	0	All	Active
Medium	Oracle Database Domain	admin	4	64 GB	1	0	All	Active
Small	Solaris 11 Application Domain	admin	2	32 GB	1	0	All	Active
Small	Oracle Database Domain	admin	2	32 GB	1	0	All	Active

All Network Recipes

Name	Owner	Domain Name	Name Servers	Time Servers	Time Zone	Users	State
default	admin	us.oracle.com	197, 198, 132	1	America/Los_Angeles	All	Active

「使用可能なリソースレシピ」表には、次の情報が表示されます。

- **名前** – レシピの名前。
- **ドメインタイプ** – レシピで作成される I/O ドメインのタイプ (アプリケーションまたはデータベース) を示します。ツールには、アプリケーションおよびデータベースの、「Small」、「Medium」、および「Large」のデフォルトレシピが用意されています。
- **所有者** – レシピを作成して所有しているユーザー。
- **コア** – このレシピで I/O ドメインに割り当てられているコアの数。
- **メモリー** – このレシピで I/O ドメインに割り当てられているメモリー量 (G バイト単位)。メモリーは常に 16G バイトブロック単位で割り当てられます。
- **10Gb インタフェース** – このレシピで I/O ドメインに割り当てられる 10GbE インタフェースの数。
- **FC インタフェース** – このレシピで I/O ドメインに割り当てられるファイバチャネルインタフェースの数。
- **ユーザー** – このレシピにアクセスするすべてのユーザー。
- **状態** – (管理者のみ利用可能) 「アクティブ」 (使用可能) または 「非アクティブ」 (使用不可) のいずれか。

「ネットワークレシピ」表には、次の情報が表示されます。

- **名前** – ネットワークレシピの名前。
- **所有者** – ネットワークレシピを作成して所有しているユーザー。

- **ドメイン名** – このレシピで作成されるネットワークに割り当てられるドメイン名。
- **ネームサーバー** – このレシピで作成されるネットワークに割り当てられるネームサーバーの IP アドレスのリスト。
- **タイムサーバー** – このレシピで作成されるネットワークに割り当てられるタイムサーバーの IP アドレスのリスト。
- **タイムゾーン** – このレシピで作成されるネットワークに割り当てられるタイムゾーン。
- **ユーザー** – このレシピを使用して I/O ドメインを作成できるユーザー。
- **状態** – (管理者のみ利用可能) 「アクティブ」 (使用可能) または 「非アクティブ」 (使用不可) のいずれか。

3. 次のアクションを検討します。

- 次のタスクに進みます。
[70 ページの「リソースレシピの作成」](#) を参照してください。
- 「管理タスクの概要」に移動します。
[17 ページの「管理タスクの概要」](#) を参照してください。
- 次の構成の章に進みます。
[79 ページの「I/O ドメインの構成および配備」](#) を参照してください。

▼ リソースレシピの作成

新しいリソースレシピを作成するには、この手順を使用します。

注記 - または、I/O ドメインの作成時に、1 回のみ使用できるカスタムレシピでリソースを定義できます。[79 ページの「I/O ドメインの構成および配備」](#) を参照してください。

注記 - I/O ドメイン作成ツールでは、合計リソース数を超えるレシピを作成することは防止されません。リソースを表示するには、[40 ページの「システムリソースの表示」](#) を参照してください。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#) を参照してください。
2. **ナビゲーションパネルで、「レシピ」を選択します。**
既存のリソースレシピとネットワークレシピのリストが表示されます。
3. **「すべてのリソースレシピ」で、「追加」をクリックします。**
「新規リソースレシピの作成」画面が表示されます。

管理者に表示される画面の例を次に示します。管理者以外のユーザーの画面は、これに似ていますが、後述のような相違点があります。

Recipes ⓘ

Create a New Resource Recipe

Recipe Name:

Domain Type: Oracle Database Domain ⓘ

Number of Cores: 1 ⓘ

Memory: 16 GB ⓘ

Number of 10Gb Interfaces: 1 ⓘ

Number of FC Interfaces: 0 ⓘ

Apply to All: ☒ ⓘ

Applicable Users: admin
user01 ⓘ

Active: ☒ ⓘ

Save **Cancel**

4. この情報を入力します。

リソースの割り当ては慎重に行なってください。多くの 10GbE インタフェースを構成するほど、多くの IP アドレスが必要になります。ツールでは、ドメインのタイプに基づいてコア数およびメモリーに制限が課されます。

- **レシピ名** – このレシピの名前。
- **ドメインタイプ** – このレシピで作成される I/O ドメインのタイプを指定します。選択肢は、「アプリケーションドメイン」または「データベースドメイン」です。OVM テンプレートを使用してドメインを構成する予定の場合は、「アプリケーションドメイン」を選択します (75 ページの「[OVM テンプレートのアップロード \(管理者\)](#)」を参照)。
- **コア数** – このレシピで I/O ドメインに割り当てられているコアの数。
- **メモリー** – このレシピで I/O ドメインに割り当てられているメモリー量 (G バイト単位)。

- **10Gb インタフェース数** – このレシピで I/O ドメインに割り当てられる 10GbE インタフェースの数。最小値は 1 です。
 - **FC インタフェースの数** – (装備され、ツールで構成されている場合。47 ページの「I/O ドメインでのファイバチャネルインタフェースのサポート」を参照してください)。このレシピで I/O ドメインに割り当てられるファイバチャネルインタフェースの数。最小値は 0 です。
 - **すべてに適用** – (管理者のみ利用可能)「適用可能なユーザー」リストに一覧表示されているすべてのユーザーがこのレシピにアクセスできるようにする場合に、このオプションを選択します。
 - **適用可能なユーザー** – (管理者のみ利用可能)「すべてに適用」を選択しなかった場合に、個別のユーザーを選択します。複数のユーザーを選択する場合は、Control キー (Mac では Command キー) を使用します。
 - **アクティブ** – (管理者のみ利用可能) 選択するとこのレシピが使用可能になります。
5. 「保存」をクリックします。
 6. 次のアクションを検討します。
 - 「管理タスクの概要」に移動します。
17 ページの「管理タスクの概要」を参照してください。
 - 次のタスクに進みます。
74 ページの「レシピの編集」。

▼ ネットワークレシピの作成

ネットワークレシピでは、ネットワークレシピで作成される I/O ドメインに自動的に適用するネットワークパラメータを定義できます。

注記 - または、I/O ドメインの作成時に、1 回のみ使用できるカスタムネットワークレシピでリソースを定義できます。79 ページの「I/O ドメインの構成および配備」を参照してください。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」を参照してください。
2. **ナビゲーションパネルで、「レシピ」を選択します。**
既存のリソースレシピとネットワークレシピのリストが表示されます。
3. **「すべてのネットワークレシピ」で、「追加」をクリックします。**

「新規ネットワークレシピの作成」画面が表示されます。

The screenshot shows a web interface titled "Recipes" with a sub-header "Create a New Network Recipe". The form contains the following fields and controls:

- Recipe Name:** A text input field.
- Domain Name:** A text input field.
- Name Servers:** A text input field with an information icon on the right.
- Time Servers:** A text input field with an information icon on the right.
- Time Zone:** A dropdown menu currently showing "Europe/London" with an information icon on the right.
- Apply to All:** A checkbox that is checked, with an information icon on the right.
- Applicable Users:** A list box containing "admin" and "user01" with an information icon on the right.
- Active:** A checkbox that is checked, with an information icon on the right.

At the bottom of the form are two buttons: "Save" and "Cancel".

4. この情報を入力します。

- **レシピ名** – このレシピを識別する一意の名前を指定します。
- **ドメイン名** – このレシピで作成される I/O ドメインに適用するドメイン名 (company.com など) を指定します。
- **ネームサーバー** – このレシピで作成される I/O ドメインに適用するネームサーバーの IP アドレスを、コンマまたはスペース区切りのリストで指定します。
- **タイムサーバー** – このレシピで作成される I/O ドメインに適用するタイムサーバーの IP アドレスを、コンマまたはスペース区切りのリストで指定します。
- **タイムゾーン** – プルダウンリストからタイムゾーンを選択します。選択したタイムゾーンは、このレシピで作成される I/O ドメインに適用されます。
- **すべてに適用** – (管理者のみ利用可能) 「適用可能なユーザー」リストに一覧表示されているすべてのユーザーがこのレシピにアクセスできるようにする場合に、このオプションを選択します。

- **適用可能なユーザー** – (管理者のみ利用可能) 「すべてに適用」を選択しなかった場合に、個別のユーザーを選択します。複数のユーザーを選択する場合は、Control キー (Mac では Command キー) を使用します。
 - **アクティブ** – (管理者のみ利用可能) 選択するとこのレシピが使用可能になります。
5. 「保存」をクリックします。
 6. 次のアクションを検討します。
 - 「管理タスクの概要」に移動します。
[17 ページの「管理タスクの概要」](#)を参照してください。
 - 次のタスクに進みます。
[74 ページの「レシピの編集」](#)。

▼ レシピの編集

リソースレシピまたはネットワークレシピを編集するには、この手順を使用します。

レシピに加えた変更は、将来このレシピを使用して作成される I/O ドメインでのみ反映されます。変更は、このレシピに基づいて以前に作成された I/O ドメインでは反映されません。

注記 - I/O ドメイン作成ツールでは、使用可能な合計リソース数を超えるレシピを作成することは防止されません。リソースを表示するには、[40 ページの「システムリソースの表示」](#)を参照してください。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「レシピ」を選択します。
 リソースレシピとネットワークレシピが表示されます。
3. 編集するレシピを選択して、「編集」をクリックします。
 レシピの編集画面が表示されます。
4. 表示されたパラメータを必要に応じて変更します。
5. 「保存」をクリックします。
6. 次のアクションを検討します。
 - 「管理タスクの概要」に移動します。

[17 ページの「管理タスクの概要」](#)を参照してください。

- 次のタスクに進みます。

[75 ページの「レシピの削除」](#)を参照してください。

▼ レシピの削除

この手順を使用して、レシピを削除します。削除済みのレシピを使用して作成された I/O ドメインは影響を受けません。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. **ナビゲーションパネルで、「レシピ」を選択します。**
リソースレシピとネットワークレシピが表示されます。
3. **削除するレシピを選択して、「削除」をクリックします。**
4. **「はい」をクリックします。**
レシピが削除されます。
5. **次のアクションを検討します。**
 - 「管理タスクの概要」に移動します。
[17 ページの「管理タスクの概要」](#)を参照してください。

▼ OVM テンプレートのアップロード (管理者)

この手順を実行できるのは、管理者ロールを持つユーザーだけです。

Oracle VM (OVM) テンプレートを使用すると、事前インストールおよび事前構成されたソフトウェアイメージを使用して完全に構成済みのソフトウェアスタックを配備できます。

OVM テンプレートを使用して I/O ドメインを作成するには、その前にテンプレートをツールにアップロードする必要があります。ツールでテンプレートが利用可能になったら、ユーザーは I/O ドメインの作成プロセス中にテンプレートを選択することにより、OS とアプリケーションが事前に構成されている I/O ドメインを作成できます。ツール内のテンプレートは、I/O ドメインを作成するために繰り返し使用できます。

OVM テンプレートに関する追加リソースを次の表に示します。

リソース	リンク
このガイドの手順	98 ページの「OVM テンプレートを使用した I/O ドメインの構成」
Oracle ブログ: SPARC 用 OVM テンプレート入門 - パート 3: SuperCluster でのテンプレートの使用	https://blogs.oracle.com/cmt/en/entry/getting_started_with_ovm_templates2
MOS 記事: SuperCluster の I/O ドメインで OVM テンプレートを使用する (ドキュメント ID 2065199.1)	https://support.oracle.com

1. ツールでサポートされる OVM テンプレートを入手します。

OVM テンプレートの詳細については、<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/vm/templates-101937.html> にアクセスしてください。

注記 - すべての OVM テンプレートが I/O ドメイン作成ツールでサポートされるわけではありません。

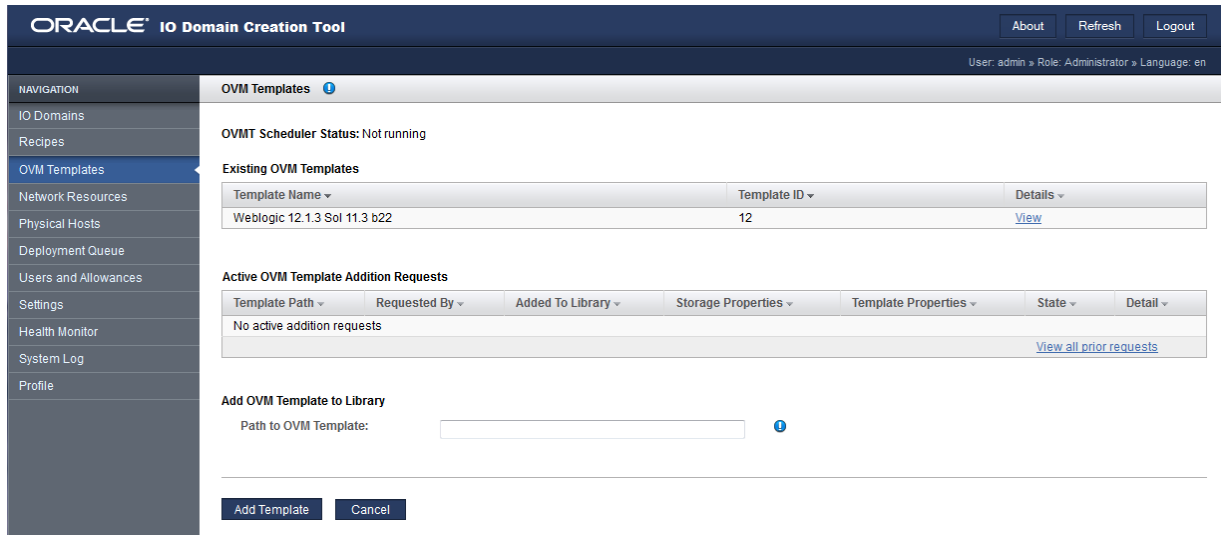
SuperCluster のマスター制御ドメインからアクセスできる場所に、テンプレートをファイルとして保存します。

2. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。

[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。

3. ナビゲーションパネルで、「OVM テンプレート」を選択します。

「OVM テンプレート」画面が表示されます。



4. 「OVM テンプレートへのパス」で、Oracle Support からダウンロードした OVM テンプレートへのパスを入力します。
5. 「テンプレートの追加」をクリックします。
テンプレートをアップロードするには数分を要します。
テンプレートをアップロードすると、このテンプレートを使用して I/O ドメインを作成できます。
6. アップロードの進行状況をモニターするには、次のアクティビティを実行します。
 - ツールに、この例と同じようなメッセージが表示されます。

The template from file file:///var/tmp/ovmt/OVM_S11.1_WLS12.1.3_SPARC_SCRIPT_B4.ova is being added. This may take several minutes.

- マスター制御ドメインで、次のように入力します。

```
root@etc4m-appadm0101:~# ps -ef | grep ovmt | grep -v grep
root 47826 47825 0 19:15:36 ? 0:00 ksh /opt/oracle.supercluster/osc-ovmt/osc-ovmt -i
file:///var/tmp/ovmt/OVM_S11.
root 47822 646 0 19:15:36 ? 0:00 /usr/bin/python /opt/oracle.supercluster/osc-domcreate/
iodine/iodine/ovmt.py -a
```

```
root 47914 47826 0 19:15:38 ? 0:00 /opt/oracle.supercluster/osc-ovmtutils/ovmtlibrary -c
store -o file:///var/tmp/
root@etc4m-appadm0101:~#
```

7. 次のアクションを検討します。

- OVM テンプレートを使用して I/O ドメインを構成します。
[98 ページの「OVM テンプレートを使用した I/O ドメインの構成」](#)を参照してください。
- 「管理タスクの概要」に移動します。
[17 ページの「管理タスクの概要」](#)を参照してください。
- 「I/O ドメイン構成タスクの概要」に移動します。
[18 ページの「I/O ドメイン構成タスクの概要」](#)を参照してください。
- I/O ドメインを表示します。
[83 ページの「I/O ドメインを表示します」](#)を参照してください。

I/O ドメインの構成および配備

これらのトピックでは、Oracle I/O ドメイン作成ツールを使用して、SuperCluster で I/O ドメインを構成および管理する方法について説明します。

I/O ドメインを管理するには、これらのトピックを使用します。

説明	リンク
I/O ドメインの作成方法を選択します。	79 ページの「I/O ドメインの作成方法の選択」
必要な情報を収集します。	80 ページの「I/O ドメインを構成するために必要な情報」
I/O ドメインを表示します。	83 ページの「I/O ドメインを表示します」
データベース、アプリケーション、またはテンプレートベースの I/O ドメインを構成します。	86 ページの「データベース I/O ドメインの構成」 92 ページの「アプリケーション I/O ドメインの構成」 98 ページの「OVM テンプレートを使用した I/O ドメインの構成」
データベース I/O ドメインの SCAN 名を変更します。	92 ページの「SCAN ネットワークの名前の変更」
I/O ドメインのコア数およびメモリーを増減します。	105 ページの「I/O ドメインのリソースの増減」
I/O ドメインを配備します。	108 ページの「I/O ドメインの配備」
Oracle Enterprise Manager のテキストをエクスポートします。	110 ページの「Oracle Enterprise Manager のテキストファイルのエクスポート」

▼ I/O ドメインの作成方法の選択

1. I/O ドメインリソースのサイズを変更する方法を選択します。

次のいずれかの方法を使用します。

- **デフォルトのリソースレシピを使用** – 用意されている「Large」、「Medium」、「Small」のデフォルトのレシピの 1 つを使用します。デフォルトのレシピに関連付けられているリソースを表示するには、[67 ページの「デフォルトのリソースレシピ」](#)を参照してください。
- **独自の再使用可能なレシピを使用** – レシピを作成します。[70 ページの「リソースレシピの作成」](#)を参照してください。

- **I/O ドメインごとに個別にリソースを定義** – I/O ドメインの作成プロセス中に、コア、メモリー、および 10GbE インタフェースの容量を指定します。レシピは作成しません。
2. **I/O ドメインにネットワークパラメータを適用する方法を選択します。**
次のいずれかの方法を使用します。
- **デフォルトのネットワークレシピを使用** – 用意されているものを使用します。[68 ページの「レシピの表示」](#)を参照してください。
 - **独自の再使用可能なネットワークレシピを使用** – ネットワークレシピを作成します。[72 ページの「ネットワークレシピの作成」](#)を参照してください。
 - **I/O ドメインごとに個別にネットワークパラメータを定義** – I/O ドメイン作成プロセス中に、ネットワークパラメータを指定します。
3. **作成する I/O ドメインのタイプを選択します。**
- **データベース I/O ドメイン** – [86 ページの「データベース I/O ドメインの構成」](#)のステップを実行します。
 - **アプリケーション I/O ドメイン** – [92 ページの「アプリケーション I/O ドメインの構成」](#)のステップを実行します。
 - **テンプレートベースの I/O ドメイン** – Oracle サポートからさまざまなタイプの OVM テンプレートを取得できます。テンプレートは、特定のアプリケーションに固有です。テンプレートを使用して構成された I/O ドメインを配備すると、テンプレートは次のアクティビティを自動化します。
 - OS をインストールして構成する
 - アプリケーションをインストールして構成する
- [98 ページの「OVM テンプレートを使用した I/O ドメインの構成」](#)のステップを実行します

I/O ドメインを構成するために必要な情報

次のいずれかのワークシートを使用して、I/O ドメインの構成時に必要な情報を収集できます。作成する I/O ドメインのタイプに対応する表を使用してください。

表 1 データベース I/O ドメインのワークシート

データベース I/O ドメイン	
使用可能なリソースを把握します。 40 ページの「システムリソースの表示」 を参照してください	
次のいずれかの項目:	

データベース I/O ドメイン	
■ 必要なリソースセットを持つリソースレシピ。 ■ コア、メモリー、10GbE インタフェース、および FC インタフェースの数 注記 - リソースが使用可能なリソースを超えないようにしてください。	
次のいずれかの項目: ■ 必要なリソースセットを持つネットワークレシピ。 ■ 次のネットワークパラメータ: ■ ドメイン名 ■ ネームサーバーの IP アドレス ■ タイムサーバーの IP アドレス ■ タイムゾーン	
RAC ID 番号	
物理ホスト	
管理ネットワークホスト名	
クライアントネットワークホスト名	
ストレージ IB ネットワークホスト名	
Exadata IB ネットワークホスト名	
VIP ネットワークホスト名	

表 2 アプリケーション I/O ドメインのワークシート

アプリケーション I/O ドメイン	
使用可能なリソースを把握します。 40 ページの「システムリソースの表示」 を参照してください	
次のいずれかの項目: ■ 必要なリソースセットを持つリソースレシピ。 ■ コア、メモリー、10GbE インタフェース、および FC インタフェースの数 注記 - リソースが使用可能なリソースを超えないようにしてください。	
次のいずれかの項目:	

アプリケーション I/O ドメイン	
■ 必要なリソースセットを持つネットワークレシピ。 ■ 次のネットワークパラメータ: ■ ドメイン名 ■ ネームサーバーの IP アドレス ■ タイムサーバーの IP アドレス ■ タイムゾーン	
物理ホスト	
管理ネットワークホスト名	
クライアントネットワークホスト名	
ストレージ IB ネットワークホスト名	

表 3 OVM テンプレートベースの I/O ドメインのワークシート

OVM テンプレートベースの I/O ドメイン	
使用可能なリソースを把握します。 40 ページの「システムリソースの表示」 を参照してください	
ツールにアップロードされた OVM テンプレート。	
次のいずれかの項目: ■ 必要なリソースセットを持つリソースレシピ。 ■ コア、メモリー、10GbE インタフェース、および FC インタフェースの数 注記 - リソースが使用可能なリソースを超えないようにしてください。	
次のいずれかの項目: ■ 必要なリソースセットを持つネットワークレシピ。 ■ 次のネットワークパラメータ: ■ ドメイン名 ■ ネームサーバーの IP アドレス ■ タイムサーバーの IP アドレス ■ タイムゾーン	
物理ホスト	
管理ネットワークホスト名	
クライアントネットワークホスト名	

OVIM テンプレートベースの I/O ドメイン	
ストレージ IB ネットワークホスト名	
(テンプレートに依存) 可能な追加の構成情報	

▼ I/O ドメインを表示します

I/O ドメイン、I/O ドメインリソース、およびその状態を表示するには、この手順を使用します。

1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
35 ページの「[I/O ドメイン作成ツールへのログイン](#)」を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「I/O ドメイン」を選択します。

The screenshot shows the Oracle IO Domain Creation Tool interface. The left sidebar contains a navigation menu with options: NAVIGATION, IO Domains (selected), Recipes, OVM Templates, Network Resources, Physical Hosts, Deployment Queue, Users and Allowances, Settings, Health Monitor, System Log, and Profile. The main content area is titled 'IO Domains' and displays two tables.

List of IO Domains

ID	Hostname	Domain Type	Physical Host	Owner	RAC ID	State	Details
5	fred	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 1	service	n/a	Ready for Use	View
6	db-test-1	Oracle Database Domain	M7 PDom 2	admin	1	Ready for Use	View
7	app-test-1	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 1	admin	n/a	Ready for Use	View

List of SCAN Address Groups

Hostname	Address 1	Address 2	Address 3	Owner	RAC ID
io-scan-2	147	148	149	admin	1

I/O ドメインのリストの下には次の情報が表示されます。

- **ID** – ツールによって I/O ドメインに割り当てられた整数。
- **ホスト名** – I/O ドメインの名前。
- **ドメインタイプ** – I/O ドメインの作成中に構成されたデータベース、アプリケーション、またはテンプレートベースのドメインのいずれか。
- **物理ホスト** – この I/O ドメインのリソースを提供する計算ノードを識別します。
- **所有者** – I/O ドメインを作成したユーザー。
- **RAC ID** – (データベースドメインの場合のみ) I/O ドメインが使用する RAC を識別します。各ユーザーに RAC ID のプライベートセットがあります。

- **状態** – I/O ドメインの状態を指定します。多くの状態があります。次にいくつか例を示します。
 - **LDom の作成中** – I/O ドメインの論理ドメインを作成中です。
 - **ドメインの削除中/ドメインを削除しました** – I/O ドメインは削除されます。
 - **ドメインの削除に失敗しました** – 削除操作に失敗しました。
 - **エラー** – エラーが発生しました。
 - **OS のインストール中** – OS をインストール中です。
 - **配備用のキューに格納済み** – I/O ドメインは配備キュー内にあり、配備の開始を待機しています。
 - **削除用のキューに格納済み** – I/O ドメインは削除するためにキューに入れられています。
 - **使用の準備完了** – I/O ドメインは稼働中です。
 - **割り当て済みリソース** – I/O ドメインが構成されています。リソースは割り当てられていますが、I/O ドメインはまだ使用のために配備されていません。

次の情報は、「SCAN アドレスグループ」の下に表示されます。

- **ホスト名** – Oracle RAC 単一クライアントアクセス名 (SCAN)。
- **アドレス 1** – 最初の SCAN IP アドレス。
- **アドレス 2** – 2 番目の SCAN IP アドレス。
- **アドレス 3** – 3 番目の SCAN IP アドレス。
- **所有者** – I/O ドメインを作成したユーザー。
- **RAC ID** – RAC 識別番号。

3. I/O ドメインの詳細は、「表示」をクリックします。

「I/O ドメイン」画面が表示されます。

IO Domains ⓘ

IO Domain Details

[General Info](#)
[Resources](#)
[Scan Address Groups](#)
[Log](#)

General Info

Type:	Oracle Database Domain
State:	Ready for Use
Root Domain(s):	
Install Group:	Solaris Minimal Server
Domain Name:	.com
Name Servers:	
Time Servers:	
Time Zone:	America/Los_Angeles

Management Hostname:	db-test-1
Management IP:	
10Gb Client Hostname:	db-test-client-1
10Gb Client IP:	
ZFS IB Hostname:	db-test-1-storib
ZFS IB IP:	
Exadata IB Hostname(s):	db-test-1-priv1
Exadata IB IP(s):	
VIP Hostname:	db-test-vip-1
VIP IP:	
Versaboot Hostnames:	db-test-1-storib-vb1, db-test-1-storib-vb2
Versaboot IPs:	

Resources

Edit

Number of Cores:	2
Cores:	121, 249
Memory:	32.0 GB
Memory Segments:	65568G:16G, 196640G:16G
Number of IB VFs:	1

4. 次のアクションを検討します。

- 「I/O ドメイン構成タスクの概要」に移動します。
[18 ページの「I/O ドメイン構成タスクの概要」](#)を参照してください。
- 次のタスクに進みます。
[86 ページの「データベース I/O ドメインの構成」](#)を参照してください。
- I/O ドメインを削除します。
[115 ページの「I/O ドメインの削除」](#)を参照してください

▼ データベース I/O ドメインの構成

この手順では、I/O ドメインへのリソース量の割り当ておよびネットワークパラメータの構成をレシピを使用して行うか、リソースとネットワークパラメータをその場で定義することができます。レシピを使用する計画がある場合、この手順を実行する前にそのレシピが存在している必要があります。[79 ページの「I/O ドメインの作成方法の選択」](#)を参照してください。

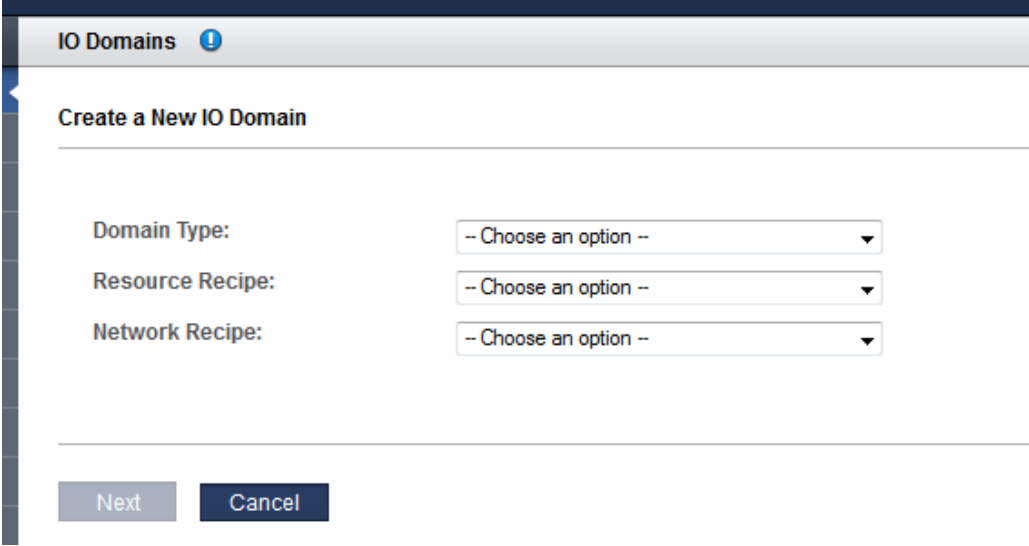
I/O ドメインを作成すると、指定された量のリソースが I/O ドメイン用に予約されますが、I/O ドメインは配備するまで使用できません。

ツールでは、使用できるよりも多くのリソースを割り当てることはできません。

注記 - `osc-setcoremem` ツールを使用して、専用ドメイン用の CPU およびメモリーの割り当てを変更する計画がある場合、I/O ドメインを構成する前に行なってください。使用している SuperCluster モデルの管理ガイドで、CPU およびメモリーリソースの構成に関するセクションを参照してください。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「**I/O ドメイン**」を選択します。
3. 「**追加**」をクリックします。

最初の「新しい I/O ドメインの作成」画面が表示されます。



4. これらのパラメータを定義します。

- **ドメインタイプ** – Oracle データベースドメインを選択します。
- **リソースレシピ** – プルダウンリストでいずれかのオプションを選択します。選択肢は、次のとおりです。
 - 「Small」、「Medium」、「Large」などのレシピ、および作成されるその他のレシピの 1 つ。[67 ページの「レシピとテンプレートの管理」](#)を参照してください。
 - カスタムレシピ – ツールによって、コア、メモリー、および 10GbE インタフェース用のリソース割り当てを入力するように求められます。[ステップ 5](#)に進みます。
- **ネットワークレシピ** – プルダウンリストでいずれかのオプションを選択します。選択肢は、次のとおりです。
 - ネットワークのレシピの 1 つ。[72 ページの「ネットワークレシピの作成」](#)を参照してください。
 - カスタムレシピ – ツールによって、ネットワークパラメータを入力するように求められます。

5. リソースの「カスタムレシピ」を選択した場合は、次のリソースを定義し、「次へ」をクリックします。

- コア数
- メモリー

- 10GbE インタフェースの数
6. ネットワークの「カスタムレシピ」を選択した場合は、次のリソースを定義し、「次へ」をクリックします。
- **ドメイン名** – このレシピで作成される I/O ドメインに適用するドメイン名 (company.com など) を指定します。
 - **ネームサーバー** – このレシピで作成される I/O ドメインに適用するネームサーバーの IP アドレスを、コンマまたはスペース区切りのリストで指定します。
 - **タイムサーバー** – このレシピで作成される I/O ドメインに適用するタイムサーバーの IP アドレスを、コンマまたはスペース区切りのリストで指定します。
 - **タイムゾーン** – プルダウンリストからタイムゾーンを選択します。選択したタイムゾーンは、このレシピで作成される I/O ドメインに適用されます。
7. リソースを確認し、「次へ」をクリックします。

注記 - 使用できるよりも多くのリソースを要求した場合、要件を満たしていない各物理ホストのリソースがツールによって強調表示されます。ただし、ツールでは、ユーザーが「次へ」をクリックして次の画面に進むことは防止されません。

IO Domains

Create a New IO Domain

Domain Type: Oracle Database Domain

Resource Recipe: Custom Resource Recipe

Network Recipe: default (admin)

Number of Cores: 2

Memory: 16 GB

Number of 10Gb Interfaces: 2

Number of FC Interfaces: 0

Comparison of the selected Default Recipe with the user's allowance and available resources

Resource	Recipe	User Allowance	M7 PDOM 1	M7 PDOM 2
Cores	2	Unrestricted	Total: 30 Available: 28	Total: 61 Available: 59
Memory	16 GB	Unrestricted	Total: 208 GB Available: 176 GB	Total: 432 GB Available: 400 GB
10Gb Interfaces	2	Unrestricted	Total: 16 Available: 15	Total: 32 Available: 31
FC Interfaces	0	Unrestricted	Total: 16 Available: 16	Total: 16 Available: 16

Next Cancel

8. RAC ID および物理ホストを割り当て、ネットワーク情報を追加します。

IO Domains ⓘ

Create a New IO Domain

Domain Type:	Oracle Database Domain	
Resource Recipe:	Custom Recipe (admin)	ⓘ
Network Recipe:	default (admin)	ⓘ
RAC ID:	1	
Physical Host:	M7 PDOM 1	
Management Network:	/20 (27 available)	ⓘ Select which
Management Hostname:	db01-mqt	ⓘ
Client (10Gb) Network:	/20 (28 available)	ⓘ
Client (10Gb) Hostname:	db01-client	ⓘ
Storage IB Network:	/22 (33 available)	ⓘ
Storage IB Hostname:	db01-mqt-storib	ⓘ
Exadata IB Network:	/22 (35 available)	ⓘ
Exadata IB Hostname:	db01-mqt-priv1	ⓘ
VIP Hostname:	db01-VIP	ⓘ

Back Allocate Cancel

これらのパラメータを構成します。

- **RAC ID** – プルダウンリストからいずれかの RAC クラスタを選択します。RAC ID はユーザーごとに一意です。
- **物理ホスト** – I/O ドメインが存在することになる計算ノードを選択します。RAC を作成している場合、冗長性のために I/O ドメインごとに別の計算ノードを選択します。
- **管理ネットワーク** – ツールがどのように構成されているかにより (33 ページの「IP アドレスの割り当て方法の構成 (管理者)」を参照)、IP アドレスが自動的に割り当

てられる場合と、使用可能な IP アドレスをドロップダウンリストから選択できる場合があります。

- **管理ホスト名** – この I/O ドメインの管理ネットワークに一意の名前を割り当てます。この名前が I/O ドメインの名前になります。
- **クライアント (10Gb) ネットワーク** – ツールがどのように構成されているかにより (33 ページの「[IP アドレスの割り当て方法の構成 \(管理者\)](#)」を参照)、IP アドレスが自動的に割り当てられる場合と、使用可能な IP アドレスをドロップダウンリストから選択できる場合があります。
- **クライアント (10Gb) ホスト名** – デフォルトを使用するか、この I/O ドメインのクライアントネットワークに一意の名前を割り当てます。
- **ストレージ IB ネットワーク** – ドロップダウンリストから、使用可能なネットワークを選択します。
- **ストレージ IB ホスト名** – このホスト名は自動的に割り当てられます。
- **Exadata IB ネットワーク** – デフォルトを使用するか、この I/O ドメインの最初の Exadata IB ネットワークに一意の名前を割り当てます。
- **Exadata IB ホスト名** – デフォルトを使用するか、この I/O ドメインの最初の Exadata IB ネットワークに一意の名前を割り当てます。
- **VIP ホスト名** – この I/O ドメインの仮想 IP に一意の名前を割り当てます。

9. 「割り当て」をクリックします。

I/O ドメイン作成ツールはシステムリソースを予約しますが、構成を使用のために配備しません。選択時に I/O ドメインを配備します。108 ページの「[I/O ドメインの配備](#)」を参照してください。

注記 - リソースは 120 時間 (5 日間) だけ予約されます。I/O ドメインがその期間内に配備されない場合、リソースは空きプールに戻されます。

割り当てプロセス中に追加の SCAN ホスト名および IP アドレスが割り当てられます。あとで、必要に応じて SCAN ネットワークの名前を変更できます。

ツールが構成の問題を検出した場合、ツールは次のメッセージを表示します。

- リソースが不足しています。例:

```
Insufficient Unallocated Cores available on the chosen Compute Node. 10 Requested, 8
Remaining
```

- パフォーマンスの問題がある可能性がある構成。例:

```
Error: VF allocation requires dedicated core in the same locality group for performance reasons
requested core count: 1 optimal core count based on number of requested VFs: 2
```

そのようなメッセージを受け取った場合、「取消し」をクリックして、より少ないリソースまたは別のリソースを要求するレシピを使用して新しい I/O ドメインを構成します。

10. データベース I/O ドメインの割り当てが完了したことを確認します。

「I/O ドメイン」画面の上部に確認パネルが表示されます。

割り当てのステータスが「状態」列に表示されます。

IO Domains

✓ New IO Domain **db01-mgt** has been successfully allocated.
Please contact your Network Administrator to ensure that the following host and IP information be added to DNS:

Management Network:	db01-mgt	.110
Client Network:	db01-client	.137
	db01-VIP	.138
	io-scan-2	.147 .148 .149

List of IO Domains

ID	Hostname	Domain Type	Physical Host	Owner	RAC ID	State	Details
5	fred	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 1	service	n/a	Ready for Use	View
6	db-test-1	Oracle Database Domain	M7 PDom 2	admin	1	Ready for Use	View
7	app-test-1	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 1	admin	n/a	Ready for Use	View
8	db01-mgt	Oracle Database Domain	M7 PDom 1	admin	1	Resources Allocated	View

List of SCAN Address Groups

Hostname	Address 1	Address 2	Address 3	Owner	RAC ID
io-scan-2	.147	.148	149	admin	1

11. 管理ネットワークとクライアントネットワークを DNS に追加します。

「I/O ドメイン」画面の確認パネルに、ネットワークのホスト名と IP アドレスが表示されます。これらは、I/O ドメインの詳細を表示すると表示されます。

12. 次のアクションを検討します。

- I/O ドメインを配備します。
108 ページの「I/O ドメインの配備」を参照してください。
- 「I/O ドメイン構成タスクの概要」に移動します。
18 ページの「I/O ドメイン構成タスクの概要」を参照してください。
- アクティビティをモニターします。
117 ページの「アクティビティ、リソース変更、およびツールの健全性のモニタリング」を参照してください。
- データベース I/O ドメインの SCAN ネットワークの名前を変更します。
92 ページの「SCAN ネットワークの名前の変更」を参照してください。

▼ SCAN ネットワークの名前の変更

データベース I/O ドメインの SCAN ネットワークの名前を変更する場合は、この手順を実行します。

注記 - SCAN ホスト名は、同じ RAC ID が関連付けられている最初の I/O ドメインが配備される前にかぎり変更できます。I/O ドメインが配備されたあとは、SCAN ホスト名を変更することはできなくなります。

1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「I/O ドメイン」を選択します。
3. 「SCAN アドレスグループ」表で、ネットワークを選択します。
4. 「編集」をクリックします。
5. 変更を入力して、「保存」をクリックします。
6. 次のアクションを検討します。
 - データベース I/O ドメインに Oracle データベースをインストールします。
[123 ページの「I/O ドメインのデータベースを構成するための準備」](#)を参照してください。
 - 配備アクティビティをモニターします。
[117 ページの「アクティビティ、リソース変更、およびツールの健全性のモニタリング」](#)を参照してください。
 - 「I/O ドメイン構成タスクの概要」に移動します。
[18 ページの「I/O ドメイン構成タスクの概要」](#)を参照してください。

▼ アプリケーション I/O ドメインの構成

この手順中に、レシピを使用してリソースの量を I/O ドメインに割り当てるか、処理中のリソースを定義することができます。レシピを使用する計画がある場合、この手順を実行する前にそのレシピが存在している必要があります。[79 ページの「I/O ドメインの作成方法の選択」](#)を参照してください。

Oracle Solaris Cluster 構成の場合は、solaris-large-server OS 統合を使用して I/O ドメインを作成します。「Large」のアプリケーションのデフォルトレシピを使用するか、I/O ドメインの配備後に `pkg install solaris-large-server` を使用して I/O ドメインをアップグレードします。

I/O ドメインを作成すると、指定された量のリソースが I/O ドメイン用に予約されますが、I/O ドメインは、ユーザーが配備するまでインストールされず使用できません。

ツールでは、使用できるよりも多くのリソースを割り当てることはできません。

注記 - `osc-setcoremem` ツールを使用して、専用ドメイン用の CPU およびメモリーの割り当てを変更する計画がある場合、I/O ドメインを構成する前に行なってください。使用している SuperCluster モデルの管理ガイドで、CPU およびメモリーリソースの構成に関するセクションを参照してください。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「**I/O ドメイン**」を選択します。
3. 「**追加**」をクリックします。
「新しい I/O ドメインの作成」画面が表示されます。

4. これらのパラメータを定義します。
 - **ドメインタイプ** – Solaris 11 アプリケーションドメインを選択します
 - **リソースレシピ** – プルダウンリストでいずれかのオプションを選択します。選択肢は、次のとおりです。

- 「Small」、「Medium」、「Large」などのレシピ、および作成されるその他のレシピの 1 つ。[67 ページの「レシピとテンプレートの管理」](#)を参照してください
 - カスタムツールによって、コア、メモリー、および 10GbE インタフェース用のリソース割り当てを入力するように求められます。[ステップ 5](#)を参照してください。
 - **ネットワークレシピ** – プルダウンリストでいずれかのオプションを選択します。選択肢は、次のとおりです。
 - ネットワークのレシピの 1 つ。[72 ページの「ネットワークレシピの作成」](#)を参照してください。
 - カスタムレシピ – ツールによって、ネットワークパラメータを入力するように求められます。
5. 「カスタムレシピ」を選択した場合は、次のリソースの量を定義し、「次へ」をクリックします。
- コア数
 - メモリー
 - 10GbE インタフェース
6. ネットワークの「カスタムレシピ」を選択した場合は、次のリソースを定義し、「次へ」をクリックします。
- **ドメイン名** – このレシピで作成される I/O ドメインに適用するドメイン名 (company.com など) を指定します。
 - **ネームサーバー** – このレシピで作成される I/O ドメインに適用するネームサーバーの IP アドレスを、コンマまたはスペース区切りのリストで指定します。
 - **タイムサーバー** – このレシピで作成される I/O ドメインに適用するタイムサーバーの IP アドレスを、コンマまたはスペース区切りのリストで指定します。
 - **タイムゾーン** – プルダウンリストからタイムゾーンを選択します。選択したタイムゾーンは、このレシピで作成される I/O ドメインに適用されます。
7. リソースを確認してから、「次へ」をクリックします。

注記 - 使用できるよりも多くのリソースを要求した場合、使用できないリソースがツールによって強調表示されます。

IO Domains

Create a New IO Domain

Domain Type:

Solaris 11 Application Domain

Resource Recipe:

Small (admin)

Network Recipe:

default (admin)

Comparison of the selected Default Recipe with the user's allowance and available resources

Resource	Recipe	User Allowance	M7 PDOM 1	M7 PDOM 2
Cores	2	Unrestricted	Total: 30 Available: 26	Total: 61 Available: 59
Memory	32 GB	Unrestricted	Total: 208 GB Available: 144 GB	Total: 432 GB Available: 400 GB
10Gb Interfaces	1	Unrestricted	Total: 16 Available: 13	Total: 32 Available: 31
FC Interfaces	0	Unrestricted	Total: 16 Available: 16	Total: 16 Available: 16

Next

Cancel

8. 物理ホストを選択し、ネットワーク情報を追加します。

IO Domains ⓘ

Create a New IO Domain

Domain Type:	Solaris 11 Application Domain	
Resource Recipe:	Small (admin)	ⓘ
Network Recipe:	default (admin)	ⓘ
Physical Host:	M7 PDOM 2	
Install Group:	Solaris Minimal Server	
Management Network:	/20 (26 available)	ⓘ
Management Hostname:	app01-mqt	ⓘ
Client (10Gb) Network:	/20 (23 available)	ⓘ
Client (10Gb) Hostname:	app01-client	ⓘ
Storage IB Network:	/22 (32 available)	ⓘ
Storage IB Hostname:	app01-mqt-storib	ⓘ

Back Allocate Cancel

次のパラメータを構成します。

- **物理ホスト** – I/O ドメインが存在することになる計算ノードを選択します。
- **インストールグループ** – プルダウンリストから、使用可能な別のオプションを選択します。
 - **Solaris 最小規模サーバー** – OS をブートしてログインし、必要に応じて追加のパッケージを手動で追加できるように、最小限必要なパッケージセットをインストールします。
 - **Solaris 大規模サーバー** – エンタープライズサーバーで通常提供される、一般的なネットワークサービスおよびドライバをすべてインストールします。

- **管理ネットワーク** – ツールがどのように構成されているかにより (33 ページの「[IP アドレスの割り当て方法の構成 \(管理者\)](#)」を参照)、IP アドレスが自動的に割り当てられる場合と、使用可能な IP アドレスをドロップダウンリストから選択できる場合があります。
- **管理ホスト名** – この I/O ドメインの管理ネットワークに一意の名前を割り当てます。この名前が I/O ドメインの名前になります。
- **クライアント (10Gb) ネットワーク** – ツールがどのように構成されているかにより (33 ページの「[IP アドレスの割り当て方法の構成 \(管理者\)](#)」を参照)、IP アドレスが自動的に割り当てられる場合と、使用可能な IP アドレスをドロップダウンリストから選択できる場合があります。
- **クライアント (10Gb) ホスト名** – デフォルトを使用するか、この I/O ドメインのクライアントネットワークに一意の名前を割り当てます。
- **ストレージ IB ネットワーク** – ドロップダウンリストから、使用可能なネットワークを選択します。
- **ストレージ IB ホスト名** – このホスト名は自動的に割り当てられます。

9. 「割り当て」をクリックします。

I/O ドメイン作成ツールはシステムリソースを予約しますが、構成を使用のために配備しません。選択時に I/O ドメインを配備します。108 ページの「[I/O ドメインの配備](#)」を参照してください。

注記 - リソースは 120 時間 (5 日間) だけ予約されます。I/O ドメインがその期間内に配備されない場合、リソースは空きプールに戻されます。

ツールが構成の問題を検出した場合、ツールは次のメッセージを表示します。

- リソースが不足しています。例:

```
Insufficient Unallocated Cores available on the chosen Compute Node. 10 Requested, 8
Remaining
```

- パフォーマンスの問題がある可能性がある構成。例:

```
Error: VF allocation requires dedicated core in the same locality group for performance reasons
requested core count: 1 optimal core count based on number of requested VFs: 2
```

そのようなメッセージを受け取った場合、「取消し」をクリックして、より少ないリソースまたは別のリソースを要求するレシピを使用して新しい I/O ドメインを構成します。

10. アプリケーション I/O ドメインの割り当てが完了したことを確認します。

「I/O ドメイン」画面の上部に確認パネルが表示されます。

割り当てのステータスが「状態」列に表示されます。

IO Domains

✓ New IO Domain **app01-mgt** has been successfully allocated.
Please contact your Network Administrator to ensure that the following host and IP information be added to DNS:

Management Network:	app01-mgt	10.129.102.39
Client Network:	app01-client	10.129.115.22

List of IO Domains

ID	Hostname	Domain Type	Physical Host	Owner	RAC ID	State	Details
5	aardvark	Solaris 11 Application Domain	M7 PDOM 1	service	n/a	Ready for Use	View
6	zebra	Solaris 11 Application Domain	M7 PDOM 2	service	n/a	Ready for Use	View
7	db01-mgt	Oracle Database Domain	M7 PDOM 1	admin	1	Resources Allocated	View
8	app01-mgt	Solaris 11 Application Domain	M7 PDOM 2	admin	n/a	Resources Allocated	View

List of SCAN Address Groups

Hostname	Address 1	Address 2	Address 3	Owner	RAC ID
io-scan-1	.19	.20	.21	admin	1

11. 管理ネットワークとクライアントネットワークを DNS に追加します。

「I/O ドメイン」画面の確認パネルに、ネットワークのホスト名と IP アドレスが表示されます。これらは、I/O ドメインの詳細を表示すると表示されます。

SCAN ホスト名を変更する場合は、I/O ドメインを配備する前に行なってください。[92 ページの「SCAN ネットワークの名前の変更」](#)を参照してください。

12. 次のアクションを検討します。

- I/O ドメインを使用のために配備します。
[108 ページの「I/O ドメインの配備」](#)を参照してください。
- 「I/O ドメイン構成タスクの概要」に移動します。
[18 ページの「I/O ドメイン構成タスクの概要」](#)を参照してください。
- アクティビティをモニターします。
[117 ページの「アクティビティ、リソース変更、およびツールの健全性のモニタリング」](#)を参照してください。

▼ OVM テンプレートを使用した I/O ドメインの構成

注記 - この手順では、管理者がツールに OVM テンプレートを追加したと仮定します。[75 ページの「OVM テンプレートのアップロード \(管理者\)」](#)を参照してください。

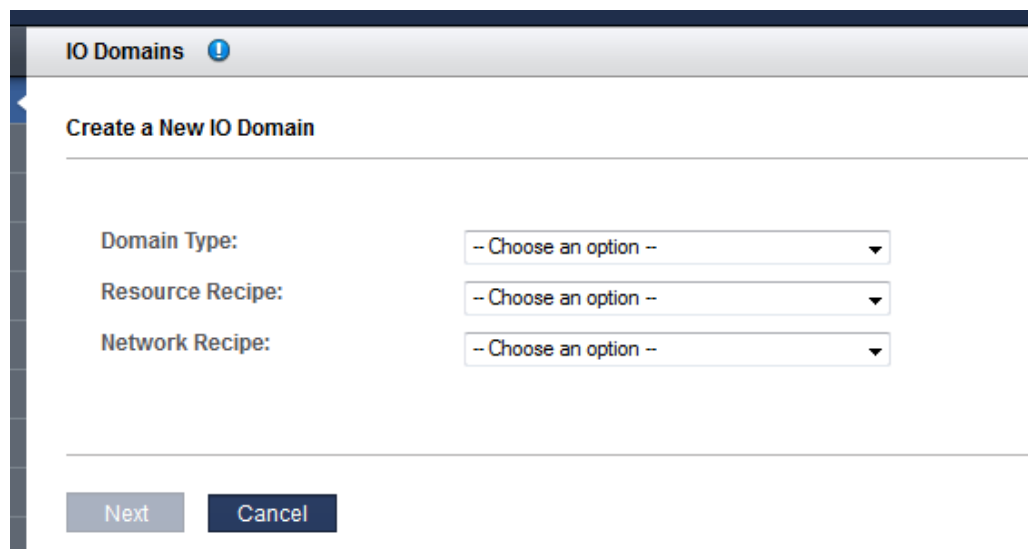
この手順中に、レシピを使用してリソースの量を I/O ドメインに割り当てるか、処理中のリソースを定義することができます。レシピを使用する計画がある場合、この手順を実行する前にそのレシピが存在している必要があります。79 ページの「[I/O ドメインの作成方法の選択](#)」を参照してください。

I/O ドメインは、ユーザーが配備するまでインストールされず使用できません。配備後に、テンプレートに関連付けられた OS とアプリケーションがインストールおよび構成されます。

ツールでは、使用できるよりも多くのリソースを割り当てることはできません。

注記 - `osc-setcoremem` ツールを使用して、専用ドメイン用の CPU およびメモリーの割り当てを変更する計画がある場合、I/O ドメインを構成する前に行なってください。使用している SuperCluster モデルの管理ガイドで、CPU およびメモリーリソースの構成に関するセクションを参照してください。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン](#)」を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「**I/O ドメイン**」を選択します。
3. 「**追加**」をクリックします。
「新しい I/O ドメインの作成」画面が表示されます。



IO Domains ⓘ

Create a New IO Domain

Domain Type: -- Choose an option --

Resource Recipe: -- Choose an option --

Network Recipe: -- Choose an option --

Next Cancel

4. これらのパラメータを定義します。

- **ドメインタイプ** – プルダウンリストから OVM テンプレートを選択します。テンプレートが使用可能な場合、OVM テンプレートドメインのセパレータの下にテンプレートが一覧表示されます。
- **リソースレシピ** – プルダウンリストでいずれかのオプションを選択します。選択肢は、次のとおりです。
 - 「Small」、「Medium」、「Large」などのレシピ、および作成されるその他のレシピの 1 つ。[67 ページの「レシピとテンプレートの管理」](#)を参照してください
 - カスタムツールによって、コア、メモリー、および 10GbE インタフェース用のリソース割り当てを入力するように求められます。[ステップ 5](#)を参照してください。
- **ネットワークレシピ** – プルダウンリストでいずれかのオプションを選択します。選択肢は、次のとおりです。
 - ネットワークのレシピの 1 つ。[72 ページの「ネットワークレシピの作成」](#)を参照してください。
 - カスタムレシピツールによって、ネットワークパラメータを入力するように求められます。

5. 「カスタムレシピ」を選択した場合は、次のリソースの量を定義し、「次へ」をクリックします。

- コア数
- メモリー
- 10GbE インタフェースの数

6. ネットワークの「カスタムレシピ」を選択した場合は、次のリソースを定義し、「次へ」をクリックします。

- **ドメイン名** – このレシピで作成される I/O ドメインに適用するドメイン名 (company.com など) を指定します。
- **ネームサーバー** – このレシピで作成される I/O ドメインに適用するネームサーバーの IP アドレスを、コンマまたはスペース区切りのリストで指定します。
- **タイムサーバー** – このレシピで作成される I/O ドメインに適用するタイムサーバーの IP アドレスを、コンマまたはスペース区切りのリストで指定します。
- **タイムゾーン** – プルダウンリストからタイムゾーンを選択します。選択したタイムゾーンは、このレシピで作成される I/O ドメインに適用されます。

7. リソースを確認してから、「次へ」をクリックします。

注記 - 使用できるよりも多くのリソースを要求した場合、使用できないリソースがツールによって強調表示されます。

IO Domains

Create a New IO Domain

Domain Type:

Weblogic 12.1.3 Sol 11.3 b22

Resource Recipe:

Small (admin)

Network Recipe:

default (admin)

Overview of Selected Recipe, User Allowance and Physical Host resources

Resource	Recipe	User Allowance	M7 PDom 1	M7 PDom 2
Cores	2	Unrestricted	Total: 30 Available: 21	Total: 60 Available: 56
Memory	32 GB	Unrestricted	Total: 448.0 GB Available: 320.0 GB	Total: 896.0 GB Available: 832.0 GB
10Gb Interfaces	1	Unrestricted	Total: 32 Available: 29	Total: 64 Available: 62
FC Interfaces	0	Unrestricted	Total: 16 Available: 16	Total: 16 Available: 16

Next

Cancel

8. 物理ホストを選択し、ネットワーク情報を追加します。

IO Domains ⓘ

Create a New IO Domain

Domain Type:	Weblogic 12.1.3 Sol 11.3 b22	
Resource Recipe:	Small (admin)	ⓘ
Network Recipe:	default (admin)	ⓘ
Physical Host:	M7 PDom 1	
Management Network:	/20 (15 available)	ⓘ
Management Hostname:	WLogic01	ⓘ
Client (10Gb) Network:	/20 (10 available)	ⓘ
Client (10Gb) Hostname:	WLogic01-client	ⓘ
Storage IB Network:	/22 (35 available)	ⓘ
Storage IB Hostname:	WLogic01-storib	ⓘ
OVM Template Properties		
Admin Password:		ⓘ
Startmode:		ⓘ
Adminserver Ip:		ⓘ

Back Allocate Cancel

次のパラメータを構成します。

- **物理ホスト** – I/O ドメインが存在することになる計算ノードを選択します。
- **管理ネットワーク** – ツールがどのように構成されているかにより (33 ページの「[IP アドレスの割り当て方法の構成 \(管理者\)](#)」を参照)、IP アドレスが自動的に割り当てられる場合と、使用可能な IP アドレスをドロップダウンリストから選択できる場合があります。

- **管理ホスト名** – この I/O ドメインの管理ネットワークに一意の名前を割り当てます。この名前が I/O ドメインの名前になります。
- **クライアント (10Gb) ネットワーク** – ツールがどのように構成されているかにより (33 ページの「[IP アドレスの割り当て方法の構成 \(管理者\)](#)」を参照)、IP アドレスが自動的に割り当てられる場合と、使用可能な IP アドレスをドロップダウンリストから選択できる場合があります。
- **クライアント (10Gb) ホスト名** – デフォルトを使用するか、この I/O ドメインのクライアントネットワークに一意の名前を割り当てます。
- **ストレージ IB ネットワーク** – ドロップダウンリストから、使用可能なネットワークを選択します。
- **OVM テンプレートのプロパティ** – ここに表示される可能性のあるパラメータは、OVM テンプレートで指定されているパラメータに基づきます。詳細については、OVM テンプレートのドキュメントを参照してください。

9. 「割り当て」をクリックします。

I/O ドメイン作成ツールはシステムリソースを予約しますが、構成を使用のために配備しません。108 ページの「[I/O ドメインの配備](#)」を参照してください。

このプロセスには時間がかかります。「I/O ドメイン」画面のステータスを監視し、配備キューの進行状況を確認します。

ツールがリソース構成の問題を検出した場合、ツールは次のメッセージを表示します。

- リソースが不足しています。例:

```
Insufficient Unallocated Cores available on the chosen Compute Node. 10 Requested, 8
Remaining
```

- パフォーマンスの問題がある可能性がある構成。例:

```
Error: VF allocation requires dedicated core in the same locality group for performance reasons
requested core count: 1 optimal core count based on number of requested VFs: 2
```

そのようなメッセージを受け取った場合、「取消し」をクリックして、より少ないリソースまたは別のリソースを要求するレシピを使用して新しい I/O ドメインを構成します。

10. I/O ドメインの割り当てが完了したことを確認します。

「I/O ドメイン」画面の上部に確認パネルが表示されます。

割り当てのステータスが「状態」列に表示されます。

注記 - OVM テンプレートから作成された I/O ドメインでは、追加のアプリケーションのインストールおよび構成のアクティビティが実行されるため、「割り当て済みリソース」状態に到達するまでにより長い時間がかかることがあります。

IO Domains

✓ New IO Domain **WLogic01** has been successfully allocated.
Please contact your Network Administrator to ensure that the following host and IP information be added to DNS:

Management Network: WLogic01
Client Network: WLogic01-client

List of IO Domains

ID	Hostname	Domain Type	Physical Host	Owner	RAC ID	State	Details
5	fred	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 1	service	n/a	Ready for Use	View
6	db-test-1	Oracle Database Domain	M7 PDom 2	admin	1	Ready for Use	View
7	app-test-1	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 1	admin	n/a	Ready for Use	View
8	db01-mgt	Oracle Database Domain	M7 PDom 1	admin	1	Resources Allocated	View
9	app01-mgt	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 2	admin	n/a	Resources Allocated	View
10	WLogic01	Weblogic 12.1.3 Sol 11.3 b22	M7 PDom 1	admin	n/a	Resources Allocated	View

List of SCAN Address Groups

Hostname	Address 1	Address 2	Address 3	Owner	RAC ID
io-scan-2				admin	1

11. 管理ネットワークとクライアントネットワークを DNS に追加します。

「I/O ドメイン」画面の確認パネルに、ネットワークのホスト名と IP アドレスが表示されます。これらは、I/O ドメインの詳細を表示すると表示されます。

12. 次のアクションを検討します。

- I/O ドメインを使用のために配備します。
108 ページの「[I/O ドメインの配備](#)」を参照してください。
- 「I/O ドメイン構成タスクの概要」に移動します。
18 ページの「[I/O ドメイン構成タスクの概要](#)」を参照してください。
- アクティビティをモニターします。
117 ページの「[アクティビティ、リソース変更、およびツールの健全性のモニタリング](#)」を参照してください。

▼ I/O ドメインのリソースの増減

注記 - この機能は、ブランチ 2.1.0.813 (またはそれ以降) で提供されているバージョンのツールでのみ使用できます。15 ページの「[ツールのバージョンの確認](#)」を参照してください。

I/O ドメインのリソースを編集することにより、I/O ドメインのコア数およびメモリーを増減できます。配備済みまたはまだ配備されていない I/O ドメインを編集できます。I/O ドメインの状態および行う変更のタイプに基づいて、ツールでは、すぐに変更を加えるオプションまたは変更を遅らせるオプションが提供されます。

I/O ドメインのコアまたはメモリーを追加または削除するには、その I/O ドメインを停止する必要があります。I/O ドメイン作成ツールでコアやメモリーを追加または削除するアクションの実行を確認する前に、I/O ドメイン内で実行中のすべてのアプリケーションを正常に停止し、OS をシャットダウンすることを強くお勧めします。I/O ドメイン作成ツールでコアやメモリーを追加または削除するアクションの実行を確認すると、制御ドメインから I/O ドメインが停止されます (実行中の場合)。

管理者ロールを持つユーザーは、任意の I/O ドメインを編集できます。ユーザーロールを持つユーザーは、所有する I/O ドメインのみを編集できます。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
35 ページの「[I/O ドメイン作成ツールへのログイン](#)」を参照してください。
2. 変更をすぐに適用する予定であれば、編集する I/O ドメインをシャットダウンします。
3. ナビゲーションパネルで、「I/O ドメイン」を選択します。
4. I/O ドメインを選択し、「編集」をクリックします。

「I/O ドメインリソースの編集」ページが表示されます。

IO Domains ⓘ

Edit IO Domain Resources

Domain Details Constraints Fixed Resources Active Resources Edit Resources

Domain Details

Hostname:	app01-mgt
State:	Resources Allocated
Type:	Solaris 11 Application Domain

Constraints

Minimum Cores per Domain Type:	1
Minimum Memory per Domain Type:	16 GB

Fixed Resources

Number of Cores:	1
Cores:	249
Memory:	16 GB
Memory Segments:	201360640M:16G

Active Resources

Number of Cores:	2
Cores:	129, 249
Memory:	32 GB
Memory Segments:	134268160M:16G, 201360640M:16G

Edit Resources

Please use the form below to specify the new resource values for this IO Domain.

Cores: 2 ▼

Memory: 32 GB ▼

Alter Reservation Cancel

- **ドメインの詳細** – ホスト名、状態、およびタイプが一覧表示されます。

- **制約** – ドメインタイプに対する最小リソース要件が示されます。アクティブなユーザーにリソース割り当て量がある場合は、そのユーザーの許可されたおよび使用可能なコアおよびメモリーの合計も表示されます。
- **固定リソース** – この I/O ドメイン用に固定されているリソースの合計 (正確なコア識別子およびメモリーセグメントを含む) が示されます。固定リソースは削除できません。
- **アクティブなリソース** – 現在この I/O ドメインに割り当てられているコアおよびメモリーの合計 (正確なコア識別子およびメモリーセグメントを含む) が示されます。
- **リソースの編集** – この I/O ドメインのリソースを増減できるプルダウンリストが提供されます。

5. 「リソースの編集」で、コア数、メモリー、またはその両方を変更します。

- **リソースを増やす** – 追加のリソースが、計算ノード上およびユーザーのリソース割り当て量内で (ユーザーにリソース割り当て量がある場合) 使用可能であることが必要です。
- **リソースを減らす** – 現在 I/O ドメインにあるリソースが、ドメインタイプに最小限必要なリソースよりも多い場合にのみ実行できます。

6. 変更を確定するか取り消します。

表示されるボタンのいずれかを選択します。表示されるボタンは、I/O ドメインの状態および行なった変更のタイプによって異なります。可能性のあるものを次の表に示します。

注記 - リソースの変更の前に I/O ドメインがシャットダウンされていない場合、ツールは警告を表示し、シャットダウンを実行します。I/O ドメインは再割り当て後に自動的に再起動されます。

配備されていない I/O ドメイン上	配備済みの I/O ドメイン上
■ 予約の変更 – 変更はすぐに有効になります。「I/O ドメインの詳細」画面が表示され、リソースが表示されます。 ■ 取消し – 変更を取り消し、「I/O ドメイン」画面に戻ります。	■ すぐにアクティブ化 – シャットダウン警告のあと、ツールがリソースの増減に必要な操作を実行している間、変更はキューに入れられます。「I/O ドメインの詳細」画面が表示され、保留中のリソース変更が表示されます。 進行状況を確認するには、詳細画面の「一般情報」で、「状態」値を監視します。数分後に、状態は「使用の準備完了」を示します。配備キューを確認することもできます。 ■ あとでアクティブ化 – 変更の詳細を含む変更レコードが作成されます。「I/O ドメインの詳細」画面が表示され、保留中の変更が表示されます。 変更をアクティブにする準備ができたなら、ステップ 7を参照してください。

配備されていない I/O ドメイン上	配備済みの I/O ドメイン上
	注記 - 変更レコードは最大 120 時間 (5 日間) 保留状態になります。その時間を過ぎると、レコードは削除され、アクティブ化できなくなります。 ■ 取消し - 変更を取り消し、メインの「I/O ドメイン」画面に戻ります。

- あとでアクティブ化するよう選択した場合は、希望の時間にリソースの変更を開始します。

「I/O ドメインの詳細」画面の「保留中のリソース変更」領域で、「実行」、「編集」、または「取消し」をクリックします。

- 次のアクションを検討します。

- 配備アクティビティをモニターします。
117 ページの「アクティビティ、リソース変更、およびツールの健全性のモニタリング」を参照してください。
- 「I/O ドメイン構成タスクの概要」に移動します。
18 ページの「I/O ドメイン構成タスクの概要」を参照してください。

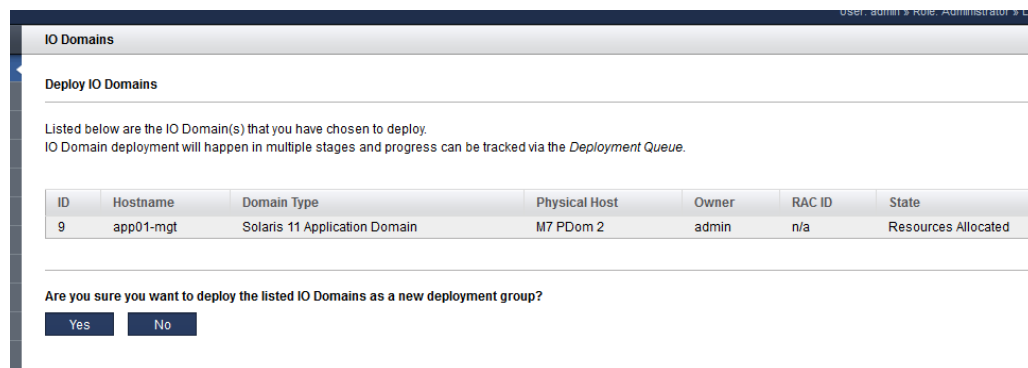
▼ I/O ドメインの配備

I/O ドメインの構成後に、OS がインストールされて I/O ドメインが使用可能になるように I/O ドメインを配備します。

注記 - ツールで I/O ドメインを配備できない場合は、可能性のある問題をチェックします。119 ページの「I/O ドメイン作成ツールの健全性のモニター (管理者のみ)」を参照してください。

- I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」を参照してください。
- ナビゲーションパネルで、「I/O ドメイン」を選択します。**
- 配備する I/O ドメインを選択して、「配備」をクリックします。**
1 つ以上の I/O ドメインを選択できます。選択に基づいて、ツールでは適切なボタンが使用可能になります。

「I/O ドメインの配備」画面が表示されます。



4. 「はい」をクリックします。

配備には時間がかかります。時間の長さは、I/O ドメインのサイズと構成によって決まります。

「状態」列で進行状況を確認できます。83 ページの「I/O ドメインを表示します」を参照してください。

「リフレッシュ」ボタンを使用して、配備の進行状況を監視できます。

配備キュー内の配備をモニターすることもできます。117 ページの「配備アクティビティとリソース変更のモニター」を参照してください。

5. ソフトウェアが最新版であり、最新の SRU および IDR が適用されていることを確認します。

ツールによって OS はインストールされますが、必要な SRU または IDR がインストールされない場合があります。

SRU および IDR のインストールの詳細については、My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) にログインし、次のナレッジ記事を参照してください。

- Oracle SuperCluster でサポートされているソフトウェアバージョン - すべてのハードウェアタイプ (ドキュメント ID 1567979.1)
- SuperCluster のクリティカルな問題 (ドキュメント ID 1452277.1)
- SuperCluster- Solaris 11 サポートリポジトリアップデート (SRU) および SuperCluster 固有の IDR サポートマトリックス。 (ドキュメント ID 1632521.1)

6. (プラチナモニター対象システム) 新しく作成する各 I/O ドメインに、プラチナインフラストラクチャーサービスを作成します。

手順については、<https://support.oracle.com> にサインオンし、プラチナインフラストラクチャーサービス SR の作成方法 (ドキュメント ID 1958476.1) という MOS ナレッジ記

事を参照してください。その指示に従います。エンジニアドシステムとターゲットには「SuperCluster」を選択します。問題タイプには「エージェント管理」を選択します。

7. 次のアクションを検討します。

- データベース I/O ドメインに Oracle データベースをインストールします。
[123 ページの「I/O ドメインのデータベースを構成するための準備」](#)を参照してください。
- 配備アクティビティをモニターします。
[117 ページの「アクティビティ、リソース変更、およびツールの健全性のモニタリング」](#)を参照してください。
- 「I/O ドメイン構成タスクの概要」に移動します。
[18 ページの「I/O ドメイン構成タスクの概要」](#)を参照してください。

▼ Oracle Enterprise Manager のテキストファイルのエクスポート

Oracle Enterprise Manager にインポートできるテキストファイルを生成するには、この手順を使用します。

このアクションは、Oracle Enterprise Manager に I/O ドメインを検出させる場合に役に立ちます。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「**I/O ドメイン**」を選択します。
3. **1 つ以上の I/O ドメイン**を選択します。
4. 「**EM 用にエクスポート**」をクリックします。
5. ブラウザでファイルの処理方法を尋ねられたら、「**ファイルの保存**」をクリックして、選択したディレクトリにファイルを保存します。
デフォルトでは、ファイルの名前は `em-agent-bulk-load.txt` です。
ファイルの内容の例:

```
DB01.zzz.yyy
```

6. 次のアクションを検討します。

- I/O ドメインに Oracle データベースをインストールします。

[123 ページの「I/O ドメインのデータベースを構成するための準備」](#)を参照してください。

- 「I/O ドメイン構成タスクの概要」に移動します。

[18 ページの「I/O ドメイン構成タスクの概要」](#)を参照してください。

- I/O ドメインを表示します。

[83 ページの「I/O ドメインを表示します」](#)を参照してください。

- リソースを表示します。

[40 ページの「システムリソースの表示」](#)を参照してください。

- アクティビティをモニターします。

[117 ページの「アクティビティ、リソース変更、およびツールの健全性のモニタリング」](#)を参照してください。

I/O ドメインの削除



注意 - I/O ドメインを削除する場合、削除は元に戻すことができません。このアクションにより I/O ドメインが削除され、そのドメインによって使用されているすべてのリソースが解放されます。I/O ドメイン上のソフトウェアはすべて失われます。



注意 - このセクションのタスクを実行する前に、必ず既存のデータをすべてバックアップしてください。

管理者ロールを持つユーザーは、任意の I/O ドメインを削除できます。ユーザーロールを持つユーザーは、所有する I/O ドメインのみを削除できます。

注記 - ツールで I/O ドメインを削除できない場合は、可能性のある問題をチェックします。[119 ページの「I/O ドメイン作成ツールの健全性のモニター \(管理者のみ\)」](#)を参照してください。

I/O ドメインを削除するために実行する手順は、削除する計画の I/O ドメインのタイプによって異なります。

説明	リンク
アプリケーション I/O ドメインの削除	115 ページの「I/O ドメインの削除」
クラスタの 1 つのノードとそれに関連付けられた I/O ドメインを削除します。	113 ページの「クラスタからの単一ノードの削除」 115 ページの「I/O ドメインの削除」
すべてのクラスタノードとそれに関連付けられた I/O ドメインを削除します。	114 ページの「クラスタ内のすべてのノードの削除」 115 ページの「I/O ドメインの削除」

▼ クラスタからの単一ノードの削除

関連付けられたデータベース I/O ドメインを削除する前に、クラスタから個々のノードを削除するには、この手順を使用します。

1. クラスタデータベースからデータベースインスタンスを削除します。

手順については、次の場所にあるデータベース 2 日 + *Real Application Clusters* のガイドでクラスタデータベースからのインスタンスの削除に関するセクションを参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E11882_01/rac.112/e17264/addnodes.htm#TDPRC394

2. **Oracle Grid Infrastructure からノードを削除します。**

手順については、次の場所にある *Clusterware* の管理と配備のガイドで Linux および UNIX システムでのクラスタノードの追加と削除に関するセクションを参照してください。

<https://docs.oracle.com/database/121/CWADD/adddelclusterware.htm#CWADD1167>

3. **データベース I/O ドメインを削除します。**

115 ページの「I/O ドメインの削除」を参照してください。

関連情報

- 114 ページの「クラスタ内のすべてのノードの削除」
- 115 ページの「I/O ドメインの削除」

▼ クラスタ内のすべてのノードの削除

関連付けられたデータベース I/O ドメインを削除する前に、クラスタ内のすべてのノードを削除するには、この手順を使用します。

このシナリオでは、グリッドインフラストラクチャーのアクティブなメンバーをすべて削除することで、クラスタ全体を破棄する計画です。

1. **ディスクグループおよび関連付けられたグリッドディスクを識別します。**

この例では、出力でグリッドディスクの接頭辞 (DATAJNGZ および RECOJNGZ) を識別します。

```
oracle@etc5mzdbadm030201:~$ asmcmd lsdsk
Path
o/192.168.10.41;192.168.10.42/DATAJNGZ_FD_00_etc5mceladm01
o/192.168.10.41;192.168.10.42/DATAJNGZ_FD_01_etc5mceladm01
o/192.168.10.41;192.168.10.42/DATAJNGZ_FD_02_etc5mceladm01
o/192.168.10.41;192.168.10.42/DATAJNGZ_FD_03_etc5mceladm01
o/192.168.10.41;192.168.10.42/RECOJNGZ_FD_00_etc5mceladm01
o/192.168.10.41;192.168.10.42/RECOJNGZ_FD_01_etc5mceladm01
o/192.168.10.41;192.168.10.42/RECOJNGZ_FD_02_etc5mceladm01
o/192.168.10.41;192.168.10.42/RECOJNGZ_FD_03_etc5mceladm01
o/192.168.10.43;192.168.10.44/DATAJNGZ_FD_00_etc5mceladm02
o/192.168.10.43;192.168.10.44/DATAJNGZ_FD_01_etc5mceladm02
o/192.168.10.43;192.168.10.44/DATAJNGZ_FD_02_etc5mceladm02
o/192.168.10.43;192.168.10.44/DATAJNGZ_FD_03_etc5mceladm02
o/192.168.10.43;192.168.10.44/RECOJNGZ_FD_00_etc5mceladm02
o/192.168.10.43;192.168.10.44/RECOJNGZ_FD_01_etc5mceladm02
o/192.168.10.43;192.168.10.44/RECOJNGZ_FD_02_etc5mceladm02
```

```
o/192.168.10.43;192.168.10.44/RECOJNGZ_FD_03_etc5mceladm02
o/192.168.10.45;192.168.10.46/DATAJNGZ_FD_00_etc5mceladm03
o/192.168.10.45;192.168.10.46/DATAJNGZ_FD_01_etc5mceladm03
o/192.168.10.45;192.168.10.46/DATAJNGZ_FD_02_etc5mceladm03
o/192.168.10.45;192.168.10.46/DATAJNGZ_FD_03_etc5mceladm03
o/192.168.10.45;192.168.10.46/RECOJNGZ_FD_00_etc5mceladm03
o/192.168.10.45;192.168.10.46/RECOJNGZ_FD_01_etc5mceladm03
o/192.168.10.45;192.168.10.46/RECOJNGZ_FD_02_etc5mceladm03
o/192.168.10.45;192.168.10.46/RECOJNGZ_FD_03_etc5mceladm03
oracle@etc5mzdbadm030201:~$
```

2. 関連付けられたデータベース I/O ドメインを削除してから、この手順内の**ステップ 3**に戻ります。

[115 ページの「I/O ドメインの削除」](#)を参照してください。

3. ストレージセルからグリッドディスクを削除します。
各セルにログインして、グリッドディスクを削除します。例:

```
CellCLI> drop griddisk all prefix=RECOJNGZ force
```

関連情報

- [113 ページの「クラスタからの単一ノードの削除」](#)
- [115 ページの「I/O ドメインの削除」](#)

▼ I/O ドメインの削除

I/O ドメインを削除するには、この手順を使用します。

I/O ドメインが削除されると、リソースがリソースプールに戻されます。



注意 - I/O ドメインを削除する場合、削除は元に戻すことができません。このアクションにより I/O ドメインが削除され、そのドメインによって使用されているすべてのリソースが解放されます。I/O ドメイン上のソフトウェアはすべて失われます。

データベース I/O ドメインを削除する場合、その I/O ドメインに関連付けられたクラスタノードを最初に削除する必要があります。次の手順のいずれかを参照してください。

- [113 ページの「クラスタからの単一ノードの削除」](#)
- [114 ページの「クラスタ内のすべてのノードの削除」](#)

1. (プラチナモニター対象システム) プラチナインフラストラクチャーサービスから I/O ドメインを削除します。

手順については、<https://support.oracle.com> にサインオンし、プラチナインフラストラクチャーサービス SR の作成方法 (ドキュメント ID 1958476.1) という MOS ナレッジ記事を参照してください。

2. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
3. ナビゲーションパネルで、「I/O ドメイン」を選択します。
4. 削除する I/O ドメインを選択して、「削除」をクリックします。
5. 「はい」をクリックします。
I/O ドメインがリソースの解放のためにキューに入れられます。
6. 次のアクションを検討します。
 - I/O ドメインを表示します。
[83 ページの「I/O ドメインを表示します」](#)を参照してください。
 - リソースを表示します。
[40 ページの「システムリソースの表示」](#)を参照してください。
 - アクティビティをモニターします。
[117 ページの「アクティビティ、リソース変更、およびツールの健全性のモニタリング」](#)を参照してください。
 - 「I/O ドメイン構成タスクの概要」に移動します。
[18 ページの「I/O ドメイン構成タスクの概要」](#)を参照してください。

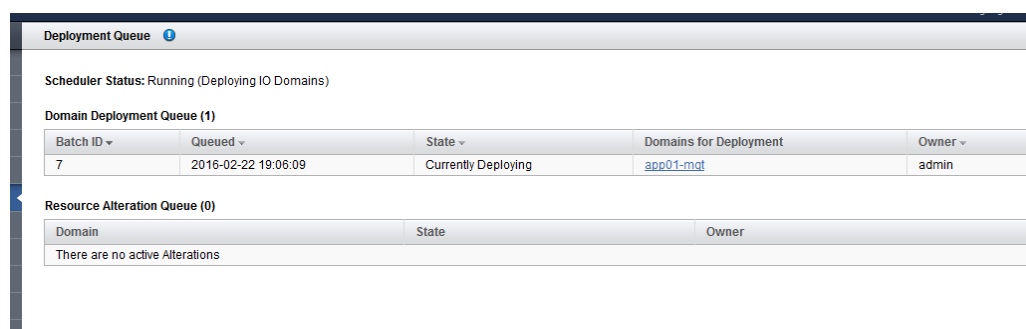
アクティビティ、リソース変更、およびツールの健全性のモニタリング

次のアクティビティをモニターするには、次のトピックを使用してください。

- [117 ページの「配備アクティビティとリソース変更のモニター」](#)
- [118 ページの「ツールのアクティビティのモニター \(管理者のみ\)」](#)
- [119 ページの「I/O ドメイン作成ツールの健全性のモニター \(管理者のみ\)」](#)

▼ 配備アクティビティとリソース変更のモニター

1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「配備キュー」を選択します。
「配備キュー」画面が表示されます。



The screenshot shows a web interface titled "Deployment Queue" with a status indicator. Below the title, it says "Scheduler Status: Running (Deploying IO Domains)". There are two main sections: "Domain Deployment Queue (1)" and "Resource Alteration Queue (0)". The "Domain Deployment Queue" section contains a table with the following data:

Batch ID	Queued	State	Domains for Deployment	Owner
7	2016-02-22 19:06:09	Currently Deploying	app01-mgt	admin

The "Resource Alteration Queue" section shows a table with headers "Domain", "State", and "Owner", and a message "There are no active Alterations".

この画面では、配備のためにキューに置かれている I/O ドメイン、および配備の状態を表示できます。

- 現在配備中
- 配備完了

- 再読取り済み
- 配備用のキューに格納済み
- LDom 構成の保存中

複数の I/O ドメインが同時に配備された場合、これらは 1 つのバッチ ID にまとめられます。

「リソース変更キュー」には、リソース変更を処理中または変更を保留中である I/O ドメインの状態と所有者が表示されます (105 ページの「I/O ドメインのリソースの増減」を参照)。

3. I/O ドメインの詳細を表示するには、I/O ドメインの名前をクリックします。
4. 次のアクションを検討します。
 - 「管理タスクの概要」に移動します。
17 ページの「管理タスクの概要」を参照してください。
 - 次のタスクに進みます。
118 ページの「ツールのアクティビティのモニター (管理者のみ)」を参照してください。
 - I/O ドメインを配備またはデキューします。
108 ページの「I/O ドメインの配備」を参照してください。
 - ログアウトします。
37 ページの「I/O ドメイン作成ツールからのログアウト」を参照してください。

▼ ツールのアクティビティのモニター (管理者のみ)

この手順を実行するには管理者ロールが必要です。

1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。
35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」を参照してください。
2. ナビゲーションパネルで、「システムログ」を選択します。

「システムログ」画面が表示されます。

System Log		
System Log Entries		
Date / Time ^	Level ^	Message ^
2014-08-28 23:40:51	info	IO Domain App01 queued for Deployment as part of Group 7.
2014-08-28 23:35:40	info	User admin allocated new IO Domain with token: 1409265340, Small:Oracle Database Domain
2014-08-28 23:22:08	info	User admin allocated new IO Domain with token: 1409264527, Small:Solaris 11 Application Domain
2014-08-28 22:52:28	info	User admin changed the resource allocation for User user01
2014-08-28 22:41:52	info	User admin released IO Domain CraigTest
2014-08-28 19:17:20	info	User admin allocated new IO Domain with token: 1409249840, Small:Oracle Database Domain
2014-08-25 16:03:30	info	User don deleted
2014-08-25 16:03:30	info	User admin requested to delete User don
2014-08-25 16:03:03	info	User admin released IO Domain perico
2014-08-25 16:02:55	info	IO Domains (perico) dequeued from Deployment Group 6

この画面では、タイムスタンプの付いた I/O ドメイン作成ツールのログエントリを表示できます。

3. 次のアクションを検討します。

- 「管理タスクの概要」に移動します。
[17 ページの「管理タスクの概要」](#) を参照してください。
- 配備アクティビティをモニターします。
[117 ページの「配備アクティビティとリソース変更のモニター」](#) を参照してください。
- ログアウトします。
[37 ページの「I/O ドメイン作成ツールからのログアウト」](#) を参照してください。

▼ I/O ドメイン作成ツールの健全性のモニター (管理者のみ)

ヘルスマニターを使用すると、ツールのステータスをモニターし、検出された失敗を管理できます。

この手順を実行するには管理者ロールが必要です。

ヘルスマニターにより、I/O ドメイン作成ツールと SuperCluster サブシステムとの同期が保たれていること、および該当するホストにツールで接続できることが確認されます。

失敗が検出された場合、それ以降の I/O ドメインの配備および破棄アクティビティは、すべての失敗がクリアされるまで無効になります。

1. I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。

35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」を参照してください。

2. ナビゲーションパネルで、「ヘルスマニター」を選択します。
「ヘルスマニター」画面が表示されます。

Health Check	Result	Status	Details
Validate the Service Processor Configuration	Pass	Healthy	View
Validate the Service Processor Configuration	Pass	Healthy	View
Verify Connectivity to Required Hosts	Pass	Healthy	View
Review IO Domains in Resources Allocated State	Pass	Healthy	View
Verify All Domains	Pass	Healthy	View
Verify the Resource Allocation Engine is Functioning	Pass	Healthy	View
Verify Reservations in the Resource Allocation Engine	Pass	Healthy	View
Query the Resource Allocation Engine for Resource Changes	Pass	Healthy	View

Health Check	Severity	Date Found	Date Resolved	Cleared By	Details
Check for Unsantionced Service Processor Configurations	Fail	2016-06-17 21:06:40	Unspecified	Health Monitor	View
Verify Reservations in the Resource Allocation Engine	Warning	2016-06-17 20:06:41	2015-06-17 20:06:41	Health Monitor	View
Check for Unsantionced Service Processor Configurations	Fail	2016-06-16 18:06:31	2015-06-16 20:06:51	admin	View

[Show all historical records](#)

最初の表には、最新のレポートが一覧表示されます。2 つ目の表は、前の 20 件の警告および失敗のサマリーです。完全なリストを表示するには、この画面の下部にあるリンクをクリックします。

1 つのヘルスマニターレポートには、いくつかの個別のヘルスチェックと、ヘルスチェックごとに使用可能な詳細が含まれています。

結果は次のようになります。

- **成功** – 問題は検出されませんでした。
- **警告** – 問題が検出されましたが、I/O ドメイン作成ツールによって自動的に解決されました。
- **失敗** – ユーザーの操作を必要とする問題が検出されました。詳細を確認し、問題を解決するために提示されているアクションを実行します。解決されたら、失敗をクリアします。

注記 – それ以降の I/O ドメインの配備および破棄アクティビティーは、すべての失敗がクリアされるまで無効になります。

3. 「詳細」リンクをクリックして、ヘルスチェックの詳細を表示します。

ヘルスチェックの失敗の詳細の例:

IO Domain Creation Tool Health Monitor

Health Check: Check for Unsanctioned Service Processor Configurations

The Service Processor configuration (*spconfig*) is a critical component of virtualized environments using *Oracle VM Server for SPARC* (LDom) technology. The *spconfig* stores metadata relating all domains on the system and the system resources that they are using. It is critical that the correct *spconfig* is running before creating or destroying IO Domains via the *IO Domain Creation Tool*.

This health check ensures that the current *spconfig* on each Physical Node with *Root Domains* installed is one that the *IO Domain Creation Tools* expects. Please be aware that other Health Check failures being reported may likely be a result of a change in service processor configuration, so please ensure that the running *spconfig* is the intended one before clearing any failures this Health Check may report.

Date executed: June 17, 2015, 9:13 p.m.
Result: Fail

Unexpected Service Processor Configuration (spconfig) found:
 An unexpected active *spconfig* has been detected on the Host 10.129.111.4.

Expected Service Processor configuration	don_test_20150616
Active Service Processor configuration	-

The following actions have been taken:
 The scheduler has disabled the deployment and destruction of IO Domains until this issue is resolved.

The following actions need to be taken to resolve this issue:
 Please read the following instructions carefully, as it is important that the detected issue be resolved by taking the correct actions.

A choice needs to be made to determine which of the two *spconfigs* listed above (either the *Expected spconfig* or the *Active spconfig*) should be used when resuming the IO Domain creation and destruction.

If the *Active spconfig* is the correct *spconfig* to use, then by clearing the existing failure from the Health Monitor page, this *spconfig* will be promoted as the active *spconfig* and IO Domain creation/destruction will resume.

If the *Expected spconfig* is the correct *spconfig* to use, then this *spconfig* needs to be set on the affected host (i.e. by running `ldm set-spconfig`) and that Physical Node will subsequently need to be restarted. Once the Physical Node is back online running the correct *spconfig*, then the final action required is to clear the failure for this Health Check from the Health Monitor page and IO Domain creation and destruction will resume. If you are unsure about how best to resolve this issue please contact Oracle Support.

4. 失敗が報告されている場合は、修正アクションを実行してから、失敗をクリアします。
 - a. 各失敗の詳細画面に説明されているアクションを実行します。
 - b. ヘルスモニターのメイン画面に戻ります。
 左側のナビゲーションパネルで、「ヘルスモニター」をクリックします。
 - c. クリアする各失敗のボックスにチェックマークを付けます。
 - d. 「失敗をクリア」をクリックします。
5. 次のアクションを検討します。

- ツールのアクティビティーをモニターします。
[118 ページの「ツールのアクティビティーのモニター \(管理者のみ\)」](#)を参照してください。
- 配備アクティビティーをモニターします。
[117 ページの「配備アクティビティーとリソース変更のモニター」](#)を参照してください。
- ログアウトします。
[37 ページの「I/O ドメイン作成ツールからのログアウト」](#)を参照してください。

I/O ドメインのデータベースを構成するための準備

次のトピックでは、データベース I/O ドメインのデータベースの構成を準備する方法について説明します。

- [123 ページの「I/O ドメインのデータベースを構成するための準備」](#)
- [124 ページの「データベース I/O ドメイン用ストレージサーバーのディスク領域の確認」](#)
- [125 ページの「OEDA の最新バージョンの入手」](#)
- [127 ページの「最新のデータベースバイナリファイルの入手」](#)

▼ I/O ドメインのデータベースを構成するための準備

データベース I/O ドメインのデータベースを設定する前に、次のタスクを完了します。

1. ストレージサーバー上のデータをバックアップします。
2. データベースおよびクラスタのレイアウトを計画します。
データベース I/O ドメインのデータベースの構成を開始する前に、次の決定をする必要があります。
 - 作成するクラスタの数、および各クラスタのメンバーとして所有するデータベース I/O ドメインの数
 - 作成する各クラスタの、次のネットワークの開始 IP アドレス。
 - 1GbE 管理ネットワーク
 - 10GbE クライアントアクセスネットワーク
 - プライベート IB ネットワーク
 - バックアップ/Data Guard ネットワーク (オプション)
3. ストレージサーバーのレイアウトを計画します。
このドキュメントのプロセスを開始する前に、ストレージサーバーのレイアウトに対して次の決定をする必要があります。

- 設定する予定のデータベース I/O ドメインおよびクラスタで使用可能なストレージサーバーの数およびディスク領域量
- 各クラスタに対する次のディスクグループのサイズ:
 - DATA
 - RECO
 - DBFS

▼ データベース I/O ドメイン用ストレージサーバーのディスク領域の確認

SuperCluster に既存のデータベースが存在する場合は、この手順を実行します。

データベース I/O ドメインの設定プロセスを開始する前に、まずストレージサーバー上で適切な容量のディスク領域が使用可能であることを確認する必要があります。

- クラスタ間でストレージサーバーを共有しておらず、データベース I/O ドメインに対して全ストレージサーバーが使用可能である場合、ここでは何も実行する必要はありません。この手順の一部として、全ストレージサーバーを新しいデータベース I/O ドメインに割り当てることができます。
- クラスタ間でストレージサーバーを共有している場合は、続行する前に、これらのデータベース I/O ドメインで使用しているストレージサーバーで使用可能な空き領域を決定する必要があります。



注意 - クラスタ間でストレージサーバーを共有している場合は、作成する計画の新しいクラスタ用のディスクグループのサイズを決定する前に、このセクションで示す手順を実行して、正確な情報を把握しておく必要があります。実行しないと、既存のディスクグループが上書きされてしまう可能性があります。

1. ストレージサーバーで使用可能な空き領域量を決定します。

```
CellCLI> list celldisk attributes name,freespace,freespacemap
```

例:

```
CD_00_etc25celadm01 366.6875G ((offset=162.046875G,size=366.6875G))
CD_01_etc25celadm01 366.6875G ((offset=162.046875G,size=366.6875G))
CD_02_etc25celadm01 393.8125G ((offset=164.046875G,size=393.8125G))
CD_03_etc25celadm01 393.8125G ((offset=164.046875G,size=393.8125G))
CD_04_etc25celadm01 393.8125G ((offset=164.046875G,size=393.8125G))
CD_05_etc25celadm01 393.8125G ((offset=164.046875G,size=393.8125G))
CD_06_etc25celadm01 393.8125G ((offset=164.046875G,size=393.8125G))
CD_07_etc25celadm01 393.8125G ((offset=164.046875G,size=393.8125G))
CD_08_etc25celadm01 393.8125G ((offset=164.046875G,size=393.8125G))
CD_09_etc25celadm01 393.8125G ((offset=164.046875G,size=393.8125G))
CD_10_etc25celadm01 393.8125G ((offset=164.046875G,size=393.8125G))
```

```

CD_11_etc25celadm01 393.8125G ((offset=164.046875G,size=393.8125G))
FD_00_etc25celadm01 0
FD_01_etc25celadm01 0
FD_02_etc25celadm01 0
FD_03_etc25celadm01 0
FD_04_etc25celadm01 0
FD_05_etc25celadm01 0
FD_06_etc25celadm01 0
FD_07_etc25celadm01 0
FD_08_etc25celadm01 0
FD_09_etc25celadm01 0
FD_10_etc25celadm01 0
FD_11_etc25celadm01 0
FD_12_etc25celadm01 0
FD_13_etc25celadm01 0
FD_14_etc25celadm01 0
FD_15_etc25celadm01 0

```

2. **CD_number** エントリを参照して、各ストレージサーバーで使用可能な領域量を決定します。
3. 各ストレージサーバーで使用可能な領域量に関する情報を使用して、作成する新しい各クラスタのディスクグループで利用できる領域量を決定します。
作成する新しい各クラスタの次のディスクグループに対しては、十分な領域を指定する必要があります。
 - DATA
 - RECO
 - DBFS (必要な場合)

▼ OEDA の最新バージョンの入手

1. データベース I/O ドメインにログインします。
2. OEDA の最新バージョンをダウンロードします。
 - a. **OneCommand** パッチの最新バージョンに関する情報とパッチへのアクセスを提供する **My Oracle Support** ノートを見つけます。
OneCommand パッチは 2 つの OEDA コマンドを提供します。
 - `config.sh - install.sh` で使用されるデータベース構成ファイルを作成するための OEDA GUI を起動します。
 - `install.sh` - データベースをインストールするために実行する、CLI のスクリプトセットを提供します。

次の My Oracle Support ノートにアクセスします。

<https://support.oracle.com/CSP/main/article?cmd=show&type=NOT&id=888828.1>

注記 - このサポートノートはいつでも使用できるようにしておいてください。あとで [127 ページの「最新のデータベースバイナリファイルの入手」](#) で、このサポートノートから追加のパッチを取得します。

- b. 必要な Oracle データベースのバージョンに対応する最新の OneCommand パッチを選択します。**

「Oracle Exadata Deployment Assistant (OEDA)」という見出しの下にある表を使用します。



注意 - パッチ 19766190 以降をダウンロードする必要があります。

通常、最新のパッチは表の最上部に表示されており、ほかのパッチよりも番号が大きくなります。たとえば、パッチ 18339988 は、パッチ 18222644 よりも新しいバージョンのパッチになります。

- c. OEDA を使用中のマシンのオペレーティングシステムで、「プラットフォーム(言語)」フィールドから適切なオプションを選択します。**

オプションは、次のとおりです。

- Apple Mac OS X (Intel) (64 ビット)
- Microsoft 画面 (32 ビット)
- Linux x86-64
- x86-64 (64 ビット) 上の Oracle Solaris
- SPARC (64ビット) 上の Oracle Solaris

注記 - OEDA の `config.sh` スクリプト (以降のタスクで使用) は、サポートされている OS のいずれかを実行している任意のシステム上で実行できます。ただし、OEDA の `install.sh` スクリプト (以降のタスクでも使用) は、OEDA の Solaris (SPARC) バージョンが必要な最初の I/O ドメイン上で実行する必要があります。あとで [149 ページの「データベースのインストール \(install.sh\)」](#) で、`config.sh` スクリプトによって作成されたファイルを I/O ドメイン上で `install.sh` で使用できます。

- d. 「ダウンロード」ボタンをクリックして、パッチをダウンロードします。**

- e. OneCommand パッチの zip ファイルを解凍します。**

- 3. すべてのデータベース I/O ドメインに対してこのタスクを繰り返してから、次のタスクを実行します。**

[127 ページの「最新のデータベースバイナリファイルの入手」](#) に進みます。

▼ 最新のデータベースバイナリファイルの入手

このタスクは前のタスクに似ていますが、代わりに最新のデータベースバイナリファイルを手に入れるように指示します。

1. **OEDA** を実行しているシステムに **Oracle JRE 1.6** 以降があることを確認します。
2. **WorkDir** ディレクトリを見つけます。
デフォルトでは、[125 ページの「OEDA の最新バージョンの入手」](#)で説明されているように、**WorkDir** ディレクトリは、**OneCommand** パッチをダウンロードしたディレクトリ内にあります。
3. 必要なすべての **Oracle** データベースのバイナリ **zip** ファイルを手に入れて、**WorkDir** ディレクトリ内に入れます。
 - a. 次のナレッジ記事に移動します。
<https://support.oracle.com/CSP/main/article?cmd=show&type=NOT&id=888828.1>
 - b. このナレッジ記事を使用して、データベース I/O ドメインにインストールしたいデータベースバージョンのバイナリ **zip** ファイルを手に入れます。次の項目の **zip** ファイルを手に入れます。
 - Oracle データベースソフトウェア
 - パッチ
 - c. バイナリ **zip** ファイルを **WorkDir** ディレクトリ内に入れます。
次は、**WorkDir** ディレクトリ内に入れるバイナリとパッチの **zip** ファイルの例です。
 - p13390677_112040_SOLARIS64_1of7.zip
 - p13390677_112040_SOLARIS64_2of7.zip
 - p13390677_112040_SOLARIS64_3of7.zip
 - p17628025_112040_SOLARIS64.zip
 - p6880880_112000_SOLARIS64.zip
4. 次の一連のタスクを実行します。
[129 ページの「データベース構成ファイルの作成 \(OEDA\)」](#)に進みます。

データベース構成ファイルの作成 (OEDA)

これらのトピックでは、OEDA (config.sh ツール) を使用して構成ファイルを作成する方法について説明します。

注記 - このセクションの手順では、データベース I/O ドメインの設定方法のみを説明します。アプリケーション I/O ドメインにはこれらの手順を使用しないでください。

- [129 ページの「重要な注意」](#)
- [130 ページの「XML 構成ファイルのエクスポート」](#)
- [131 ページの「OEDA の起動」](#)
- [133 ページの「最新の構成ファイルのインポート」](#)
- [134 ページの「既存の構成情報の確認」](#)
- [135 ページの「「Identify Compute Node Operating System」 ページの確認」](#)
- [136 ページの「「Management and Private Networks」 ページの確認」](#)
- [138 ページの「「Define Clusters」 ページへの入力」](#)
- [141 ページの「「Cluster」 ページへの入力」](#)
- [144 ページの「クラスタの「Review and Edit SCAN, Client, VIP, and Optional Backup Networks」 ページへの入力」](#)
- [146 ページの「残りの構成情報の確認」](#)
- [146 ページの「構成ファイルの生成」](#)

重要な注意



注意 - このセクションのタスクを実行する前に、既存のすべてのデータベースを必ずバックアップしてください。



注意 - 最新バージョンの OEDA および Java OneCommand パッチ (パッチ 19766190 以降) を使用する必要があります。詳細は、MOS ノート 888828.1 で Oracle Exadata Deployment Assistant (OEDA) に関するセクションを参照してください。

▼ XML 構成ファイルのエクスポート

データベースのインストール時にデータベース構成情報を提供するために使用される XML ファイルを生成するには、この手順を使用します。

これらの手順では、I/O ドメイン作成ツールを使用して次のアクティビティを実行済みであることを前提としています。

- 2 つ以上のデータベース I/O ドメインの作成
- 2 つ以上のデータベース I/O ドメインの配備

詳細については、[86 ページの「データベース I/O ドメインの構成」](#)を参照してください。

プロセスのこの時点で、データベース I/O ドメインは作成および配備しましたが、データベース I/O ドメインでストレージサーバーやデータベースソフトウェアは設定していません。

1. **I/O ドメイン作成ツールにアクセスします。**
[35 ページの「I/O ドメイン作成ツールへのログイン」](#)を参照してください。
2. **追加のストレージサーバーがシステムに追加された場合は、該当するストレージサーバータイプをツールに構成します。**
[47 ページの「追加されたストレージサーバーをツールに構成する \(管理者\)」](#)を参照してください。
3. **ナビゲーションパネルで、「I/O ドメイン」を選択します。**
「I/O ドメイン」画面が表示されます。

- 構成する各データベース I/O ドメインの隣にあるチェックボックスをクリックします。

ORACLE IO Domain Creation Tool

User: admin » Role: Administrator » Language: en

IO Domains

List of IO Domains

ID	Hostname	Domain Type	Physical Host	Owner	RAC ID	State	Details	
5	fred	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 1	service	n/a	Ready for Use	View	
6	db-test-1	Oracle Database Domain	M7 PDom 2	admin	1	Ready for Use	View	
7	app-test-1	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 1	admin	n/a	Ready for Use	View	
☒	8	db01-mgt	Oracle Database Domain	M7 PDom 1	admin	1	Resources Allocated	View
9	app01-mgt	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 2	admin	n/a	Ready for Use	View	
10	WLogic01	Weblogic 12.1.3 Sol 11.3 b22	M7 PDom 1	admin	n/a	Resources Allocated	View	
11	AppABC	Solaris 11 Application Domain	M7 PDom 2	user01	n/a	Ready for Use	View	
☒	12	dbXYZ	Oracle Database Domain	M7 PDom 1	user01	1	Resources Allocated	View
☒	13	WebLogic	Weblogic 12.1.3 Sol 11.3 b22	M7 PDom 1	user01	n/a	Resources Allocated	View

List of SCAN Address Groups

Hostname	Address 1	Address 2	Address 3	Owner	RAC ID
io-scan-2	.147	.148	.149	admin	1
io-scan-3	.150	.151	.152	user01	1

- 「JOC 用にエクスポート」をクリックします。
この構成ファイルを保存するかどうかを尋ねる画面が表示されます。
このアクションによって構成ファイルが作成され、このファイルをあとで `install.sh` コマンドで使用してデータベースをインストールします。
- 構成ファイルの保存先とするディレクトリに移動します。
デフォルトでは、構成ファイルの名前は `joc_import.xml` になります。ほかの構成ファイルから区別できるように、この構成ファイルの名前を変更して一意の名前にします。
- 「保存」をクリックします。
- 次のタスクに進みます。
131 ページの「OEDA の起動」に進みます。

▼ OEDA の起動

- OneCommand (ocmd_) ZIP ファイルの解凍後に作成されたディレクトリに変更します。

2. OEDA を起動します。

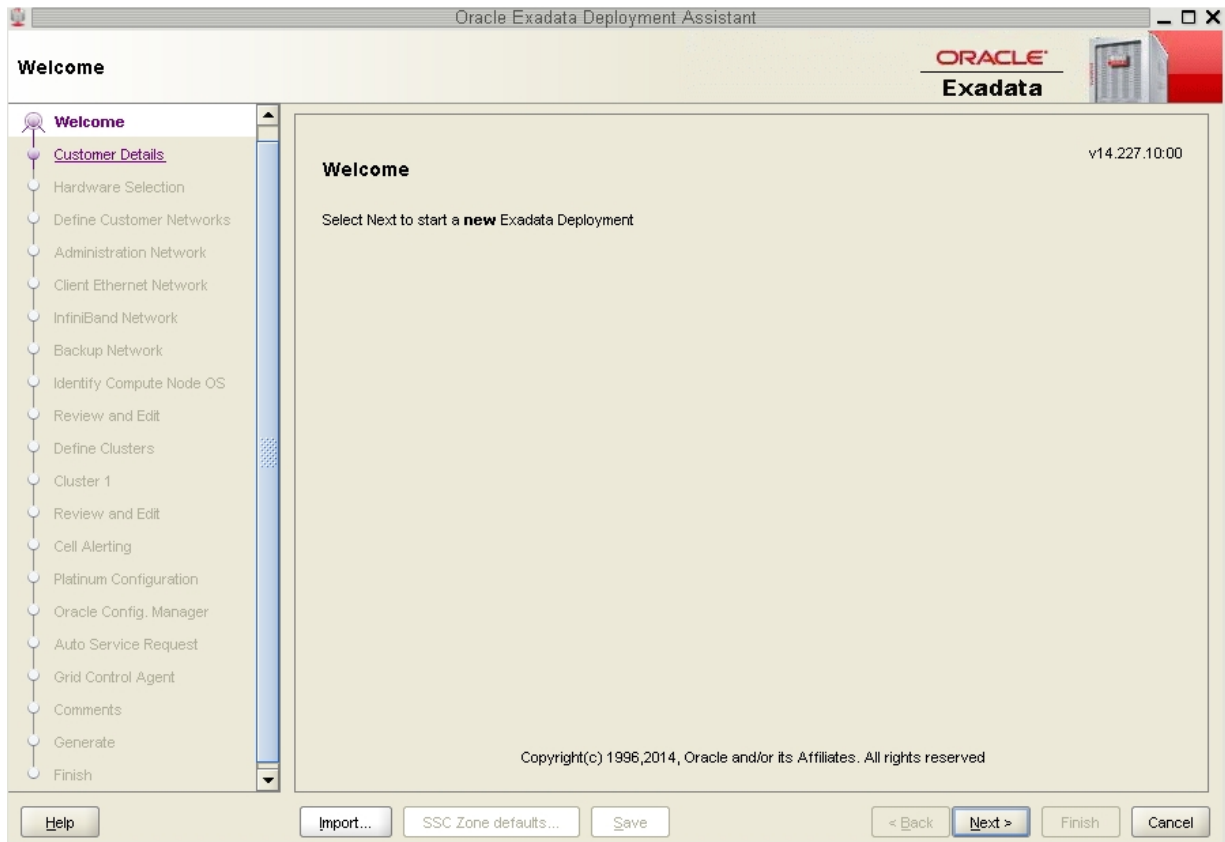
- Linux、MacOS、または Oracle Solaris OS では、次のように入力します。

```
config.sh
```

- Microsoft Windows では、次のように入力します。

```
config.cmd
```

OEDA の「Welcome」ウィンドウが表示されます。



3. OEDA XML 入力ファイルをインポートします。

133 ページの「最新の構成ファイルのインポート」に進みます。

▼ 最新の構成ファイルのインポート

1. 「Welcome」 ページの下部にある「Import」 ボタンをクリックします。
OneCommand ディレクトリをデフォルトの場所として、ポップアップウィンドウが表示されます。
2. 構成中のデータベース I/O ドメインの構成ファイルが入っているフォルダに移動します。
[130 ページの「XML 構成ファイルのエクスポート」](#)を参照してください。
3. そのフォルダ内で構成ファイルをインポートします。
構成ファイルが、以前に構成したデータベース I/O ドメイン用の古い構成ファイルではなく、構成中の適切なデータベース I/O ドメイン用の正しいファイルであることを確認してください。
4. 「Welcome」 ウィンドウで「Next」 をクリックします。

「Customer Details」ページが表示されます。

5. 構成情報を確認します。
134 ページの「既存の構成情報の確認」に進みます。

▼ 既存の構成情報の確認

作成したデータベース I/O ドメインの構成ファイルをインポートすると、その構成用に提供した情報が OEDA の各ページのフィールドに入力されます。その情報には、Oracle SuperCluster 内のすべてのコンポーネントおよびドメインに関する各ネットワークの IP アドレスとホスト名が含まれます。正しく構成されたシステム上にデータベース I/O ドメインを設定する場合、OEDA の最初の一連の画面に表示される情報はどれも変更しないでください。

1. 既存の構成情報を確認します。

次に示す OEDA の画面に進み、構成情報を確認して各ページの下部にある「Next」をクリックします。

注記 - 次の画面の情報は変更しないでください。

- 「Customer Details」 ページ
- 「Hardware Selection」 ページ
- 「Define Customer Networks」 ページ
- 「Administration Network」 ページ
- 「Client Ethernet Network」 ページ
- 「IB Network」 ページ
- 「Backup/Data Guard」 ページ

「Identify Compute Node Operating System」 ページが表示されたときに停止します。

2. 「Identify Compute Node Operating System」 ページの情報を確認します。

135 ページの「[「Identify Compute Node Operating System」 ページの確認](#)」に進みます。

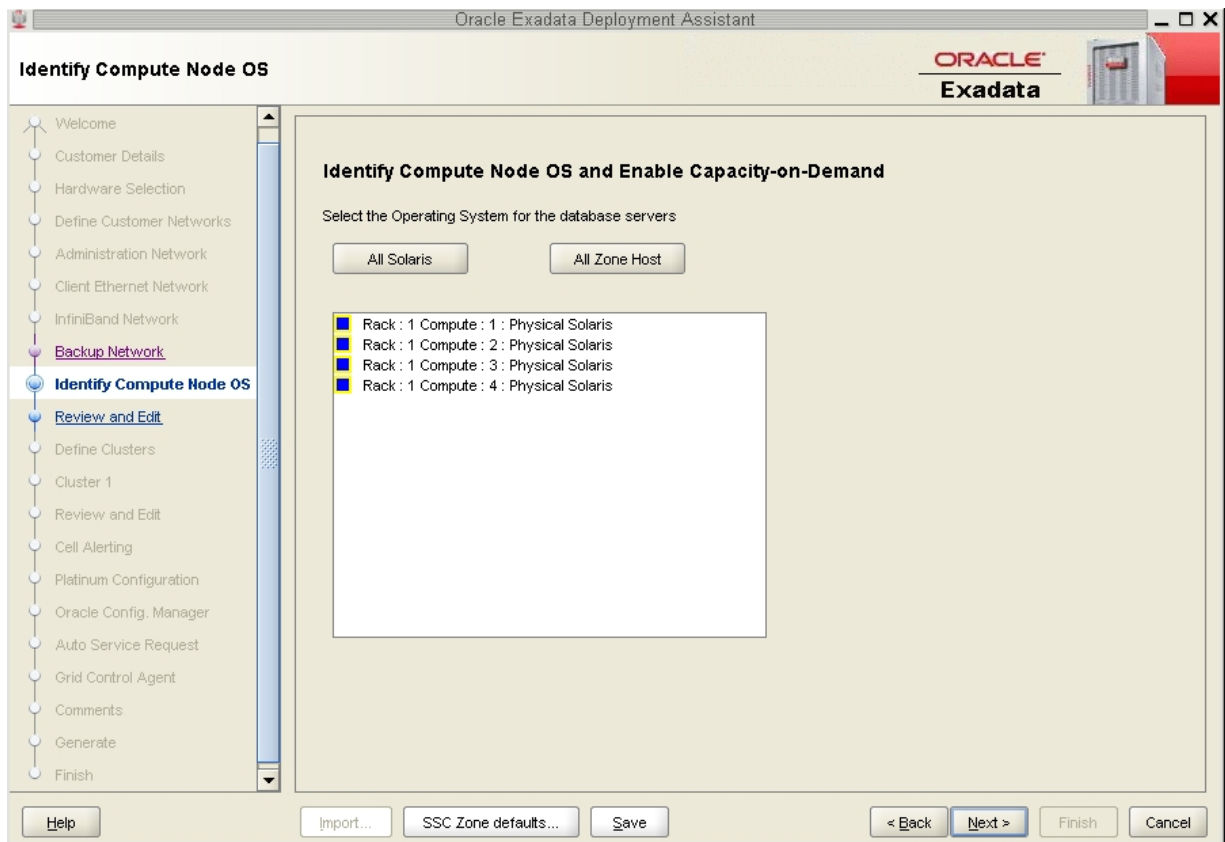
▼ 「Identify Compute Node Operating System」 ページの確認

1. 「Identify Compute Node Operating System」 ページの情報を確認します。

注記 - 「Identify Compute Node Operating System」 ページの情報は変更しないでください。

「Identify Compute Node Operating System」 ページには、[130 ページの「XML 構成ファイルのエクスポート」](#)で特定のデータベース I/O ドメインを選択した場合に構成するデータベース I/O ドメインが表示されます。これらのデータベース I/O ドメイン

は、このスクリーンショットのように、「Physical Solaris」 タグ付きで表示される必要があります。



2. 「Next」 をクリックします。
「Review and Edit」 ページが表示されます。
3. 「Management and Private Networks」 ページの情報を確認します。
[136 ページの「「Management and Private Networks」 ページの確認」](#)に進みます。

▼ 「Management and Private Networks」 ページの確認

1. 「Management and Private Networks」 ページの情報を確認します。

注記 - 「Management and Private Networks」ページの情報はどれも変更しないでください。

「Management and Private Networks」ページには、次のコンポーネントに関する管理ネットワークおよび IB ネットワークのアドレスとホスト名の情報が表示されます。

- データベース I/O ドメイン
- ストレージサーバー
- スイッチおよび PDU

The screenshot shows the Oracle Exadata Deployment Assistant (OEDA) interface. The title bar reads 'Oracle Exadata Deployment Assistant'. The main window has a 'Review and Edit' tab selected. On the left is a navigation pane with a tree view containing steps: Welcome, Customer Details, Hardware Selection, Define Customer Networks, Administration Network, Client Ethernet Network, InfiniBand Network, Backup Network, Identify Compute Node OS, Review and Edit (highlighted), Define Clusters, Cluster 1, Review and Edit, Cell Alerting, Platinum Configuration, Oracle Config. Manager, Auto Service Request, Grid Control Agent, Comments, Generate, and Finish. The main content area is titled 'Management and Private Networks'. It contains a description: 'This page captures node specific data for the Management, ILOM and Private Networks for the Compute Nodes, Storage Cells and the switches used in the Rack. The Client, VIP, SCAN and backup network names/IP address are collected later in the interview process.' Below this are two buttons: 'Re-Generate Data' and 'Lookup IP'. The main area displays configuration for four 'Exadata SuperCluster T5 Compute Node' entries. Each entry has fields for 'Admin Name', 'Ilom Name', 'Priv Name', 'Admin IP', 'Ilom IP', and 'Priv IP'. The rack locations are specified as 'Rack 1 - Rack Location 10', 'Rack 1 - Rack Location 27', 'Rack 1 - Rack Location 43', and 'Rack 1 - Rack Location 44'. At the bottom of the window are buttons for 'Help', 'Import...', 'SSC Zone defaults...', 'Save', '< Back', 'Next >', 'Finish', and 'Cancel'.

2. 「Next」をクリックします。
「Define Clusters」ページが表示されます。
3. 「Define Clusters」ページに入力します。
138 ページの「「Define Clusters」ページへの入力」に進みます。

▼ 「Define Clusters」 ページへの入力

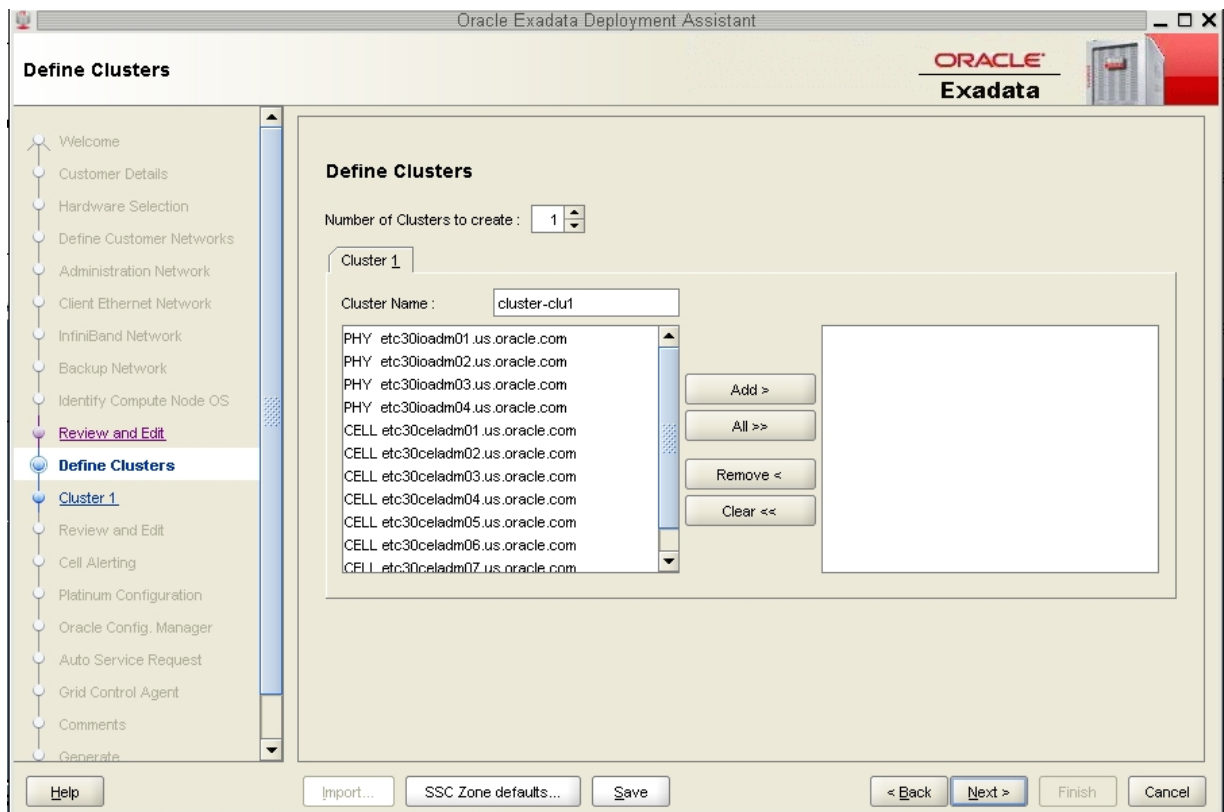
1. 「Define Clusters」 ページの情報を確認します。

「Define Clusters」 ページには、構成中のデータベース I/O ドメインと、Oracle SuperCluster にインストールされているストレージサーバーが表示される必要があります。

たとえば、次のような構成になっているとします。

- 8 台のストレージサーバーが搭載されたフルラック版の Oracle SuperCluster T5-8
- 現在構成中の 4 つのデータベース I/O ドメイン

次の画面が表示されます。



説明:

- 構成中の 4 つのデータベース I/O ドメインは、PHY 接頭辞付きで表示されます。

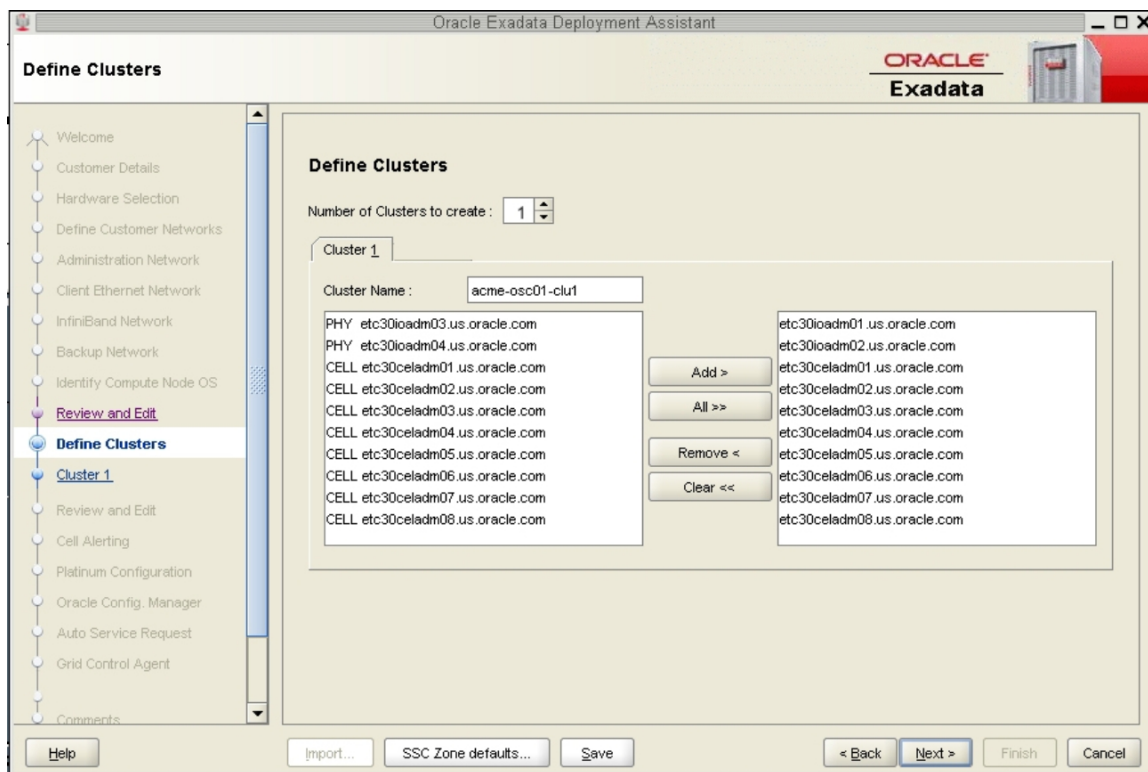
- Oracle SuperCluster 内の 8 台のストレージサーバーは、CELL 接頭辞付きで表示されます。
2. データベース I/O ドメインをどのように構成するかを決定します。
この画面で続行する前に、次の構成を決定します。
 - a. クラスタにどのデータベース I/O ドメインを含めるかを決定します。
 - b. 各クラスタでどのストレージサーバーを使用するかを決定します。
 3. 作成するクラスタの数が 1 に設定されていることを確認します。
 4. 次のように設定します。
 - a. 作成するクラスタのタブをクリックします。
この例では、クラスタ 1 をクリックします。
 - b. このクラスタに組織内で一意となる名前を入力します。
デフォルトでは、クラスタには `cluster-clunumber` というクラスタ名が割り当てられます (`cluster-clu1` など)。複数のシステムがシステムにまたがって同じクラスタ名を持っている場合、Enterprise Manager で問題が発生することがあるため、そのクラスタでデフォルトのクラスタ名を組織内で一意の名前に変更する必要があります (たとえば、`organization-systemname-clusternumber` として、`acme-osc01-clu1` のようにします)。
 - c. クラスタに追加するデータベース I/O ドメインを選択し、「Add」をクリックします。
データベース I/O ドメインは、左ペインで PHY として識別されます。
追加するデータベース I/O ドメインが右ペインに表示されます。
 - d. このクラスタに含めるストレージサーバーを選択し、「Add」をクリックします。

注記 - Oracle サポートのベストプラクティスでは、クラスタ間でストレージサーバーを分割するのではなく、各クラスタにすべてのストレージサーバーを割り当てるよう指示しています。

注記 - クラスタ間でストレージサーバーを共有している場合は、このクラスタに追加しようとしているストレージサーバーに、これらの新しいクラスタで利用できる十分な容量があることを最初に確認する必要があります。詳細については、[124 ページの「データベース I/O ドメイン用ストレージサーバーのディスク領域の確認」](#)を参照してください。

この図は新しいクラスタの例を示しており、クラスタに次のコンポーネントが割り当てられています。

- 最初の2つのデータベース I/O ドメイン
- 8 台のストレージサーバーすべて



5. クラスタにデータベース I/O ドメインとストレージサーバーを割り当てたら、「Next」をクリックします。
「Cluster」ページが表示されます。
6. 作成する各クラスタの「Cluster」ページに入力します。
[141 ページの「「Cluster」ページへの入力」](#)に進みます。

▼ 「Cluster」 ページへの入力



注意 - DATA および RECO ディスクグループの名前を指定するときは細心の注意を払ってください。名前は定義中のクラスタで一意でなければなりません。ストレージセルで既存のグリッドディスクを調べて、それらが使用中でないことを確認します。既存のグリッドディスクを新規クラスタ用に指定すると、古いバージョンの Java OneCommand (パッチ 19766190 より前) によってそのグリッドディスクがドロップされて再作成され、結果として本番データが失われる可能性があります。

左ペインには、この演習の一環として作成している各新規クラスタのクラスタ構成ページがあります。

1. 作成している最初の新規クラスタのクラスタ構成ページを確認します。

The screenshot shows the 'Cluster 1' configuration page in the Oracle Exadata Deployment Assistant. The left sidebar contains a navigation tree with the following items: Welcome, Customer Details, Hardware Selection, Define Customer Networks, Administration Network, Client Ethernet Network, InfiniBand Network, Backup Network, Identify Compute Node OS, Review and Edit, **Define Clusters**, **Cluster 1**, Review and Edit, Cell Alerting, Platinum Configuration, Oracle Config. Manager, Auto Service Request, Grid Control Agent, Comments, Generate, and Finish. The main content area is titled 'Cluster 1' and contains the following sections:

- Cluster 1**: Cluster name: me-osc01-clu1, Physical Cluster. Prefix: etc30. DNS: [empty], [empty], [empty]. NTP: [empty], [empty], [empty]. Domain Name: us.oracle.com. Region: America, Time Zone: Los_Angeles.
- Users and Groups**: ☐ Role Separated. User name: oracle, ID: 1001, base: /u01/app/oracle. DBA Group name: dba, ID: 1002. OINSTALL Group name: oinstall, ID: 1001.
- Software Locations**: Inventory Location: /u01/app/orainventory. Grid Infrastructure Home: 11.2.0.4 BP10, /u01/app/11.2.0.4/grid. Database Home Location: 11.2.0.4 BP10, /u01/app/oracle/product/11.2.0.4/dbhome_1. Software Languages: en.
- Disk Group Details**: Diskgroup Layout: ☐ Legacy 80%:20%, ☐ Legacy 40%:60%, ☒ Custom. DBFS DiskGroup: DBFS_DG, NORMAL, Size: [empty], Info... DATA DiskGroup: DATA1, HIGH, Size: 3TB. RECO DiskGroup: RECO1, HIGH, Size: 2TB.
- Initial Database**: Database Name: dbm01, Block Size: 8192, Type: ☒ OLTP, ☐ DW.
- Client Network**: Base Adapter: Client, Domain: us.oracle.com. Start IP: [empty], Pool size: 7. Gateway IP: [empty]. Name mask: etc30%%, Start Id: 1. VIP Name mask: etc30%%-vip, Start Id: 1. SCAN Name: etc30-scan.

At the bottom, there are buttons for Help, Import..., SSC Zone defaults..., Save, < Back, Next >, Finish, and Cancel.

2. 「Software Locations」 で、次の項目のデータベースバージョンを定義します。

- グリッドインフラストラクチャーホーム

- データベースホームの場所

3. 「Disk Group Details」で、次の情報を指定します。

- 「Diskgroup Layout」で、次のオプションのいずれかを選択します。
 - Legacy 80%:20% — ディスクグループに次のサイズを割り当てます。
 - DBFS ディスクグループ: デフォルトサイズ (この選択での DBFS ディスクグループのデフォルトサイズは、ディスク 0 および 1 のオペレーティングシステムディスクスライスのサイズで、通常は 29G バイトから 31G バイトの間です)
 - DATA ディスクグループ: 80% サイズ
 - RECO ディスクグループ: 20% サイズ
 - Legacy 40%:60% — ディスクグループに次のサイズを割り当てます。
 - DBFS ディスクグループ: デフォルトサイズ (この選択での DBFS ディスクグループのデフォルトサイズは、ディスク 0 および 1 の OS ディスクスライスのサイズで、通常は 29G バイトから 31G バイトの間です。)
 - DATA ディスクグループ: 40% サイズ
 - RECO ディスクグループ: 60% サイズ
 - Custom — 独自のサイズをディスクグループに割り当てることができます
- このクラスタのディスクグループに一意の名前を指定します。この例では、これらの名前が指定されています。

注記 - ディスクグループ名は最大 8 文字に制限されています。

- DBFS ディスクグループ: DBFS_DG
- DATA ディスクグループ: DATAC1
- RECO ディスクグループ: RECO1
- ディスクグループ (DBFS、DATA、および RECO) の冗長性レベルを選択します。選択肢は、次のとおりです。
 - UNUSED (DBFS ディスクグループのみ)
 - NORMAL
 - HIGH
- このクラスタのディスクグループ (DBFS、DATA、および RECO) のサイズを構成します。

注記 - クラスタ間でストレージサーバーを共有している場合は、[124 ページの「データベース I/O ドメイン用ストレージサーバーのディスク領域の確認」](#)の手順に従って、各ディスクグループのストレージサーバー内の空き容量を調べます。この場合は、ディスクグループにカスタムのサイズ設定を使用します。

4. 必要に応じて、「Database Name」フィールドにクラスタ固有の変更を加えます。

5. このページの残りの情報を確認し、必要に応じて変更します。
6. このクラスタのページへの入力が終わったら、「Next」をクリックします。
作成する次のクラスタの「Cluster」ページが表示されます。
7. クラスタごとに[ステップ 1](#) から [ステップ 6](#) を繰り返します。
8. 最後の新規クラスタの設定が終わったら、「Next」をクリックします。
9. クラスタの「Review and Edit SCAN, Client, VIP, and Optional Backup Networks」ページに入力します。
[144 ページの「クラスタの「Review and Edit SCAN, Client, VIP, and Optional Backup Networks」ページへの入力」に進みます。](#)

▼ クラスタの「Review and Edit SCAN, Client, VIP, and Optional Backup Networks」ページへの入力

1. クラスタの「Review and Edit SCAN, Client, VIP, and Optional Backup Networks」ページの情報を確認し、必要に応じて変更します。

この図のように、新規クラスタが表示され、それらのクラスタにデータベース I/O ドメインが含まれます。

The screenshot shows the Oracle Exadata Deployment Assistant (OEDA) interface. The title bar reads 'Oracle Exadata Deployment Assistant'. The main window is titled 'Review and Edit' and contains the 'Review and Edit SCAN, Client, VIP and optional Backup Networks' section. On the left is a vertical navigation pane with steps: Welcome, Customer Details, Hardware Selection, Define Customer Networks, Administration Network, Client Ethernet Network, InfiniBand Network, Backup Network, Identify Compute Node OS, Review and Edit (highlighted), Define Clusters, Cluster 1, Cell Alerting, Platinum Configuration, Oracle Config. Manager, Auto Service Request, Grid Control Agent, Comments, Generate, and Finish. The main area displays configuration for 'Cluster acme-osc01-clu1'. It includes a 'Re-Generate' and 'Lookup IP' button. The SCAN Name is 'io-scan-1'. The SCAN IP is configured with three addresses: 1, 152, 153, 154. Below this are two 'Compute Node' sections. 'Compute Node 1' has Client Name 'etc30ioclient01.us.oracle.com', IP '3.150', VIP Name 'etc30ioclient01-vip.us.oracle.com', and IP '3.151'. 'Compute Node 2' has Client Name 'etc30ioclient02.us.oracle.com', IP '3.155', VIP Name 'etc30ioclient02-vip.us.oracle.com', and IP '3.156'. At the bottom are buttons for 'Help', 'Import...', 'SSC Zone defaults...', 'Save', '< Back', 'Next >', 'Finish', and 'Cancel'.

2. 「Next」をクリックします。
「Cell Alerting」ページが表示されます。

注記 - このページで「Next」をクリックしたときに表示されるエラーメッセージは、重複した IP アドレスがあることを示します。それらの重複している IP アドレスを「Review and Edit」ページで修正し、「Next」を再度クリックして「Cell Alerting」ページに進みます。

3. 残りの構成情報が正しいことを確認します。
[146 ページの「残りの構成情報の確認」](#)に進みます。

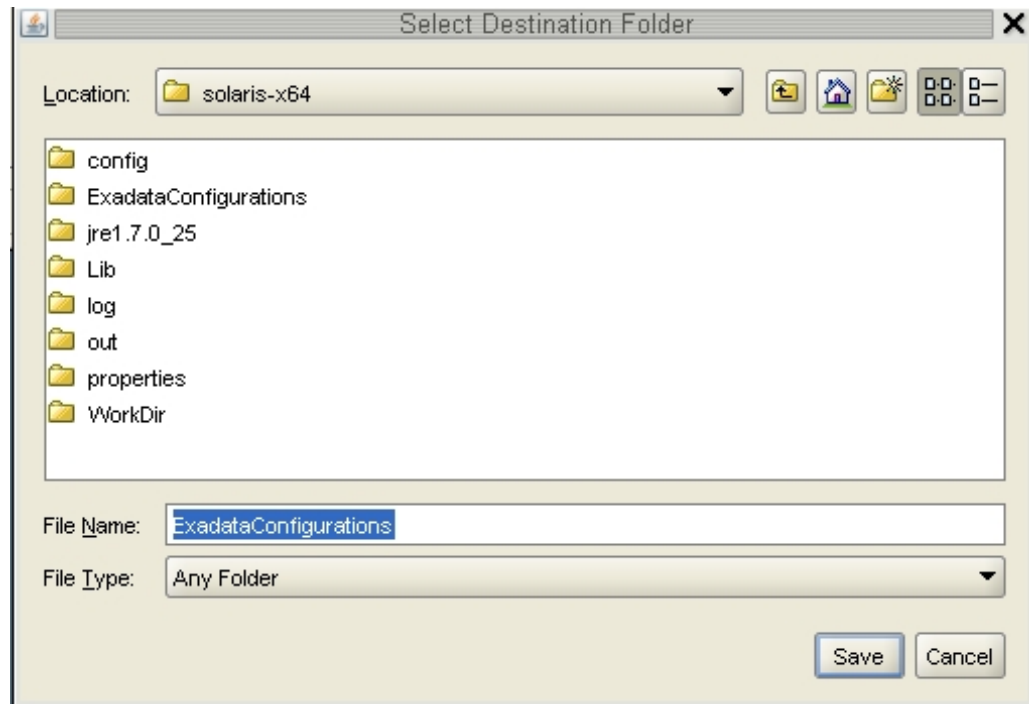
▼ 残りの構成情報の確認

1. 次の画面の構成情報が正しいことを確認します。
 - 「Cell Alerting」 ページ
 - 「Oracle Configuration Manager」 ページ
 - 自動サービスリクエスト
 - Grid Control Agent
2. 「Comments」 ページで、この配備に役立つ可能性のある追加情報を入力し、「Next」 をクリックします。
3. 構成ファイルを生成します。
[146 ページの「構成ファイルの生成」](#)に進みます。

▼ 構成ファイルの生成

1. 「Generate」 ページで「Next」 をクリックします。

「宛先フォルダの選択」ポップアップ画面が表示されます。



2. 適切なディレクトリに移動し、この配備の構成フォルダの名前を入力し、「保存」をクリックします。
確認ウィンドウが開き、今保存した構成フォルダへのリンクが表示されます。
3. 「Finish」をクリックします。
OEDA が閉じます。
4. データベース I/O ドメインおよびクラスタの構成ファイルが、この配備の構成フォルダに存在することを確認します。
この配備の新しい構成ファイルがある構成フォルダに移動すると、次のファイルがあるはずです。
 - 追加した 2 つのクラスタ用の新しい個々の構成ファイル 2 個 (`customer-name-name-prefix-cluster-clucluster-number.xml` と表示される)
 - システム上に設定したデータベース I/O ドメインおよびクラスタに関する構成情報を含む更新済みのマスターファイル 1 個 (`customer-name-name-prefix.xml` と表示されます)
5. データベース I/O ドメインにデータベースをインストールします。

[149 ページの「I/O ドメインへのデータベースのインストール」に進みます。](#)

I/O ドメインへのデータベースのインストール

次のトピックでは、データベース I/O ドメインに Oracle データベースをインストールする方法について説明します。

- [149 ページの「重要な注意」](#)
- [149 ページの「データベースのインストール \(install.sh\)」](#)

重要な注意



注意 - install.sh スクリプトを実行する前に、必ず既存のデータベースをすべてバックアップしてください。



注意 - 最新バージョンの OEDA および Java OneCommand パッチ (パッチ 19766190 以降) を使用する必要があります。詳細は、MOS ノート 888828.1 で Oracle Exadata Deployment Assistant (OEDA) に関するセクションを参照してください。



注意 - パッチ 19766190 より前のどのバージョンの Java OneCommand でも、特定のステップ (たとえば、セルディスクの作成) で undo オプションを実行すると、ストレージセルディスクとグリッドディスクが破棄される可能性があります。これが原因で、ストレージセル上のすべてのグリッドディスクが完全に破棄される可能性があります。さらに、グリッドディスクの作成ステップを再実行したり、OEDA 内の一意ではないディスクグループを誤って指定したりすると、既存のグリッドディスクが破棄されます。旧バージョンの Java OneCommand を使用すると、「Create Cell Disks」のステップでセルディスクとグリッドディスクも破棄されることに注意してください。

▼ データベースのインストール (install.sh)

1. データベース I/O ドメインとクラスタを設定したときに OEDA プロセスの最後に生成された構成ファイルを見つけます。
作成した新しいクラスタの構成ファイルの名前は、`customer-name-name-prefix-cluster-clucluster-number.xml` にするとよいでしょう。

2. `install.sh` というデータベースのインストールスクリプトを見つけます。

デフォルトでは、125 ページの「[OEDA の最新バージョンの入手](#)」で説明されているように、`Jinstall.sh` スクリプトは、OneCommand パッチをダウンロードしたディレクトリ内にあります。

3. 新しいクラスタ構成ファイルを使用して、`install.sh` スクリプトで実行できる機能のリストを表示します。

```
./install.sh -cf /path-to-config-file/customer-name.name-prefix.xml -l
```

例:

```
./install.sh -cf /path-to-config-file/Acme-osc01-cluster-clu1.xml -l
```

次のような情報が表示されます。

```
1. Validate Configuration File
2. Setup Required Files
3. Create Users
4. Setup Cell Connectivity
5. Verify IB and Calibrate Cells
6. Create Cell Disks
7. Create Grid Disks
8. Install Cluster Software
9. Initialize Cluster Software
10. Install Database Software
11. Relink Database with RDS
12. Create ASM Diskgroups
13. Create Databases
14. Apply Security Fixes
15. Create Installation Summary
16. Resecure Machine
```

表示される出力と、各ステップに割り当てられている番号は、OEDA で行なった構成の選択によって異なります。

4. **重要** – 次に示すステップはどれも実行しないでください。

- IB を検証してセルを測定します (前の出力例のステップ 5)
- セルディスクを作成します (前の出力例のステップ 6)
- セルアラートを構成します (前の出力例では示されていません)

5. OEDA プロセスの最後に生成されたクラスタ構成ファイルを入力として使用して、適切なステップを実行します。

```
./install.sh -cf customer-name.name-prefix.xml -s step-number
```

ここで、`step-number` は、順番に実行する各ステップの番号です。例:

```
./install.sh -cf Acme-osc01-cluster-clu6.xml -s 1
```

次のものを除くすべてのステップを実行します。

- IB を検証してセルを測定します
- セルディスクを作成します
- セルアラートを構成します

-r オプションを使用して一連のステップを実行することもできます。たとえば、ステップ 1-4 を実行する場合は、次のように入力します。

```
./install.sh -cf Acme-osc01-cluster-clu6.xml -r 1-4
```

6. **OEDA プロセスの最後に生成した新しいクラスタ構成ファイルごとに**[ステップ 3 - ステップ 5](#)**を繰り返します。**
7. **(プラチナモニター対象システム) 新しく作成する各 I/O ドメインに、プラチナインフラストラクチャーサービスを作成します。**

手順については、<https://support.oracle.com> にサインオンし、プラチナインフラストラクチャーサービス SR の作成方法 (ドキュメント ID 1958476.1) という MOS ナレッジ記事を参照してください。その指示に従います。エンジニアドシステムとターゲットには「SuperCluster」を選択します。問題タイプには「エージェント管理」を選択します。

用語集

A

アプリケーションドメイン

Oracle Solaris およびクライアントアプリケーションを実行するドメイン。

ASMM

自動共有メモリー管理。

ASR

自動サービスリクエスト。特定のハードウェア障害が発生した場合に自動的にサービスリクエストを開始する、Oracle または Sun のハードウェア機能。ASR は MOS と統合されており、サポート契約が必要です。MOSも参照してください。

B

ベース構成 PDomain

2 つまたは 4 つの PDomain で構成される SuperCluster M6-32 構成で、各 PDomain には 1 つの DCU が関連付けられています。ベース構成 PDomain は、1 つの計算サーバー上に存在させるか、2 つの計算サーバーに分散させることが可能です。計算サーバー、DCU、拡張構成 PDomain、および PDomainも参照してください。

C

計算サーバー

SuperCluster の主要コンポーネントである SPARC サーバーの短縮名。

Cisco Catalyst Ethernet スイッチ

SuperCluster 管理ネットワークを提供します。このドキュメントでは、短縮名「Ethernet 管理スイッチ」を使用して示します。Ethernet 管理スイッチも参照してください。

CMP

チップ多重処理。

CMU

CPU メモリーユニット。

COD

キャパシティーオンデマンド。

D

専用ドメイン	データベースドメインまたはアプリケーションドメイン (Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 OS を実行) のいずれかとしてインストール時に構成されたドメインを含む SuperCluster LDom カテゴリ。専用ドメインは 10GbE NIC および IB HCA (および存在する場合にはファイバチャネルカード) に直接アクセスします。 データベースドメイン および アプリケーションドメイン も参照してください。
データベースドメイン	SuperCluster データベースが含まれているドメイン。
DB	Oracle データベース。
DCU	ドメイン構成可能ユニット。SuperCluster M6-32 PDomain の最小構成単位。計算サーバーの各 DCU には、2 つまたは 4 つの CMU と 1 つの IOU が含まれています。 PDomain も参照してください。
DHCP	動的ホスト構成プロトコル。TCP/IP ネットワーク上のクライアントに自動的に IP アドレスを割り当てるソフトウェア。 TCP も参照してください。
DIMM	デュアルインラインメモリーモジュール。

E

拡張構成 PDomain	2 つの PDomain で構成される SuperCluster M6-32 構成で、各 PDomain には 2 つの DCU が関連付けられています。拡張構成 PDomain は、1 つの計算サーバー上に存在させるか、2 つの計算サーバーに分散させることが可能です。 ベース構成 PDomain 、 計算サーバー 、 DCU 、および PDomain も参照してください。
拡張ラック	SuperCluster に追加できるオプションの Oracle Exadata Storage Expansion Rack の短縮名。 Oracle Exadata Storage Expansion Rack も参照してください。
EECS	Oracle Exalogic Elastic Cloud ソフトウェア。
Ethernet 管理スイッチ	Cisco Catalyst Ethernet スイッチの短縮名。 Cisco Catalyst Ethernet スイッチ も参照してください。

F

フル配置 DCU 構成	計算サーバー内の各 DCU に 4 つの CMU を含む SuperCluster M6-32 構成。 DCU および 半数配置 DCU 構成 も参照してください。
FMA	障害管理アーキテクチャー。Oracle Solaris サーバーの機能で、エラーハンドラ、構造化されたエラー遠隔測定、自動化された診断ソフトウェア、応答エージェント、およびメッセージングが含まれています。

G

GB G バイト。1G バイト = 1024M バイト。

GbE ギガビット Ethernet。

GNS グリッドネーミングサービス。

H

半数配置 DCU 構成 計算サーバー内の各 DCU に 2 つの CMU を含む SuperCluster M6-32 構成。[DCU](#)および[フル配置 DCU 構成](#)も参照してください。

HCA ホストチャネルアダプタ。

I

I/O ドメイン ルートドメインがある場合、選択時に希望のリソースを使用して I/O ドメインを作成できます。I/O ドメイン作成ツールでは、CPU およびメモリーリポジトリから I/O ドメインにリソースを割り当てたり、ルートドメインによってホストされた仮想機能から I/O ドメインにリソースを割り当てたりできます。I/O ドメインを作成する際、これを Oracle Solaris 11 OS を実行するデータベースドメインまたはアプリケーションドメインとして割り当てます。[ルートドメイン](#)も参照してください。

IB InfiniBand。

IB スイッチ Sun Datacenter InfiniBand Switch 36 の短縮名。[リーフスイッチ](#)、[スパインスイッチ](#)、および [Sun Datacenter InfiniBand Switch 36](#)も参照してください。

ILOM [Oracle ILOM](#)を参照してください。

IPMI Intelligent Platform Management Interface。

IPMP IP ネットワークマルチパス。

iSCSI Internet Small Computer System Interface。

L

リーフスイッチ IB スイッチのうち 2 台はリーフスイッチとして構成され、3 台目はスパインスイッチとして構成されます。[IB スイッチ](#)も参照してください。

LDom 論理ドメイン。リソースの個別の論理グループで構成される仮想マシンであり、単一のコンピュータシステム内に独自のオペレーティングシステムと識別情報を保有します。LDom は Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアを使用して作成されます。[Oracle VM Server for SPARC](#) も参照してください。

M

MIB 管理情報ベース。

MOS My Oracle Support。

N

NET MGT SP 上のネットワーク管理ポート。[SP](#) も参照してください。

NIC ネットワークインタフェースカード。

NUMA 不均一メモリアクセス。

O

OBP OpenBoot PROM。プラットフォームに依存しないドライバをサーバーがデバイスから直接ロードできるようにし、計算サーバーの起動と低レベルの診断を実行できるインタフェースを提供する、SPARC サーバー上のファームウェア。

OCM Oracle Configuration Manager。

OEDA Oracle Exadata デプロイメントアシスタント

ONS Oracle Notification Service。

Oracle ASM Oracle Automatic Storage Management。Oracle データベースをサポートするボリュームマネージャーおよびファイルシステム。

Oracle Exadata Storage Expansion Rack 追加のストレージが必要になった SuperCluster M6-32 システムに追加できるオプションの拡張ラック (フル、半数、または 4 分の 1 構成)。このドキュメントでは、短縮名「[拡張ラック](#)」を使用して示します。[拡張ラック](#) も参照してください。

Oracle ILOM Oracle Integrated Lights Out Manager。サーバーをオペレーティングシステムから独立して管理できるようにする、SP 上のソフトウェア。[SP](#) も参照してください。

Oracle Solaris OS	Oracle Solaris オペレーティングシステム。
Oracle SuperCluster	すべての Oracle SuperCluster モデルを指します。
Oracle VM Server for SPARC	SPARC サーバーの仮想化およびパーティション技術。 LDom も参照してください。
Oracle ZFS ZS3-ES ストレージアプライアンス	ストレージラック内にあり、SuperCluster M6-32 に共有型ストレージ機能を提供します。このドキュメントでは、短縮名「ZFS ストレージアプライアンス」を使用して示します。 ZFS ストレージアプライアンス も参照してください。
OS	オペレーティングシステム。

P

パーク状態のリソース	CPU およびメモリーリポジトリで確保されている CPU およびメモリーリソース。パーク状態のリソースは、I/O ドメイン作成ツールを使用して I/O ドメインに割り当てます。
PCIe	Peripheral Component Interconnect Express。
PDomain	物理ドメイン。計算サーバー上の各 SuperCluster M6-32 PDomain は、障害の切り分けとセキュリティのためにハードウェア領域が完全に隔離された、個別に構成および起動できるエンティティです。
PDU	配電盤。
PF	物理機能。IB HCA、10GbE NIC、PCIe スロットに取り付けられたファイバチャネルカードなどの物理 I/O デバイスによって提供される機能。論理デバイスまたは仮想機能 (VF) は PF から作成されます。
POST	電源投入時自己診断。計算サーバーに電源が投入されたときに実行される診断。

Q

QMU	四半期ごとの保守アップデート。
QSFP	Quad Small Form-factor Pluggable (クワッドスモールフォームファクタプラグابل)。10GbE テクノロジー用トランシーバの仕様。

R

ルートコンプレックス	PCIe I/O ファブリックに基礎を提供する CMP 回路。各 PCIe I/O ファブリックは、ルートコンプレックスに関連付けられた PCIe スイッチ、PCIe スロット、およびリーフデバイスで構成されます。
ルートドメイン	インストール時に構成される論理ドメイン。ルートドメインは、I/O ドメインの構成を計画している場合に必要です。ルートドメインは、I/O ドメインが VF を取得する元となる PF をホストします。ルートドメインの CPU およびメモリーリソースの大部分は、あとで使用できるように I/O ドメインによってパーク状態にされます。
RAC	Real Application Cluster。
RCLB	実行時接続の負荷分散。
rKVMs	リモートのキーボード、ビデオ、マウス、およびストレージ。

S

ストレージサーバー	SuperCluster 内のストレージサーバー。
ストレージラック	ストレージサーバーを含む Oracle SuperCluster M6-32 ストレージラックの短縮名。
スパインスイッチ	SuperCluster の IB スイッチのうち、スパインスイッチとして構成されたもの。 IB スイッチ および リーフスイッチ も参照してください。
SAS	Serial Attached SCSI。
SATA	シリアル ATA。
SCAN	単一クライアントアクセス名。RAC 環境で使用される機能で、クラスターで実行されているすべての Oracle Database にアクセスするクライアント用の単一名を提供します。 RAC も参照してください。
SDP	Session Description Protocol。
SER MGT	SP 上のシリアル管理ポート。 SP も参照してください。
SFP および SFP+	スモールフォームファクタプラグابل標準。SFP+ は 10GbE テクノロジーのトランシーバの仕様です。
SGA	システムグローバル領域。
SMF	サービス管理機能。

SNMP	Simple Network Management Protocol。
SP	サービスプロセッサ。ホストから切り離されていて、ホストの状態に関係なくホストをモニターおよび管理するプロセッサ。SP はリモートの Lights Out 管理を提供する Oracle ILOM を実行します。SuperCluster M6-32 では、計算サーバー、ストレージサーバー、ZFS ストレージアプライアンスコントローラ、および IB スイッチ上に SP があります。 Oracle ILOM も参照してください。
SPARC サーバー	主要な計算リソースを提供する SuperCluster の主要コンポーネント。このドキュメントでは、短縮名「計算サーバー」を使用して示します。 計算サーバー も参照してください。
SR-IOV ドメイン	シングルルート I/O 仮想化ドメイン -- ルートドメインおよび I/O ドメインを含む SuperCluster 論理ドメインカテゴリ。このドメインのカテゴリは、シングルルート I/O 仮想化をサポートします。 I/O ドメイン および ルートドメイン も参照してください。
STB	Oracle Services Tool Bundle。
Sun Datacenter InfiniBand Switch 36	プライベートネットワーク上の SuperCluster M6-32 コンポーネントを相互接続します。このドキュメントでは、短縮名「IB スイッチ」を使用して示します。 IB スイッチ 、 リーフスイッチ 、および スパインスイッチ も参照してください。
T	
TCP	Transmission Control Protocol (伝送制御プロトコル)。
TNS	Transparent Network Substrate。
TPM	Trusted Platform Module。
U	
UPS	無停電電源装置。
V	
VF	仮想機能。PF から作成された論理 I/O デバイス。
VIP	仮想 IP。
VLAN	仮想ローカルエリアネットワーク。

VNET 仮想ネットワーク。

Z

ZFS ボリューム管理機能が追加されたファイルシステム。ZFS は Oracle Solaris 11 のデフォルトのファイルシステムです。

ZFS ストレージアプライアンス Oracle ZFS Storage ZS3-ES ストレージアプライアンスの短縮名。[Oracle ZFS ZS3-ES ストレージアプライアンス](#)も参照してください。

ZFS ストレージコントローラ Oracle ZFS ZS3-ES ストレージアプライアンス内のサーバーで、ストレージアプライアンスを管理します。[ZFS ストレージアプライアンス](#)も参照してください。

索引

あ

- アクティビティー、モニタリング, 117
- アプリケーションドメイン、説明, 21
- アプリケーション I/O ドメイン
 - IDR および SRU, 108
 - 作成, 92
- インストール
 - データベースを I/O ドメインに, 149
- エクスポート
 - Oracle Enterprise Manager のテキストファイル, 110
 - データベースインストール用 xml 構成ファイル, 130

か

- 概要
 - I/O ドメイン作成ツール, 11
 - I/O ドメインの構成, 18
 - 管理者ナビゲーションパネル, 12
 - 管理タスク, 17
 - ドメイン, 21
 - ユーザーナビゲーションパネル, 13
- 確認
 - 「Identify Compute Node」 ページ, 135
 - 「Management and Private Networks」 ページ, 136
 - 構成情報, 134
 - 構成ツールのインストール, 125
 - データベース I/O ドメイン用のディスク領域, 124
- 仮想機能, 22
- 管理
 - I/O ドメイン, 79
 - ユーザー, 49
 - リソース, 39

- レシピ (管理者), 67
- 管理者ナビゲーションパネル, 12
- 管理者ロール, 49
- 管理タスクの概要, 17
- クラスタノード
 - 1 つ削除, 113
 - すべて削除, 114
 - 「計算ノードの特定」 ページ、確認, 135
- 権限, 49
- 構成
 - IP アドレスの割り当て, 33
 - OVM テンプレートを使用した I/O ドメイン, 98
 - アプリケーション I/O ドメイン, 92
 - 追加されたストレージサーバーをツールに, 47
 - データベース I/O ドメイン, 86
 - ファイバチャネルインタフェース, 47
- 構成情報、確認, 134
- 構成ツールのインストール、確認, 125
- 構成ファイル
 - OEDA で作成, 129
 - インポート, 133
 - 生成, 146
 - データベース I/O ドメイン, 130
- 構成ファイルのインポート, 133
- 構成ファイルの生成, 146

さ

- 削除
 - I/O ドメイン, 113
 - クラスタからのすべてのノード, 114
 - クラスタからの単一ノード, 113
 - ユーザー (管理者), 65
 - レシピ (リソースとネットワーク), 75
- 作成
 - 構成ファイルを OEDA で, 129

- データベース I/O ドメインの構成ファイル, 130
- ネットワークレシピ, 72
- リソースレシピ, 70
- 作成方法, 79
- 「システムログ」画面 (管理者), 118
- 準備
 - データベース I/O ドメインの構成, 123
- ストレージリソース, 39
- セキュリティ、構成, 31
- 専用ドメインの説明, 21

た

- タスクの概要
 - I/O ドメインの構成, 18
 - 管理, 17
- ツールからのログアウト, 37
- ツールチップ, 37
- ツールの可用性、確認, 15
- ツールの可用性の確認, 15
- ツールの初期化, 25
- ツールへのアクセス, 35
- ツールへのログイン, 35
- データベース、最新のバイナリファイルの入手, 127
- データベースドメインの説明, 21
- データベース I/O ドメイン
 - 作成, 86
- データベース I/O ドメイン用のディスク領域、確認, 124
- デフォルト
 - リソースレシピ, 67
 - ログイン資格証明, 35
- ドメインの概要, 21
- ドメインのタイプ, 21

な

- ナビゲーション画面
 - I/O ドメイン, 83
 - OVM テンプレート (管理者のみ), 75
 - システムログ (管理者), 118
 - 設定, 31, 129
 - ネットワークリソース, 42
 - 配備キュー, 117

- 物理ホスト, 40
- プロファイル (ユーザー), 56
- ヘルスマニター (管理者), 119
- ユーザーおよび割り当て量 (管理者), 52
- レシピ, 68
- ナビゲーションパネル
 - 管理者, 12
 - ユーザー, 13
- 入力
 - 「Cluster Review」ページ, 144
 - 「Cluster」ページ, 141
 - 「Define Clusters」ページ, 138
- ネットワークリソース
 - 設定, 28
 - 編集 (管理者), 45
 - 「ネットワークリソース」画面, 42
- ネットワークリソース、表示, 42
- ネットワークレシピ、作成, 72

は

- バージョン、確認, 15
- ハードウェア設定, 129
- 配備
 - I/O ドメイン, 108
 - 「配備キュー」画面, 117
- パスワード
 - デフォルトの admin, 35
 - 変更 (ユーザー), 57
 - ユーザーの変更 (管理者), 59
 - ユーザーのリセット (管理者), 61
 - リセット (ユーザー), 58
- パスワードの変更
 - 管理者, 59
 - ユーザー, 57
- 必要な情報, 80
- 表示

- I/O ドメイン, 83
- ユーザー, 52
- リソース, 40
- リソース割り当て量 (ユーザー), 56
- レシピ (リソースとネットワーク), 68
- ファイバチャネルインタフェース、サポート, 47
- 物理機能, 22
 - 「物理ホスト」画面, 40
 - 「プロファイル」画面 (ユーザー), 56

「ヘルスマニター」画面 (管理者), 119

編集

I/O ドメインのリソース, 105

SCAN (管理者), 92

ネットワークリソース (管理者), 45

ユーザー属性 (管理者), 64

レシピ (リソースとネットワーク), 74

ま

メモリーリポジトリ, 22

モニタリング

I/O ドメインのアクティビティー (管理者), 118

アクティビティー, 117

健全性 (管理者), 119

や

ユーザー

管理, 49

計画, 50

削除, 65

追加, 52

電子メールアドレス, 64

表示, 52

リソースの割り当て, 54

ロールと権限, 49

「ユーザーおよび割り当て量」画面 (管理者), 52

ユーザー計画、ワークシート, 51

ユーザー計画ワークシート, 51

ユーザー属性、編集 (管理者), 64

ユーザーナビゲーションパネル, 13

ユーザーの追加, 52

ユーザーの電子メールアドレス, 64

ユーザーへのリソースの割り当て, 54

ユーザーロール, 49

ユーザーロールの設定, 64

要件、I/O ドメイン, 16

ら

リセット

パスワード (ユーザー), 58

ユーザーパスワード (管理者), 61

リソース

説明, 22

表示, 40

リソース割り当て量の表示 (ユーザー), 56

リソースレシピ、作成, 70

リポジトリ、CPU およびメモリー, 22

ルートドメイン, 22

ルートドメインの説明, 21

「レシピ」画面, 68

レシピ (ネットワーク)、作成, 72

レシピ (リソース)

作成, 70

デフォルト, 67

レシピ (リソースとネットワーク)

管理, 67

削除, 75

表示, 68

編集, 74

ロール、設定, 64

わ

割り当て計画, 50

A

admin のデフォルトパスワード, 35

C

「Cluster Review」ページ、入力, 144

「Cluster」ページ、入力, 141

CPU リポジトリ, 22

D

「Define Clusters」ページ、入力, 138

E

Exadata ストレージサーバー

追加されたストレージサーバーの構成, 47

I

I/O ドメイン

iSCSI LUN リソース, 39
OVM テンプレートを使用した作成, 98
アクティビティのモニタリング (管理者), 118
アプリケーションの作成, 92
管理, 79
健全性のモニタリング (管理者), 119
構成タスクの概要, 18
削除, 113
作成方法の選択, 79
説明, 21
データベースの作成, 86
配備, 108
必要な情報, 80
表示, 83
ユーザー計画ワークシート, 51
リソースの説明, 22
リソースの編集, 105
「I/O ドメイン」画面, 83
I/O ドメイン作成ツール
概要, 11
初期化, 25
チップ, 37
ネットワークの設定, 28
バージョンの確認, 15
要件, 16
ログアウト, 37
ログイン, 35
I/O ドメインユーザー、計画, 50
IDR, 108
install.sh
実行, 149
スクリプト, 127
install.sh スクリプトの実行, 149
IP アドレス、最小, 16
IP アドレスの割り当て、構成, 33
iSCSI LUN リソース, 39

L

「Large」リソースレシピ, 67

M

「Management and Private Networks」ページ、確認, 136

「Medium」リソースレシピ, 67

O

OEDA, 起動, 131
OEDA の起動, 131
Oracle Enterprise Manager のテキストファイル, 110
Oracle I/O ドメイン作成ツールについて, 11
osc-setcoremem, 22
OVM テンプレート
ツールへのアップロード, 75
「OVM テンプレート」画面 (管理者のみ), 75
OVM テンプレートのアップロード, 75
OVM テンプレートベースの I/O ドメイン
作成, 98

S

「Small」リソースレシピ, 67
SR-IOV ドメインの説明, 21
SRU, 108

X

xml 構成ファイル, 130